

## 0200迄 (1588件)

- 1年-09:00|日本| ||家畜、家禽が日本へ伝搬
- 1年-05:30|インド| ||1世紀、ローマ帝国との貿易隆盛、タミル地方でジャンガム文学はじまる
- 1年-05:30|インド| ||<即位>クシャナ朝初代君主「ハラハス」建国(〜30年)
- 1年-05:30|インド| ||大乘仏教がおこる、サンチ-第1塔がこのころ完成
- 1年-04:00|ジョージア| ||<死去>イベリア王「アルタシス2世」
- 1年-04:00|ジョージア| ||<即位>イベリア王「ファラヌス1世大王」ファルナグアス2世の孫(〜58年死去)
- 1年-03:00|イラク| ||<即位>エリマス王国(カハス朝)第11代国王「カハス朝8世(〜15年)」
- 1年-03:00|エチオピア/エメン| ||エチオピア高原北部の阿克苏王国、交易で繁栄し紅海をまたいでエメンに至る王国を形成
- 1年 05:00|ペルー| ||このころアンデスで脳外科手術がおこなわれる
- 1年 07:00|メソポタミア| ||このころ、メソポタミア盆地でソラマの栽培がはじまる
- 1年3月-08:00|中国| ||前漢・元始1年春|<就任>前漢・中山国「中山王劉成都」(〜始建国元年(9年)正月、中山公に格下げ)
- 1年3月13日-08:00|中国| ||前漢・元始1年2月|<就任>前漢・東平国「東平王劉開明」(〜5年)
- 1年11月4日-09:00|韓国| ||百済・温祚王18年10月|靺鞨が急襲してきた。王は軍を率いて七重河で迎え撃ち、酋長の素牟を捕らえて捕虜とし、馬韓に送った。その余の賊は全て生き埋めにした
- 2年-04:00|アルメニア| ||<即位>アルメニア王(アルタシス朝)「アリハルガネス」(〜4年)ローマ指名
- 2年2月1日-08:00|中国| ||前漢・元始2年正月|漢が人口調査を実施、人口5959万4978人
- 2年4月30日-08:00|中国| ||前漢・元始2年4月|<就任>前漢・広宗国「広宗王劉如意」(〜始建国元年(9年)正月、広宗公に格下げ)
- 2年4月30日-08:00|中国| ||前漢・元始2年4月|<就任>前漢・広世国「広世王劉宮」(〜始建国元年(9年)正月、広世公に格下げ)
- 2年4月30日-08:00|中国| ||前漢・元始2年4月|<就任>前漢・広徳国「広徳夷王劉倫」
- 2年11月22日-09:00|韓国| ||新羅・赫居世59年9月30日|戊申の日にあたる晦、日食があった
- 3年2月20日-08:00|中国| ||前漢・元始3年|<廃位>前漢・梁国「梁王劉立」有罪/梁国を廃して漢郡に含める
- 3年11月11日-09:00|朝鮮/中国| ||高句麗・瑠璃王22年9月29日|国内(中国吉林省集安市)に遷都し、尉那巖城を造営
- 4年-04:00|アゼルバイジャン| ||<即位>アトロパテネ王「アルタグアス2世」(〜6年)
- 4年-04:00|アルメニア| ||<即位>アルメニア王(アルタシス朝)「アルタグアス4世」(〜6年)ローマ指名
- 4年-03:30|イラン| ||<死去>パルティア王「アルサス25世(オロテス5世)」
- 4年-03:30|イラン| ||<即位>パルティア王「アルサス26世(オロテス3世)」(〜6年殺される)
- 4年4月8日-09:00|韓国| ||新羅・赫居世61年3月|<死去>新羅王「赫居世居西干」
- 4年4月8日-09:00|韓国| ||新羅・南解1年3月|<即位>新羅王「南解次次雄」(〜24年9月以降死去)
- 4年8月4日-09:00|韓国| ||新羅・南解1年7月|楽浪の軍隊が新羅の金城を幾重にして取り囲んだが俄かに退去
- 5年-01:00|イタリア| ||ローマが民会選挙法を改正=ウァレリウス・コネリウス法
- 5年2月28日-08:00|中国| ||前漢・元始5年2月|<就任>前漢・梁国「梁懐王劉音」(〜始建国元年(9年)正月、梁公に格下げ)
- 5年10月22日-09:00|韓国| ||百済・温祚王22年9月|王は靺鞨に遭遇、一戦してこれを破る
- 6年-04:00|アゼルバイジャン| ||<即位>アトロパテネ王「アルタグアス2世」(〜10年)
- 6年-04:00|アルメニア| ||<即位>アルメニア王(アルタシス朝)「ティグラーネス5世」,「エラト」(〜12年)
- 6年-03:30|イラン| ||<死去>パルティア王「アルサス26世(オロテス3世)」殺される
- 6年-02:00|イスラエル/イタリア| ||<廃位>ヘレチ朝ユダヤ王(ユダヤ、エドム、サマリア支配)「ヘレチ・アルタオス」失政のため追放/ユダヤとサマリアがローマの属州となる
- 6年-01:00|ケルチア/イタリア/スロベニア| ||パンノニアとダルマチアで反ローマ蜂起が勃発
- 6年2月3日-08:00|中国| ||前漢・元始5年12月16日|<死去>前漢皇帝「元宗平帝」王莽が毒殺/14歳
- 6年2月17日-08:00|中国| ||前漢・居攝1年|<就任>前漢・広徳国「広徳王劉赤」(〜始建国元年(9年)正月、広徳公に格下げ)
- 6年2月17日-08:00|中国| ||前漢・居攝1年|<就任>前漢・東平国「東平王劉匡」(〜居攝2年(7年)9月王莽に敗れ、東平国は廃される)
- 6年4月17日-08:00|中国| ||前漢・居攝1年3月|<即位>前漢第(15)代皇帝「劉嬰」(〜8年)
- 6年11月10日-09:00|韓国| ||新羅・南解3年10月1日|丙辰にあたる日に日食があった
- 7年2月7日-08:00|中国| ||前漢・居攝2年|<就任>前漢・広陵国「広陵王劉宏」(〜始建国元年(9年)正月、広陵公に格下げ)
- 7年2月7日-08:00|中国| ||前漢・居攝2年|<就任>前漢・長沙国「長沙王劉舜」(〜始建国元年(9年)正月、長沙公に格下げ)
- 7年6月5日-08:00|中国| ||前漢・居攝2年5月|王莽、錯刀・契刀・大泉五十の新貨幣を造る
- 7年10月1日-08:00|中国| ||前漢・居攝2年9月|<廃位>前漢・東平国「東平王劉匡」王莽に敗れ、東平国は廃される
- 8年-03:30|イラン| ||<即位>パルティア王「アルサス27世(ウァノネス1世)」(〜12年廃位)
- 8年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ホースロース王(スアルト朝)「アスバルゴス」デユナミスとアサントロスの子(〜38年)
- 8年12月17日-08:00|中国| ||前漢・初始1年11月|居攝3年を初始元年に改元
- 9年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプura王王国王「Mahadathika Mahanaga」Bhatika Abhayaの兄弟(〜21年)
- 9年1月10日-08:00|中国| ||前漢・初始1年11月25日|王莽が帝位に就き、新を建国/前漢が滅亡
- 9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建国1年正月|<廃位>前漢・河間国「河間王劉尚」河間公に格下げ

- 9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・広宗国「広宗王劉如意」広宗公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・広世国「広世王劉宮」広世公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・広平国「広平王劉広漢」広平公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・広陽国「広陽王劉嘉」広陵公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・広陵国「広陵王劉宏」広陵公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・広徳国「広徳王劉赤」広徳公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・高密国「高密王劉慎」高密公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・城陽国「城陽王劉俚」城陽公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・信都国「信都王劉景」信都公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・真定国「真定王劉陽」真定公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・楚国「楚王劉紆」楚公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・長沙国「長沙王劉舜」長沙公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・梁国「梁懐王劉音」梁公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・魯国「魯王劉閔」魯公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・六安国「六安王劉育」六安公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・泗水国「泗水王劉靖」泗水公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・淮陽国「淮陽王劉エン」淮陽公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・シ川国「シ川王劉永」シ川公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・膠東国「膠東王劉殷」膠東公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月|<廃位>前漢・趙国「趙昭王劉隱」趙公に格下げ  
9年1月15日-08:00|中国| ||新・始建國1年正月1日|王莽が初始1年12月を始建國正月とする  
9年9月-01:00|トイ/イリア| ||トイトブルクの森の戦いでゲルマンがローマ軍を撃滅  
9年11月7日-09:00|韓国| ||百済・温祚王26年10月|王は馬韓を襲撃し併合/圓山と錦?の二城は固く守って降伏しなかった  
10年-05:30|インド| ||<即位>インド・スキタイ王国(西北インド)国王「ハジヤトリヤ」(~10年)  
10年-05:30|インド| ||<即位>インド・スキタイ王国(北ウラル)「ラジュグウ」(~25年)  
10年-03:30|イラン| ||<即位>パルティア王「アルサクス28世(アルタバノス2世)」(~40年死去)  
10年1月5日-08:00|中国/モンゴル| ||新・始建國2年|匈奴、烏珠留、王莽の待遇を怒って西域諸国と反乱を起こす  
10年1月5日-08:00|中国| ||新・始建國2年|匈奴、トウルファンを征服  
10年5月3日-09:00|韓国| ||百済・温祚王27年4月|馬韓の圓山と錦ケの二城が降った。その民を漢山の北に移住させた。馬韓は遂に滅亡  
11年-04:00|アゼルバイジャン| ||<即位>アトパテネ王「ウオネス2世」(~51年)  
11年1月24日-08:00|モンゴル/中国| ||新・始建國3年|<即位>匈奴対立単于「孝単于」烏累若タイ単于、王莽が冊立(~18年死去);「順単于(助)」烏累若タイ単于の子、王莽が冊立(~11年);「順単于(登)」烏累若タイ単于の子、助の弟、王莽が冊立(~12年)  
11年1月24日-08:00|中国| ||新・始建國3年|黄河が決壊し流路が大幅に変化  
11年1月24日-08:00|中国/モンゴル| ||新・始建國3年|匈奴:烏珠留、雲中に侵入  
12年-04:00|アルメニア| ||<即位>アルメニア王「ウオネス1世」(元パルティア王「アルサクス27世」)(~18年)  
12年-03:30|イラン| ||<廃位>パルティア王「アルサクス27世(ウオネス1世)」アルタバノス2世の反撃を受けて敗北し王位を奪われた  
12年-02:00|ブルガリア/ギリシャ/トルコ| ||<即位>サハイイ王「コユス」ロメタル1世の子(~19年)  
13年1月1日-08:00|モンゴル/中国| ||新・始建國5年|<死去>匈奴単于「烏珠留若タイ単于(囊知牙斯、知)」  
13年1月1日-08:00|モンゴル/中国| ||新・始建國5年|<即位>匈奴単于「烏累若タイ単于(咸)」呼韓邪単于の子、烏珠留若タイ単于の弟(~18年死去)  
13年12月22日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・瑠璃王32年11月|夫餘が高句麗に侵入/無恤は夫餘軍の不意をついて奇襲し壊滅させた  
14年1月20日-08:00|中国| ||新・天鳳1年|王莽、貨布・貨泉を造る  
14年1月20日-08:00|中国/モンゴル| ||新・天鳳1年|王莽、匈奴:烏累の子の登を殺す/烏累、新と和を結ぶが、子の登が殺された事を知り、新の北辺を侵す  
14年1月20日-08:00|中国| ||新・天鳳1年|山東の琅邪郡で呂母なる老女が県令に殺害された息子の仇を撃つために私財を投じて数千の徒党を集め反乱/呂母は県令を殺害した後に死去  
14年2月19日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||新羅・南解11年|倭人が兵船百余りの船で、新羅海辺の民家を掠奪するが撃退/楽浪人が金城を攻撃したが退却  
14年8月19日-01:00|イリア| ||<死去>ローマ皇帝「アウグストゥス」カンパニアのノで病没/75歳(誕生BC00630923)  
14年9月13日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・瑠璃王33年8月|王は烏伊と摩離に二万の兵を率いさせ、西に伐梁貊を征伐し滅ぼした/兵を進め漢の高句麗県(玄菟郡に属す県)を襲って奪い取った  
14年9月18日-01:00|イリア| ||<即位>ローマ皇帝「ティベリウス」(~00370316死去)  
15年-05:00|パキスタン| ||<即位>インド・スキタイ王国(アフラクシア)国王「アスパガアルマ」(~45年)  
15年-03:00|イラク| ||<即位>エリマイス王国(カマスキロス朝)第12代国王「カマスキロス9世」(~25年)  
15年1月10日-08:00|中国/モンゴル| ||新・天鳳2年|王莽、匈奴単于を恭奴善于に改める  
16年9月20日-09:00|韓国| ||新羅・南解13年7月30日|戊子の日にあたる晦日、日食があった  
17年-04:00|アルメニア| ||<死去>コンマゲネ王「アンティオクス3世」(ローマによる統治~38年)

0200迄 (1588件)

- 17年-02:00|トルコ| ||<即位>アリアテス朝キキ王「アルテオス2世」(~37年)  
17年-02:00|トルコ/イタリア| ||カパドキアはローマ帝国に併合される  
17年-01:00|アルジェリア/イタリア| ||アフリカでヌミディア人クワリナスが反ローマ蜂起  
17年6月13日-08:00|中国| ||新・天鳳4年6月|琅邪の呂母が挙兵  
17年11月8日-09:00|韓国/朝鮮| ||百濟・温祚王34年10月|馬韓の旧將の周勤が牛谷城に拠って謀反した。王みずから五千の兵を率いてこれを討った  
18年-04:00|アルメニア| ||<即位>アルメニア王(アルタクシア朝)「アルタクシア3世」(~34年)ローマ指名  
18年1月6日-08:00|モンゴル/中国| ||新・天鳳5年|<死去>匈奴単于「烏累若テ単于(威)」  
18年1月6日-08:00|モンゴル/中国| ||新・天鳳5年|<即位>匈奴対立単于「須ト単于(当)」須ト氏の右骨都侯、王莽が冊立(~21年死去)  
18年1月6日-08:00|モンゴル/中国| ||新・天鳳5年|<即位>匈奴単于「呼都而尸道皋若テ単于(輿)」呼韓邪単于の子、烏累若テ単于の弟(~46年死去)  
18年1月6日-08:00|中国| ||新・天鳳5年|樊宗が反王莽の兵を挙げる(眉を赤く塗ったので赤眉軍と称されている)  
18年10月29日-09:00|朝鮮| ||高句麗・瑠璃王37年10月|<死去>高句麗王「瑠璃明王」  
18年10月29日-09:00|朝鮮| ||高句麗・瑠璃王37年10月|<即位>高句麗王「大武神王」(~44年)  
18年12月27日-08:00|中国/モンゴル| ||新・天鳳6年|匈奴:輿、新との和を破って反乱/王莽、匈奴の右骨都侯須朴当を長安に連行して善于とする/王莽、再度匈奴遠征を行う  
19年-05:30|インド/アフガニスタン/パキスタン| ||<即位>インド・パルティア王「ゴント・ファルネス1世」パルティアからの独立を宣言(~46年死去)  
19年-02:00|ブルガリア/ギリシャ/トルコ| ||<即位>サハ・オイ王「ロメタルス2世」レスキリス2世の子(~38年)  
20年-05:30|インド| ||<即位>インド・パルティア王「ルサゲネス」(~30年)  
20年-02:00|エジプト/ Sudan| ||<即位>クシュ王「ショルカルロ」(~30年)  
20年-01:00|アルジェリア/モロッコ/ジブラルタル| ||<即位>マウルタニア王「フトレミー」(~40年)  
20年1月14日-08:00|中国| ||新・地皇1年|王匡が貧民を集結し緑林山を拠点に叛乱(緑林軍)  
21年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプラ王国国王「Amandagamani Abhaya」Mahadathika Mahanagaの息子(~30年)  
21年1月3日-08:00|モンゴル/中国| ||新・地皇2年|<死去>匈奴対立単于「須ト単于(当)」  
22年2月20日-09:00|韓国| ||新羅・南解19年|疫病が大流行して、多くの人々が死んだ  
22年3月22日-09:00|朝鮮| ||高句麗・大武神5年2月|<死去>東扶余第3代国王「帶素王」高句麗軍に撃たれる  
22年4月20日-08:00|中国| ||新・地皇3年4月|廉丹と王匡が樊崇軍を撃つべく出撃/樊崇軍は廉丹、王匡の軍を大いに破り廉丹は戦死、王匡は逃走/この戦い以後、樊崇軍、赤眉軍を称す  
22年5月20日-09:00|朝鮮| ||高句麗・大武神5年4月|<即位>東扶余第3代国王「曷思王」  
22年7月18日-08:00|中国| ||新・地皇3年7月|緑林軍に呼応する形で陳牧・廖湛等が率いる、平林軍が挙兵/平林軍の活動地域に、新市軍が進出し、二つの軍が合流  
22年8月16日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・大武神5年7月|扶余王の従兄弟が万余の人々と投降/王は彼を王に封じ、椽那部に安置し、その背中に絡文があるので、絡氏の姓を賜う  
22年10月15日-08:00|中国| ||新・地皇3年冬|無塩の索慮恢が城で挙兵/廉丹と王匡が攻めてこれを抜いた/赤眉の別部隊の董憲らの兵数万が新の更始将軍・平均公廉丹、太師王匡の軍勢と成昌で戦い、これを撃破  
22年10月15日-08:00|中国| ||新・地皇3年10月|劉玄・劉秀兄弟が挙兵し、新市・平林軍に合流  
22年11月13日-08:00|中国| ||新・地皇3年11月|劉玄軍が新王朝軍と小長安聚で戦い、敗戦/その後、下江軍と合流  
23年1月11日-08:00|中国| ||新・地皇4年|張歩は、太山、東萊、城陽、膠東、北海、済南、斉の諸郡を攻略して、支配下に収めた  
23年1月11日-08:00|中国/モンゴル| ||新・地皇4年|匈奴:輿、烏丸とともに北方に侵入  
23年1月11日-08:00|中国| ||新・地皇4年|鄧奉は伊陽(南陽郡、育陽とも)で反新の挙兵を行い、同地を拠点とした  
23年1月11日-08:00|中国| ||新・地皇4年正月|緑林軍、甄阜率いる新朝軍を破る  
23年2月10日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年|<即位>ホ・クワン王「ユ林」(~56年)  
23年3月12日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年|<就任>玄漢・梁王「劉永」  
23年3月12日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年2月|<即位>漢皇帝「更始帝」(平林軍にいた更始将軍劉玄)漢朝復興を称し建元して更始と改元  
23年3月12日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年2月|漢皇帝「更始帝」が宛を攻め落としその地に都を置く  
23年7月8日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年6月|冠軍(南陽郡)で延岑は更始帝(劉玄)配下の劉嘉に敗れて降伏  
23年7月8日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年6月|劉秀率いる漢軍が新の大司空王邑率いる討伐軍と昆陽(潁川郡)で戦い大勝利  
23年8月7日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年7月|隗囂が挙兵、元号を漢復に改め、漢室復興の檄を各郡国に発し隗囂は周辺地域へ出撃し、雍州牧陳慶、安定大尹王向(王莽の従弟王譚の子)を攻め滅ぼした  
23年9月5日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年8月|漢軍の申屠建・李松、武関より関中に攻め込む/竇融は新豊(京兆尹)に駐屯したが、更始帝丞相司直李松配下の韓臣に遭い敗走  
23年9月5日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年8月|<自立>自称・定漢王「劉望」もとの鍾武侯劉望が、汝南を根拠に独立  
23年10月5日-09:00|韓国| ||百濟・温祚王40年9月|靺鞨が述川城に来寇

0200迄 (1588件)

- 23年10月5日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年9月|<死去>新皇帝「王莽」長安を陥落させた劉玄の軍により殺される(誕生BC45年)新が滅亡
- 23年10月5日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年9月|<自立>自称・淮南王「李憲」(⇒建武3年(27年)淮南皇帝「李憲」天子を自称)
- 23年10月5日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年9月|王匡、洛陽城を陥落させる/関中突入の二将、長安城を落とす
- 23年11月3日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年10月|更始帝が劉信を派遣して劉望を攻撃/劉望の兄の子の劉回が劉望を殺して、投降し劉望政権は滅亡/赤眉軍、更始帝に臣従
- 23年11月3日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年10月|更始帝、洛陽に遷都
- 23年12月3日-09:00|韓国| ||百濟・温祚王40年11月|靺鞨が斧城を襲い、百余人を殺したり、掠め取ったりした。王は強力な騎馬兵二百に命じて、これを撃退
- 24年1月1日-08:00|中国| ||更始朝・更始1年12月|邯鄲で王郎が漢の成帝の落胤であると称し挙兵し天子を自称/さらに王郎は、軍を派遣し、冀州、幽州を制圧/趙国以北、遼東以西は、王郎の支配下となった
- 24年1月30日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年|<自立>自称・楚黎王「秦豊」
- 24年1月30日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年|<自立>自称・蜀王「公孫述」
- 24年1月30日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年正月|更始は蘇茂に赤眉を弘農で拒ませたが、蘇茂は敗れた/鄧禹が河東を攻め破り、真定で五校と戦い破り、右北平まで追撃して破った/劉秀軍はさらに追撃して順水の北で戦い敵は大敗
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・宛王「劉賜」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・陰平王「陳牧」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・燕王「劉慶」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・漢中王「劉嘉」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・宜城王「王鳳」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・元氏王「劉歙」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・西平王「李通」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・定陶王「劉祉」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・汝陰王「劉信」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・比陽王「王匡」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・舞陰王「李軼」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・平氏王「申屠建」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・淮陽王「張ヅウ」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・潁陰王「宋佻」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・玘王「尹尊」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・穰王「廖湛」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・蕭王「劉秀」(~建武元年(25年)6月、大漢皇帝に即位)
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・襄邑王「成丹」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・隨王「胡殷」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|<就任>玄漢冊立・鄧王「王常」
- 24年2月29日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年2月|更始帝が長安に遷都
- 24年5月27日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年5月|劉秀が邯鄲を陥落させ王郎は逃走中に斬死
- 24年8月24日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年秋|長安の更始帝(劉玄)は巴蜀の地を平定せんと李宝・張忠ら軍を派遣するも、公孫述は弟公孫恢を遣って綿竹で撃退
- 24年8月24日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年秋|劉秀が銅馬賊を破り、その軍を吸収
- 24年10月22日-09:00|韓国| ||新羅・南解21年9月|(以降)<死去>新羅王「南解次次雄」
- 24年10月22日-09:00|韓国| ||新羅・儒理1年9月|(以降)<即位>新羅王「儒理尼師今」(~57年)
- 24年11月20日-08:00|中国| ||更始朝・更始2年冬|赤眉軍が関中に入ると隗崔と隗義が反逆して故郷に戻ろうとしたが誅殺される
- 25年-05:30|インド| ||クシャナ族が他の月氏部族を支配
- 25年-03:00|イラク| ||<即位>エリマス王国(アルサス朝)第13代国王「オデス1世」(~50年)
- 25年2月17日-08:00|中国| ||更始朝・更始3年|<死去>玄漢冊立・陰平王「陳牧」更始帝劉玄に殺害される
- 25年2月17日-08:00|中国| ||更始朝・更始3年|<死去>玄漢冊立・燕王「劉慶」赤眉軍に殺される
- 25年2月17日-08:00|中国| ||更始朝・更始3年|<死去>玄漢冊立・舞陰王「李軼」朱鮪に殺害される
- 25年2月17日-08:00|中国| ||更始朝・更始3年|<死去>玄漢冊立・襄邑王「成丹」更始帝劉玄に殺害される
- 25年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建武1年|<自立>自称・西平王「盧芳」(~同年、漢皇帝に擁立)
- 25年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建武1年|<退任>玄漢冊立・宛王「劉賜」後漢に降る
- 25年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建武1年|<退任>玄漢冊立・汝陰王「劉信」後漢に降る
- 25年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建武1年|<退任>玄漢冊立・比陽王「王匡」赤眉軍に降る
- 25年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建武1年|<退任>玄漢冊立・淮陽王「張ヅウ」赤眉軍に降る
- 25年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建武1年|<退任>玄漢冊立・穰王「廖湛」赤眉軍に降る
- 25年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建武1年|<退任>玄漢冊立・隨王「胡殷」赤眉軍に降伏
- 25年2月17日-08:00|中国| ||更始朝・更始3年正月|平陵の人、方望が前孺子の劉嬰を天子に立てた/更始は丞相の李松と討難將軍蘇茂を派遣して撃ち破った

## 0200迄 (1588件)

- 25年2月17日-08:00|中国| ||更始朝・更始3年正月|劉秀は北に向かい尤来、大搶、五幡を元氏に撃ちさらに、尤来、五幡と慎水で戦ったが敗れた/安次、小広陽にいたりついに敵を破った
- 25年4月17日-08:00|中国| ||更始朝・更始3年3月|更始は李松を朱鮪と合流させて赤眉と務郷に戦わせ李松らは大敗/寇恂は蘇茂の軍を破り追撃して洛陽に至り、賈彊を斬った/馮異もまた河を渡って朱鮪を撃ち敗走させた
- 25年5月17日-08:00|中国| ||成家・龍興1年4月|<自立>自称・蜀王「公孫述」⇒自称・成家皇帝「公孫述」/年号を建てて龍興元年とした
- 25年7月15日-08:00|中国| ||更始朝・更始3年6月|<死去>玄漢冊立・平氏王「申屠建」謀反、更始帝により誅殺された
- 25年7月15日-08:00|中国| ||後漢・建武1年6月|<即位>漢皇帝「劉盆子」(~建世3年閏正月)赤眉軍が擁立
- 25年7月15日-08:00|中国| ||後漢・建武1年6月|<退任>玄漢冊立・西平王「李通」後漢に召し出される
- 25年8月5日-08:00|中国| ||後漢・建武1年6月22日|<即位>後漢初代皇帝「光武帝(劉秀)」(~建武中元2年2月5日(00570329)死去)建武と改元
- 25年8月10日-08:00|中国| ||後漢・建武1年6月27日|前將軍鄧禹は、更始の定国公の王匡を安邑に撃ち、これを大いに破った/更始の大將軍樊參が太陽を渡って鄧禹を攻め鄧禹は諸將を派遣して河東解で迎え撃ち、これを大いに破った
- 25年8月13日-08:00|中国| ||後漢・建武1年7月|<復位>後漢・真定王「劉揚」
- 25年8月17日-08:00|中国| ||更始朝・更始3年7月5日|汾陰河を渡り、夏陽に入った/更始の中郎將左輔都尉公乘歙が左馮翊の兵士とともに鄧禹を衛で拒んだが鄧禹はふたたびこれを破り走らせた
- 25年10月11日-08:00|中国| ||後漢・建武1年9月|<就任>後漢・淮陽国「淮陽王(劉玄)」
- 25年10月11日-08:00|中国| ||後漢・建武1年9月|<退任>玄漢冊立・元氏王「劉歙」後漢に降る
- 25年10月11日-08:00|中国| ||後漢・建武1年9月|<退任>玄漢冊立・定陶王「劉祉」後漢に降る
- 25年10月11日-08:00|中国| ||後漢・建武1年9月|赤眉軍、長安城を陥落させる
- 25年11月10日-08:00|中国| ||後漢・建武1年10月|<就任>赤眉冊立・長沙王「劉玄」
- 25年11月10日-08:00|中国| ||後漢・建武1年10月|光武帝劉秀が洛陽に都を移す
- 25年11月10日-08:00|中国| ||後漢・建武1年10月|更始帝劉玄、赤眉軍に降伏/更始政権が滅亡
- 25年11月10日-08:00|中国| ||後漢・建武1年10月|耿純が劉永を濟陰に撃ち、定陶を下した
- 25年12月9日-08:00|中国| ||後漢・建武1年11月|魏郡太守銚期は郡兵を発して卓京を撃ち、これを破る/進んで繁陽、内黄を撃ち、数百人を斬り、郡の境界は清らかに平らいた/堅鐔は別に内黄を撃って平らげた
- 26年1月7日-08:00|中国| ||後漢・建武1年11月30日|<即位>玄漢・梁王「劉永」⇒梁初代皇帝「劉永」天子を自称
- 26年1月8日-08:00|中国| ||後漢・建武1年12月|<死去>後漢・淮陽国「淮陽王(劉玄)」赤眉軍に殺害される
- 26年1月8日-08:00|中国| ||後漢・建武1年12月|<死去>赤眉冊立・長沙王「劉玄」謝祿に殺害された
- 26年1月8日-08:00|中国| ||後漢・建武1年12月|赤眉軍、更始帝殺害
- 26年1月8日-08:00|中国| ||後漢・建武1年12月|隗囂が隴右を占拠/盧芳が安定で挙兵
- 26年2月6日-08:00|中国| ||後漢・建武2年|<退任>玄漢冊立・玁王「尹尊」後漢に降る
- 26年2月6日-08:00|中国| ||後漢・建武2年|<退任>玄漢冊立・鄧王「王常」後漢に降る
- 26年2月6日-08:00|中国| ||後漢・建武2年1月|赤眉が隴西を西に進もうとすると、隗囂は將軍楊広を派遣して破り、また追ってこれを烏氏、涇陽の間に敗った/蓋延は南に敷倉を撃ち、転じて酸棗、封丘を攻めみな抜いた
- 26年2月6日-08:00|中国| ||後漢・建武2年1月|陳俊が匡を攻め四県を下した/陳俊は頓丘を撃ち、三城を降伏させた/馮異は陽平の敵終、趙根を撃ち破った
- 26年2月6日-08:00|中国| ||後漢・建武2年正月1日|朔、日食があった
- 26年3月-08:00|中国| ||後漢・建武2年春|<死去>後漢・真定王「劉揚」反乱、誅殺される
- 26年3月8日-08:00|中国| ||後漢・建武2年2月|<自立>自称・武安王「延岑」漢中を平定
- 26年3月8日-08:00|中国| ||後漢・建武2年2月|延岑は劉嘉を追い、北西の武都郡に入るが、更始柱功侯李寶に敗れ更に北の天水郡に逃げる/陳倉で劉嘉・李寶に敗れた延岑は東進して杜陵を根拠地とし、劉嘉・李寶は赤眉軍の廖湛を滅ぼして雲陽に駐屯
- 26年3月8日-08:00|中国| ||後漢・建武2年2月|漁陽太守の彭寵が反し、幽州牧の朱浮を薊に攻めた/彭寵は、光武帝が派遣した遊撃將軍鄧隆の軍を撃破し、さらに朱浮をも撃ち破って、薊を占領し、燕王を自称
- 26年3月8日-08:00|中国| ||後漢・建武2年2月|驃騎大將軍の景丹に弘農の賊を撃たせ、これを破った
- 26年4月6日-08:00|中国| ||後漢・建武2年3月|虎牙大將軍の蓋延は劉永の別將許徳のいる襄邑を抜き、進んで麻郷を取り、ついに劉永を穰陽に包囲
- 26年4月6日-08:00|中国| ||後漢・建武2年3月|執金吾賈復、騎都尉陰識、驃騎將軍劉植が、更始の玁王の尹遵を撃ち破って降し一月あまりで尹遵は降伏、その地をすべて平定/続いて更始淮陽太守暴汜を東に撃ち降伏させ、属している県をすべて平らげた
- 26年5月6日-08:00|中国| ||後漢・建武2年夏|蘇茂が劉永に寝返った/蓋延は攻勢を緩めず、劉永は穰陽を攻め落とされ逃れる/蘇茂、佼彊、周建が救援に駆けつけたが蓋延に敗北を喫し、劉永は湖陵(山陽郡)へ退いた
- 26年5月7日-08:00|中国| ||後漢・建武2年4月2日|<就任>後漢・広陽国「廣陽王(劉良)」
- 26年5月7日-08:00|中国| ||後漢・建武2年4月2日|<就任>後漢・城陽国「城陽恭王(劉祉)」
- 26年5月7日-08:00|中国| ||後漢・建武2年4月2日|<就任>後漢・太原国「齊哀王(劉章)」
- 26年5月7日-08:00|中国| ||後漢・建武2年4月2日|<就任>後漢・魯国「北海靖王(劉興)」
- 26年6月22日-08:00|中国| ||後漢・建武2年5月19日|<就任>後漢・真定国「真定王(劉得)」
- 26年6月22日-08:00|中国| ||後漢・建武2年5月19日|<就任>後漢・中山国「中山王(劉茂)」
- 26年6月22日-08:00|中国| ||後漢・建武2年5月19日|<就任>後漢・長沙国「長沙王(劉興)」

0200迄 (1588件)

- 26年6月22日-08:00|中国| ||後漢・建武2年5月19日|<就任>後漢・泗水国「泗水王(劉歙)」
- 26年7月18日-08:00|中国| ||後漢・建武2年6月15日|<就任>後漢・サ川国「サ川王(劉終)」
- 26年9月1日-08:00|中国| ||後漢・建武2年8月|鄧奉が沘陽で漢に叛旗を翻す
- 26年10月1日-08:00|中国| ||後漢・建武2年9月|延岑は李寶と連合し、杜陵で赤眉軍を撃破/また藍田(京兆尹)で漢の大司徒鄧禹の攻撃を受けたが、延岑はこれを撃退
- 26年10月1日-08:00|中国| ||後漢・建武2年9月|長安を占領していた赤眉軍が西進してくると、隗囂は部将の楊廣を派遣してこれを撃破
- 26年10月30日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・大武神9年10月|大武神王は、蓋馬国(鴨緑江上流域にあった小国)に親征した/蓋馬王は殺されたが、民は奴隷にされることも私財を没収されることもなく、ただその地が高句麗の郡県に組み込まれた
- 26年11月29日-08:00|中国| ||後漢・建武2年11月|光武帝劉秀、部下の馮異を関中に出兵させ、平定させる
- 26年12月28日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・大武神9年12月|蓋馬国が滅ぼされたのを聞いた句茶国王は、国ごと投降
- 27年1月27日-08:00|中国| ||後漢・建武3年|<退任>玄漢冊立・漢中王「劉嘉」公孫述に敗れ、後漢に降る
- 27年1月27日-08:00|中国| ||後漢・建武3年正月|征虜將軍の祭遵が河南郡新城の蛮中を破り、張滿を斬った/祭遵は兵を率いて南に鄧奉の弟、終を杜衍に撃ち、これを破った
- 27年1月27日-08:00|中国| ||後漢・建武3年正月|大司徒の鄧禹及び馮異が赤眉と回溪で戦い、鄧禹と馮異は敗績/鄧禹はふたたび戦い、大いに敗れた
- 27年2月25日-08:00|中国| ||後漢・建武3年2月|<就任>劉永冊立・海西王「董憲」
- 27年2月25日-08:00|中国| ||後漢・建武3年2月|赤眉軍が宣陽で光武帝劉秀軍に敗れ、全面降服
- 27年2月25日-08:00|中国| ||後漢・建武3年2月|大司馬呉漢、建威大將軍耿弇、虎牙大將軍蓋延を遣わし、青犢を河内シの西で撃たせ、大いに破って降伏させた
- 27年2月25日-08:00|中国| ||後漢・建武3年2月|張歩は光禄大夫の伏隆を殺して叛した
- 27年3月-08:00|中国| ||後漢・建武3年春|<死去>自称・梁皇帝「劉永」部将の慶吾に叛かれて殺された
- 27年3月-08:00|中国| ||後漢・建武3年春|<就任>劉永冊立・梁王「劉紆」
- 27年4月25日-08:00|中国| ||後漢・建武3年3月|<自立>自称・燕王「彭寵」右北平、上谷の数県を抜き彭寵が薊城を陥れた
- 27年4月25日-08:00|中国| ||後漢・建武3年3月|光武帝が親征、董憲は別働隊で阻もうとしたが、岑彭が別働隊を葉県で撃破/鄧奉は逃走し、董憲は降伏/光武帝が追撃、鄧奉は小長安聚で決戦を挑むが大敗し漢に降伏
- 27年5月25日-08:00|中国| ||後漢・建武3年夏|樊崇、逢安は謀反して誅死
- 27年5月25日-08:00|中国| ||後漢・建武3年4月|延岑は馮異に上林苑(右扶風)で撃破され、析県(弘農郡)で鄧曄・于匡に迎撃を受け、敗走
- 27年5月25日-08:00|中国| ||後漢・建武3年4月|周建の軍は大いに潰れ、城に逃げ還ったが呉漢は長駆追撃してこれを大いに破り蘇茂と周建は城を捨てて湖陽に還った
- 27年5月25日-08:00|中国| ||後漢・建武3年4月|馮異が呂鮪、李育を陳倉に撃ち、大いにこれを敗り、呂鮪、李育は漢中に奔った/呉漢の率いる七將軍が劉永の將の蘇茂と広楽に戦い、これを大いに破った
- 27年5月25日-08:00|中国| ||後漢・建武3年4月|鄧奉を小長安で大いに破りこれを斬った/朱コが降伏した/帝は新野、隨に派遣して撃たせてこれを平定
- 27年6月-08:00|中国| ||後漢・建武3年夏|<就任>劉永冊立・齊王「張歩」
- 27年7月22日-08:00|中国| ||後漢・建武3年5月30日|晦、日食があった
- 27年7月23日-08:00|中国| ||後漢・建武3年6月|<退任>自称・武安王「延岑」敗戦逃走
- 27年7月23日-08:00|中国| ||後漢・建武3年6月|延岑が南陽を攻め数城を下した/耿弇は延岑と穰で戦い、これを大いに破る/杜弘は降伏し、延岑は数騎と東陽へ遁走
- 27年7月23日-08:00|中国| ||後漢・建武3年6月|建義大將軍朱コが祭遵を率いて延岑と東陽で戦い、これを大いに破り、朱コは陣に臨み成を斬った/朱コは進んで黄郵を撃ち、これを降した
- 27年8月21日-08:00|中国| ||後漢・建武3年7月|<死去>梁初代皇帝「劉永」が臣下に殺される
- 27年8月21日-08:00|中国| ||後漢・建武3年7月|<即位>梁第2代皇帝「劉紆」(~建武5年8月)
- 27年8月21日-08:00|中国| ||後漢・建武3年7月|征南大將軍の岑彭が率いる傅俊ら三將軍が秦豊と黎丘で戦い、これを大いに破る/秦豊は岑彭に夜襲を仕掛けて失敗、蔡宏を失う大敗を喫し、相の趙京が宜城(南郡)を漢に献じて降伏
- 27年11月18日-08:00|中国| ||後漢・建武3年10月|耿弇が漁陽の彭寵を平定
- 27年12月18日-08:00|中国| ||後漢・建武3年11月|汝郡太守の張豊が反し耿弇が張豊の首を取り、刀を返して富平、獲索を併呑
- 28年1月16日-08:00|中国| ||後漢・建武3年末|夷陵(南郡)を根拠地としていた田戎も黎丘郷へ救援にきたが、岑彭に敗北して夷陵へ逃げ帰っている
- 28年1月16日-08:00|中国| ||後漢・建武3年末|延岑は秦豊配下の部将張成と共に、光武帝の將朱コ・祭遵と東陽聚(南陽郡)に戦ったが、敗北して張成は斬られ、延岑は秦豊の下に逃れた
- 28年2月15日-08:00|中国| ||後漢・建武4年春|蓋延は周建・蘇茂を攻め、董憲と留の下に戦ってこれらを破り、杻萌を率いて西防を攻め落とす/再度、周建・蘇茂を彭城に破り、周建・蘇茂は逃走
- 28年3月15日-09:00|韓国| ||百濟・温祚王45年2月|<死去>百濟王「温祚王」
- 28年3月15日-09:00|韓国| ||百濟・多婁王1年2月|<即位>百濟王「多婁王」(~77年)
- 28年3月15日-08:00|中国| ||後漢・建武4年2月|秦豊は延岑に順陽(南陽郡)を攻撃させたが、漢の右將軍鄧禹に

- 武当で敗北し、延岑は漢中に逃れた
- 28年5月13日-08:00|中国| ||後漢・建武4年4月|大司馬呉漢、彊弩大將軍陳俊、前將軍王梁が五校賊を臨平に撃ち破り追撃して東郡箕山に撃ち破った/北に向かい、清河の長直賊、平原の五里賊を撃ち、みなこれを破った
- 28年7月11日-08:00|中国| ||後漢・建武4年6月|胡騎が上谷軍都を経ると、耿舒がその兵士を襲って破り、匈奴の両王を斬ると、彭寵は退き走った/耿況はふたたび耿舒と彭寵を攻め、軍都を取った
- 28年8月10日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||後漢・建武4年;高句麗・大武神11年7月|後漢の遼東郡太守軍が高句麗を攻めた/高句麗軍は尉那巖城に数十日間立て籠もったが、後漢軍は包囲を解かなかった/漢軍は引き上げていった
- 28年8月10日-08:00|中国| ||後漢・建武4年7月|董憲の部将賁休が、蘭陵(東海郡)を漢軍に献上して降伏/董憲は蘭陵の奪回に動き、城を包囲/漢軍は、虎牙大將軍蓋延と平狄將軍杻萌の軍を賁休の援軍に送り込んだが、董憲はこれを撃退し蘭陵を陥落させた
- 29年1月4日-08:00|中国| ||後漢・建武4年12月|建義大將軍の朱ヨが破姦將軍侯進と輔威將軍耿植を率い、征南大將軍岑彭に代わって秦豊を黎丘に囲み、その將軍張康を蔡陽に破り斬った
- 29年2月3日-08:00|中国| ||後漢・建武5年|この年、臧宮が兵を率いて江夏を巡回し代郷、鐘武、竹里、みなこれを下した
- 29年2月3日-08:00|中国| ||後漢・建武5年|盧芳は李興、閔堪らから迎え入れられ、九原県(五原郡)を根拠地として北方辺境に割拠し、五原、朔方、雲中、定襄、鴈門の5郡を占領
- 29年3月4日-08:00|中国| ||後漢・建武5年2月|漁陽の彭寵をその奴(入れ墨した奴隷)が殺した/彭寵の子の午を立てて王とした/国師韓利が午の首を斬って征虜將軍祭遵に詣でて降伏/祭遵がその地を平定
- 29年3月4日-08:00|中国| ||後漢・建武5年2月|捕虜將軍の馬武と偏將軍の王覇が垂恵を抜いた
- 29年3月4日-08:00|中国| ||後漢・建武5年2月|劉秀、富平・獲索の農民叛乱勢力を破り、動乱に因る農民叛乱を平定
- 29年4月3日-08:00|中国| ||後漢・建武5年3月|<改封>後漢・広陽国「廣陽王(劉良)」⇒趙国「趙孝王(劉良)」
- 29年4月3日-08:00|中国| ||後漢・建武5年3月|征南大將軍岑彭、傅俊の率いる二將軍を遣わして、田戎を津郷に討伐し、これを大いに破った/岑彭が夷陵を攻略/田戎は蜀に逃れた
- 29年4月3日-08:00|中国| ||後漢・建武5年3月|平狄將軍の杻萌が漢に叛し、楚郡太守の孫萌を殺し、蓋延を襲撃して破り、東の董憲について、自ら東平王と号して桃郷の北に屯した
- 29年7月1日-08:00|中国| ||後漢・建武5年6月|<就任>公孫述冊立・汝寧王「延岑」
- 29年7月1日-08:00|中国| ||後漢・建武5年6月|<就任>公孫述冊立・翼江王「田戎」
- 29年7月1日-08:00|中国| ||後漢・建武5年6月|<廢位>自称・楚黎王「秦豊」後漢に降る
- 29年7月1日-08:00|中国| ||後漢・建武5年6月|建義大將軍の朱ヨが黎丘を抜き、秦豊を捕らえた/朱ヨは帰ると騎都尉臧宮と延岑の殘党たる陰、さん、筑陽の三県の賊を撃つてことごとく平定
- 29年7月1日-08:00|中国| ||後漢・建武5年6月|光武帝は桃城(東平郡)を包囲していた蘇茂、杻萌を撃破
- 29年7月30日-08:00|中国| ||後漢・建武5年7月|光武帝はみづから憲を攻め、大いに破り、敵はみな逃げ散った/梁の地はすべて平定された/また光武帝は昌慮(東海郡)まで進軍し、董憲はこれを迎撃したが大敗
- 29年8月29日-08:00|中国| ||後漢・建武5年8月|<死去>劉永冊立・梁王「劉紆」部下の兵士高扈に裏切られて殺された
- 29年8月29日-08:00|中国| ||後漢・建武5年8月|漢の大司馬呉漢の猛攻を受けて董憲は敗退し、夕(東海郡)へ逃げ込むが城は陥落させられて、董憲は杻萌と共にキョウ(東海郡)に追い込まれ、梁は漢に組み入れられた
- 29年10月27日-08:00|中国| ||後漢・建武5年10月|<退任>劉永冊立・齊王「張歩」蘇茂を殺害し、その首級を差し出して後漢に降る
- 29年10月27日-08:00|中国| ||後漢・建武5年10月|後漢の建威大將軍耿ヨは兵を率いて城陽に至り、五校の殘党を降伏させ、齊の地はことごとく平定
- 30年-05:30|スリヤカ| ||<即位>アヌラダプラ王国国王「Kanirajanu Tissa」Amandagamani Abhayaの兄弟(~33年)
- 30年-05:30|インド| ||<即位>クシャナ朝君主「クジュラ・カト・フイタ」(~80年)
- 30年-05:30|インド| ||クシャナ朝クジュラ・カト・フイタ即位(~91頃)
- 30年1月23日-08:00|中国| ||後漢・建武5年12月|九原の盧芳が天子を称す
- 30年2月22日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・建武6年|匈奴・興、光武帝に使いを送って和を結ぶ
- 30年2月22日-08:00|中国| ||後漢・建武6年1月|<死去>自称・淮南皇帝「李憲」敗戦し逃走途中で部下の帛意に裏切られて殺された
- 30年2月22日-08:00|中国| ||後漢・建武6年1月|揚武將軍馬成らが江淮の地を完全に平定
- 30年3月9日-08:00|中国| ||後漢・建武6年正月16日|春陵郷を章陵県に改めた
- 30年3月23日-08:00|中国| ||後漢・建武6年2月|<死去>劉永冊立・海西王「董憲」殺害される
- 30年3月23日-08:00|中国| ||後漢・建武6年2月|大司馬呉漢がキョウを抜き山東はことごとく平定/関東がことごとく平定
- 30年4月7日-02:00|イスラエル| ||イエス・キリストがゴルゴタの丘で十字架の刑に処せられる。32歳(誕生:-0040520)
- 30年6月20日-08:00|中国| ||後漢・建武6年5月|隴の隗囂が叛旗を翻す/隗囂の將軍王元が隴でいに拒み、祭遵は進んで撃ち、これを破った/蓋延ら隴邸で戦い、漢軍は不利で、大いに敗れ、隴を下って退却
- 30年7月19日-08:00|中国| ||後漢・建武6年6月|代郡太守劉興が盧芳の將軍賈覽を高柳で撃ち、戦没/盧芳の將軍、賈覽が胡騎を率いて代郡太守劉興を撃ち殺した
- 30年8月18日-08:00|中国| ||後漢・建武6年秋|前將軍李通、破姦將軍侯進、捕虜將軍王覇ら10部隊が漢中の延岑を撃った/公孫述が將軍を派遣して救援し西城で戦い、これを破った

0200迄 (1588件)

- 30年10月16日-09:00|韓国| ||百済・多婁王3年9月|東部屹干が靺鞨と馬首山の西で戦い、これに勝利した。非常に多くの敵兵を殺し、捕獲
- 30年11月14日-08:00|中国| ||後漢・建武6年9月30日|日食があった
- 31年1月13日-08:00|中国| ||後漢・建武6年12月|後漢の光武帝が田租を30分の1に軽減
- 31年1月13日-08:00|中国| ||後漢・建武6年12月|隗囂がその將軍、行巡、王元を遣わし、隴を下り三輔の扶風に侵攻/征西大將軍馮異、征虜將軍祭遵が拒んでこれを破った/馮異は巡の軍を大いに破った/祭遵もまた王元をけんに破った
- 31年2月11日-08:00|中国| ||後漢・建武7年|<就任>公孫述冊立・朔寧王「隗囂」
- 31年2月11日-08:00|中国| ||後漢・建武7年|この年、臧宮は梁郡、濟陰を撃つてこれを平らいた
- 31年2月11日-08:00|中国| ||後漢・建武7年|中国でふいごが発明される
- 31年5月10日-08:00|中国| ||後漢・建武7年3月30日|日食
- 31年5月11日-08:00|中国| ||後漢・建武7年夏|王常は隗囂の將軍高峻を朝那に撃ち破った/隗囂が將を遣わし烏氏を過ぎると王常は要撃して破った/転進して西羌の部族を降伏させ、みな平定
- 31年9月6日-09:00|韓国| ||百済・多婁王4年8月|高木城の昆優が靺鞨と戦い、大勝利
- 31年9月6日-08:00|中国| ||後漢・建武7年8月|<就任>後漢・河間国「河間王(劉邵)」
- 31年9月6日-08:00|中国| ||後漢・建武7年8月|隗囂が安定に侵攻/征西大將軍馮異と征虜將軍祭遵がこれを撃ち退けた
- 31年10月18日-01:00|イタリヤ| |||ティバ<sup>レ</sup>リスがセ<sup>レ</sup>ヌスの反乱を阻止し、これを処刑
- 31年11月4日-08:00|中国| ||後漢・建武7年冬|朔方太守田颯、雲中太守喬扈は恐懼して盧芳を叛し、郡を挙げて降伏
- 32年2月1日-09:00|韓国| ||新羅・儒理9年春|新羅で六部を改名(楊山部→梁部、姓を李/高墟部→沙梁部、姓を崔/大樹部→漸梁部、姓を孫/干珍部→本彼部、姓を鄭/加利部→漢祇部、姓を裴/明活部→習比部、姓を薛)、官位17等を設置
- 32年2月1日-08:00|中国| ||後漢・建武8年|中郎将来歙が略陽を襲い、隗囂の守將を殺しその城を占拠
- 32年4月29日-09:00|朝鮮| ||高句麗・大武神15年4月|高句麗軍は楽浪国へ向かった/崔理王は、城門を開いて降伏
- 32年7月27日-08:00|中国| ||後漢・建武8年閏6月|隗囂の大將13人、属県16、兵士10万あまりがみな降伏/隴右潰れ、隗囂が楊広とともに西城に奔った
- 32年10月23日-08:00|中国| ||後漢・建武8年9月|張歩が叛逆を企て妻子を連れて臨淮に逃れ、琅邪太守陳俊の追撃を受け、尽く誅殺された
- 32年10月28日-08:00|中国| ||後漢・建武8年9月6日|帝みずから潁川の盜賊を制し、すべて降した/帝は魴に各集落を降伏させて渠中を平定
- 32年12月21日-08:00|中国| ||後漢・建武8年9月6日|隗囂との戦いは数か月続いていた/隗囂が敗走すると、公孫述の援軍も敗れた
- 33年-05:30|スリヤカ| |||<即位>アヌラダ<sup>ダ</sup>プ<sup>ラ</sup>王国国王「Chulabhaya」Amandagamani Abhayaの息子(~35年)
- 33年-01:00|パ<sup>チ</sup>カ| |||<就任>初代ローマ教皇「ペ<sup>ト</sup>ロ」(~67年死去)
- 33年1月20日-08:00|中国/朝鮮| ||高句麗・大武神15年;漢・建武8年12月|遣使を漢に入朝させて朝貢/後漢の光武帝は、新の王莽が『侯』に格下げした高句麗の位を『王』に戻した
- 33年2月18日-08:00|中国| ||後漢・建武9年正月|<死去>公孫述冊立・朔寧王「隗囂」病死
- 33年2月18日-08:00|中国| ||後漢・建武9年正月|<就任>公孫述冊立・朔寧王「隗純」
- 33年4月19日-08:00|中国| ||後漢・建武9年3月|公孫述が、將軍の田戎、任滿、程汎の数万人を遣わし馮駿、田鴻、李玄らを撃ち破った/続けて夷道、夷陵を抜き、荊門、虎牙を占拠
- 33年9月13日-08:00|中国| ||後漢・建武9年8月|馬援を来歙の副として諸將を監督して涼州を平らげた/蓋延は西に街泉、略陽、清水の各陣地を撃ち、みな定めた/馬成は武威將軍劉尚らを率いて、河池を破り武都を平らげた
- 34年-04:00|アルメニア| |||<即位>アルメニア王(アルタクシア朝)「アルケス1世」(~35年)
- 34年-04:00|アルメニア/イラン| |||パ<sup>ル</sup>ティア王アルタバ<sup>ヌ</sup>ス2世のアルメニア攻撃
- 34年2月8日-08:00|中国| ||後漢・建武10年|<死去>後漢・泗水国「泗水王(劉歙)」
- 34年2月8日-08:00|中国| ||後漢・建武10年|<死去>後漢・サイ川国「サイ川王(劉終)」
- 34年2月8日-08:00|中国| ||後漢・建武10年|この年、定襄郡を省き、その民を西河に移した
- 34年2月8日-08:00|中国| ||後漢・建武10年正月|匈奴が騎兵を遣わして覽を救った/諸將がこれと戦い退けた
- 34年6月-08:00|中国| ||後漢・建武10年夏|征西大將軍馮異が公孫述の將軍趙匡を天水に破り、これを斬った
- 34年10月2日-09:00|韓国/朝鮮| ||百済・多婁王7年9月|靺鞨が馬首城を攻め落とす
- 34年11月1日-08:00|中国| ||後漢・建武10年10月|<退任>公孫述冊立・朔寧王「隗純」後漢・中郎将来歙らに落門で破れ、降る/周宗、趙恢と天水郡の各県が降り、隴右を平定
- 34年11月1日-08:00|中国| ||後漢・建武10年10月|先零羌が金城、隴西に侵攻したので、来歙率いる諸將が五溪に羌を撃ち、これを大いに破った
- 35年-05:30|スリヤカ| |||<即位>アヌラダ<sup>ダ</sup>プ<sup>ラ</sup>王国国王「Sivali」Chulabhayaの姉妹(~35年)
- 35年-04:00|アルメニア| |||<即位>アルメニア王(アルタクシア朝)「オー<sup>テ</sup>ス」(~同年)⇒「ミ<sup>リ</sup>タ<sup>テ</sup>ス」(~37年)ローマ指名
- 35年-03:30|イラン| |||<即位>パ<sup>ル</sup>ティア王「アルサケス29世(ティリタ<sup>テ</sup>ス3世)」(~36年廃位)
- 35年-01:00|イタリヤ/アルメニア/イラン| |||ローマはウ<sup>ォ</sup>ノヌ1世の弟の息子ティリタ<sup>テ</sup>ス3世を派遣し、彼はローマの支持の下でパ<sup>ル</sup>ティア王を名乗った/アルタバ<sup>ヌ</sup>ス2世はヒルコニアへと落ち延びた
- 35年1月28日-08:00|中国| ||後漢・建武11年|この年、朔方牧を省き、并州と合併

0200迄 (1588件)

35年2月27日-08:00|中国| ||後漢・建武11年2月|<死去>後漢・城陽国「城陽恭王(劉祉)」  
35年2月27日-08:00|中国| ||後漢・建武11年2月|<廃位>後漢・太原国「齊哀王(劉章)」齊公に降格  
35年4月27日-08:00|中国| ||後漢・建武11年閏3月|岑彭が荊門山で蜀軍に勝利、田戎は江関へ敗走/任滿の將の  
王政が滿の首を斬って岑彭に降った/岑彭は平曲を破り巴郡を平定  
35年5月26日-08:00|中国| ||後漢・建武11年夏|馬援は先零羌を臨とうに撃ち破り、要塞を守っていた諸羌八千人  
あまりが馬援に降伏  
35年7月24日-08:00|中国| ||後漢・建武11年6月|中郎将来歙が揚武將軍馬成を率いて公孫述の將軍王元、環安を  
下弁に破った  
35年9月21日-08:00|中国| ||後漢・建武11年8月|岑彭は、黄石灘を守る侯丹を撃破し、さらに延岑らの軍の後背  
地である武陽を速攻で攻略/輔威將軍臧宮と、公孫述の將軍延岑が沈水に戦い、これを大いに破った  
36年-03:30|イラン| ||<廃位>パルティア王「アルサクス29世(ティリダテ3世)」  
36年-03:30|イラン/イタリヤ| ||アルサクス2世は勢力を盛り返し西部領土を回復し、ローマと協定を結んだ  
36年2月16日-08:00|中国| ||後漢・建武12年|この年、金城郡を省いて隴西に属させた  
36年2月16日-08:00|中国| ||後漢・建武12年|この年、參狼羌が武都に侵攻したが、隴西太守馬援がこれを討って  
降した  
36年2月16日-08:00|中国| ||後漢・建武12年正月|己未、小さな星が百以上も流れ、あるいは西北へ、あるいは真  
北へ、あるいは東北へと向かい、二夜しておさまった  
36年2月16日-08:00|中国| ||後漢・建武12年正月|大司馬吳漢が公孫述の將、魏党、公孫永と魚津で戦い大いに  
破り武陽を包圍/吳漢は軍を進めて広都を攻めてこれを抜いた/武陽より東の小さな城はみな降伏  
36年4月15日-08:00|中国| ||後漢・建武12年夏|甘露が南行唐に降った  
36年7月17日-08:00|中国| ||後漢・建武12年6月5日|昼に小さな星が百以上も流れ、四方八方に飛び散った  
36年8月11日-08:00|中国| ||後漢・建武12年7月|<死去>公孫述冊立・翼江王「田戎」威虜將軍馮駿が江州を抜き捕  
らえ処刑  
36年9月10日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・儒理13年8月|楽浪が新羅の北部を侵犯、朶山城を攻撃して陥落させた  
36年10月9日-08:00|中国| ||後漢・建武12年9月|吳漢が、公孫述の大司徒謝豊、執金吾袁吉を破って斬り、成都を  
囲んだ/この後、吳漢が公孫述に広都和成都の間で、八戦八勝し吳漢軍は成都城の郭中に入った/延岑は大司馬  
吳漢を市橋で奇襲して破り、一矢を報いた  
36年10月9日-08:00|中国| ||後漢・建武12年9月|輔威將軍臧宮は、綿竹を抜き、乃城を破り、公孫述の弟の恢を斬  
り、さらに繁、ひを抜いた/臧宮は続けて大城を屠った  
36年12月7日-08:00|中国| ||後漢・建武12年11月|<死去>公孫述冊立・汝寧王「延岑」後漢に降伏したが殺害され  
た  
36年12月7日-08:00|中国| ||後漢・建武12年11月|<死去>自称・成家皇帝「公孫述」後漢軍に敗れ戦死  
36年12月7日-08:00|中国| ||後漢・建武12年11月|吳漢が巴蜀平定し、天下統一  
37年-04:00|アルメニア| ||<復位>アルメニア王(アルタクシア朝)「オロデス」(~42年)  
37年-03:30|イラン| ||<即位>パルティア王「アルサクス30世(キナムス)」(~同年退位)  
37年-03:30|イラン| ||<廃位>パルティア王「アルサクス28世(アルサクス2世)」従属王国の1つアデリアパネ王国に逃れた  
37年-02:00|イスラエル| ||<即位>ヘロド朝ユダヤ王「アグリッパ1世」(~44年死去)  
37年2月4日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・大武神20年|高句麗の王・無恤(大武神王)が楽浪を襲って滅亡させた  
37年3月6日-08:00|中国| ||後漢・建武13年2月|<廃位>後漢・河間国「河間王(劉邵)」樂成侯に降格  
37年3月6日-08:00|中国| ||後漢・建武13年2月|<廃位>後漢・真定国「真定王(劉得)」真定侯に降格  
37年3月6日-08:00|中国| ||後漢・建武13年2月|<廃位>後漢・中山国「中山王(劉茂)」穰侯に降格  
37年3月6日-08:00|中国| ||後漢・建武13年2月|<廃位>後漢・長沙国「長沙王(劉興)」臨湘侯に降格  
37年3月6日-08:00|中国| ||後漢・建武13年2月|<廃位>後漢・魯国「北海靖王(劉興)」魯公に降格  
37年3月6日-08:00|中国| ||後漢・建武13年2月|<廃位>趙国「趙孝王(劉良)」趙公に降格  
37年3月16日-01:00|イタリヤ| ||<死去>ローマ皇帝「ティベリウス」(誕生BC42年11月16日)(享年77)  
37年3月18日-01:00|イタリヤ| ||<即位>ローマ皇帝「カリクラ」(~41年1月24日近衛隊による暗殺)  
37年6月3日-08:00|中国| ||後漢・建武13年5月|匈奴が河東に侵攻  
37年12月26日-08:00|中国| ||後漢・建武13年12月|金城郡をふたたび置いた  
38年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプラ王国国王「Ilanaga(Elunna)」Queen Sivaliの甥(~44年)  
38年-04:00|アルメニア| ||<即位>コンマゲネ国王「アンティオコス4世(~72年王国滅亡)」  
38年-03:30|イラン| ||<死去>パルティア王「アルサクス2世」  
38年-03:30|イラン| ||<即位>パルティア王「コタルセ2世」アルサクス2世の息子達を殺害して(~51年)  
38年-02:00|トルコ| ||<死去>ポントス王「ピュトリダ」  
38年-02:00|ブルガリア/ギリシャ/トルコ| ||<即位>サバイ王「ロメタルス3世」コテュスの子(~46年);「ピトリダ2世」ロメタルス3世  
の共同王、妃、従妹(~46年)  
38年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ホースロイス王(サルトコス朝)「ゲハエリス」(~39年);「ホレモ2世」ポントス王(~39年);「ミトリダテス  
」(~46年)  
38年-02:00|トルコ| ||<即位>ポントス王「ホレモン2世」(~64年)  
39年3月13日-08:00|中国| ||後漢・建武15年正月29日|昂に彗星が出現  
39年7月10日-08:00|中国| ||後漢・建武15年6月|耕地、戸籍の調査が実施される  
39年8月3日-08:00|中国| ||後漢・建武15年6月25日|ふたたび屯騎、長水、射声の三つの校尉の官を置いた  
40年-03:30|イラン| ||<死去>パルティア王「アルサクス28世(アルサクス2世)」

0200迄 (1588件)

- 40年-03:30|イラン| ||<即位>パルティア王「アルサス31世(ゴタルベス2世)」(~51年死去);「アルサス32世(ウァルダネス1世)」(~46年ゴタルベス2世に殺される)
- 40年-02:00|エジプト| ||エリトリア海案内記がアレクサンドリアで刊
- 40年4月1日-07:00|ベトナム/中国| ||後漢・建武16年3月|交趾の女子徴側が反し、城邑を攻略した/九真、日南、合浦の蛮里はみなこれに応じ攻略することおよそ65城、自立して王となった(~42)
- 40年4月30日-08:00|中国| ||後漢・建武16年3月30日|晦、日食があった
- 40年10月25日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・儒理17年9月|華麗県と不耐二県の人々が共謀して、騎兵を率いて、新羅の北国境を侵犯/狛国の首長が出兵して曲河の西で待ち受け打ち負かした
- 40年11月23日-08:00|中国| ||後漢・建武16年10月|<退位>自称・漢皇帝「盧芳」後漢に降る⇒<就任>後漢・代国「代王(盧芳)」(~42年)
- 41年-04:00|アルメニア/イタリア| ||アルメニアをローマが占領(~47年)
- 41年1月24日-01:00|イタリア| ||<死去>ローマ第3代皇帝「カリクラー」近衛軍に暗殺される/28歳(誕生00120821)
- 41年1月25日-01:00|イタリア| ||<即位>ローマ第4代皇帝翌日クラウディウス(~00541013小アグリッパナによる暗殺)
- 41年4月19日-08:00|中国| ||後漢・建武17年2月29日|日食があった
- 41年8月16日-08:00|中国| ||後漢・建武17年7月|妖巫李広らが挙兵して皖城を占拠
- 41年10月14日-08:00|中国| ||後漢・建武17年9月|皖城を破り、李広らを斬った
- 41年12月1日-08:00|中国| ||後漢・建武17年10月19日|<就任>後漢・左馮翊王「左馮翊王(劉焉)」
- 41年12月1日-08:00|中国| ||後漢・建武17年10月19日|<就任>後漢・済南国「済南安王(劉康)」
- 41年12月1日-08:00|中国| ||後漢・建武17年10月19日|<就任>後漢・山陽国「山陽王(劉荊)」
- 41年12月1日-08:00|中国| ||後漢・建武17年10月19日|<就任>後漢・楚国「楚厲王(劉英)」
- 41年12月1日-08:00|中国| ||後漢・建武17年10月19日|<就任>後漢・中山国「中山王(劉輔)」
- 41年12月1日-08:00|中国| ||後漢・建武17年10月19日|<就任>後漢・東海国「東海王(劉陽)」
- 41年12月1日-08:00|中国| ||後漢・建武17年10月19日|<就任>後漢・東平国「東平憲王(劉蒼)」
- 41年12月1日-08:00|中国| ||後漢・建武17年10月19日|<就任>後漢・淮陽国「淮陽王(劉延)」
- 41年12月1日-08:00|中国| ||後漢・建武17年10月19日|<就任>後漢・琅邪王「琅邪孝王劉京」
- 41年12月1日-08:00|中国| ||後漢・建武17年10月19日|<就任>後漢・琅邪国「琅邪孝王(劉京)」
- 42年-04:00|アルメニア| ||<復位>アルメニア王(アルカシアス朝)「ミトリダテス」(~51年)ローマ指名
- 42年-03:30|イラン| ||ウァルダネス1世が再度セウケア市を包囲し、セウケア大反乱を鎮圧
- 42年3月11日-08:00|中国| ||後漢・建武18年2月|蜀郡の守将史轍が叛し大司馬呉漢を率いる二将軍がこれを討ち成都を囲んだ
- 42年6月8日-08:00|中国| ||後漢・建武18年5月|<退位>後漢・代国「代王(盧芳)」再び反逆し間もなく匈奴支配地域へ引き返した
- 42年8月6日-08:00|中国| ||後漢・建武18年7月|呉漢が成都を抜き、史轍らを斬った
- 43年-03:30|イラン| ||再び戦端が開かれ、ゴタルベス2世はウァルダネス1世に敗北して勢力を大幅に減退/ウァルダネス1世がパルティアの大部をその支配下に納めた
- 43年-01:00|イタリア/ギリシア| ||ローマ皇帝クラウディウスがブリティン島の大部分を征服
- 43年1月30日-08:00|中国| ||後漢・建武19年正月|妖巫単臣、傅鎮らが反し、原武を占拠/太中大夫臧宮がこれを平定
- 43年1月30日-07:00|ベトナム/中国| ||後漢・建武19年正月|後漢の馬援は交趾を破り、徴側、徴武らを斬り平定/九真の賊、都陽らを進んで撃ち、これを破って降し、嶺南・嶺表はことごとく平らいだ
- 43年6月21日-08:00|中国| ||後漢・建武19年閏4月25日|<再任>後漢・魯国「魯王(劉興)」
- 43年6月21日-08:00|中国| ||後漢・建武19年閏4月25日|<就任>後漢・齊国「齊哀王(劉章)」
- 43年6月21日-08:00|中国| ||後漢・建武19年閏4月25日|<就任>後漢・趙国「趙節王(劉栩)」
- 43年7月26日-08:00|中国| ||後漢・建武19年6月|<就任>後漢・東海国「東海恭王(劉彊)」
- 43年7月26日-08:00|中国| ||後漢・建武19年6月|<退任>後漢・東海国「東海王(劉陽)」皇太子となる
- 43年10月23日-08:00|中国| ||後漢・建武19年9月|西南夷が益州郡に侵攻し武威將軍劉尚を遣わしてこれを討った
- 44年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Chandamukha」Ilanagaの息子(~52年)
- 44年-02:00|イスラエル| ||<死去>ヘレ朝ユダヤ王「アグリッパ1世」
- 44年-02:00|イスラエル| ||<即位>ヘレ朝ユダヤ王「アグリッパ2世」(~100年死去)
- 44年1月19日-08:00|中国| ||後漢・建武19年12月|劉尚が謀反した越雋太守任貴を襲ってこれを誅した
- 44年6月15日-08:00|中国| ||後漢・建武20年5月|匈奴が上党・扶風・天水に侵入
- 44年8月1日-08:00|中国| ||後漢・建武20年6月19日|<改封>後漢・中山国「中山王(劉輔)」⇒沛国「沛獻王(劉輔)」
- 44年10月11日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||後漢・建武20年9月|漢の光武帝が兵を派遣し楽浪郡を討伐、その地を奪い取って郡県とした/薩水以南は後漢に属す
- 44年11月9日-09:00|朝鮮| ||高句麗・大武神27年10月|<死去>高句麗王「大武神王」
- 44年11月9日-09:00|朝鮮| ||高句麗・大武神27年10月|<即位>高句麗王「閔中王」(~48年)
- 45年-05:00|パキスタン| ||<即位>インド・スキタイ王国(アフラクシヤス)国王「Sasan」(~50年)
- 45年-03:30|イラン| ||<即位>パルティア王「アルサス33世(ウァルダネス2世)」(~51年死去)
- 45年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ホース朝王(ホルトコス朝)「コテシ1世」(~62年)
- 45年1月8日-08:00|中国| ||後漢・建武20年12月|匈奴が天水に侵攻
- 45年2月6日-08:00|中国| ||後漢・建武21年正月|武威將軍劉尚が益州夷を破り、これを平定

0200迄 (1588件)

- 45年5月6日-08:00|中国| ||後漢・建武21年4月|安定属国の胡が叛し、青山に集まって屯した/長史陳轅が兵を率いてこれを討って平定
- 45年8月2日-08:00|中国| ||後漢・建武21年秋|鮮卑が遼東に侵攻したが、遼東太守祭犛がこれを大いに破った
- 45年10月30日-08:00|中国| ||後漢・建武21年10月|伏波將軍馬援が塞から出て烏桓を撃ったが勝てなかった
- 45年10月30日-08:00|中国| ||後漢・建武21年10月|匈奴が上谷、中山に侵攻した
- 46年-05:30|インド| |||<即位>インド・パルティア王「アブダガセス1世」(~60年死去)
- 46年-03:30|イラン| |||<死去>パルティア王「アルサス32世(ゴタルネス2世)」ゴタルネス2世に殺される
- 46年-02:00|ブルガリア/ギリシャ/イタリア/トルコ| |||ローマがトラキアを属州とする
- 46年1月26日-08:00|中国| ||後漢・建武22年|<死去>後漢・斉国「齊哀王(劉章)」
- 46年1月26日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・建武22年|<死去>匈奴単于「呼都而尸道皋若テ単于(輿)」
- 46年1月26日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・建武22年|<即位>匈奴単于「烏達テ侯単于(烏達テ侯)」呼都而尸道皋若テ単于の子(~同年死去)⇒北匈奴単于「蒲奴単于(蒲奴)」呼都而尸道皋若テ単于の子、烏達テ侯の弟
- 46年1月26日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・建武22年|この年、烏桓が匈奴を撃って破り、幕南の地は空になった
- 46年7月22日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・建武22年5月30日|日食
- 47年2月14日-08:00|中国| ||後漢・建武23年|<就任>後漢・斉国「齊煬王(劉石)」
- 47年2月14日-08:00|中国| ||後漢・建武23年正月|南郡が蛮反し、武威將軍劉尚を遣わして討ちこれを破り、その部族を江夏に移住させた
- 47年11月7日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||高句麗・閔中4年;後漢・建武23年10月|高句麗蠶支落部の大家「戴升」らが一万余家を連れて楽浪郡に詣でて漢に投降
- 48年1月5日-08:00|中国| ||後漢・建武23年12月|武陵蛮が反し、郡県に攻め入り略奪/劉尚を遣わしてこれを討ってがげん水で敗れた
- 48年2月4日-09:00|朝鮮| ||高句麗・閔中5年|<死去>高句麗王「閔中王」
- 48年2月4日-09:00|朝鮮| ||高句麗・慕本1年|<即位>高句麗王「慕本王」(~53年)
- 48年2月4日-08:00|中国/朝鮮| ||後漢・建武24年正月;高句麗・慕本2年|高句麗王は兵を漢の北平、漁陽、上谷、太原に派遣して襲撃/遼東太守の祭庶福、恩情と信頼を以てこれを諭す/再び和親
- 48年2月4日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・建武24年正月|南匈奴呼韓邪単于が北匈奴を撃ち破り、その地を千里余りも退けた
- 48年7月30日-08:00|中国| ||後漢・建武24年7月|武陵蛮臨ガンに侵攻し、謁者李嵩、中山太守馬成を遣わし蛮を討ったが勝てなかった
- 48年10月26日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・建武24年10月|<自立即位>南匈奴単于「醯落尸逐テ単于(比)」烏珠留若テ単于の子(~56年)/匈奴、南北に分裂
- 49年-03:30|イラン| |||<即位>パルティア王「アルサス34世(ミトリダテス)」(~50年廃位)
- 49年2月22日-08:00|中国| ||後漢・建武25年春|馬援の軍が臨郷に至り、武陵蛮に遭遇し馬援はこれを破った
- 49年5月20日-08:00|中国| ||後漢・建武25年3月29日|日食があった
- 49年11月14日-08:00|中国| ||後漢・建武25年10月|後漢の伏波將軍馬援らが武陵蛮を破る
- 50年-05:30|インド/パキスタン| |||このころガンダラ美術生れる
- 50年-05:30|インド| |||クシャーナ朝のクジュラカトフィセス、ガンダラ地方に進出
- 50年-03:30|イラン| |||<廃位>パルティア王「アルサス34世(ミトリダテス)」
- 50年-03:00|イラク| |||<即位>エリミス王国(アルサス朝)第14代国王「オロテス2世」オロテス1世の息子(~70年)
- 50年-02:00|エジプト/ Sudan | |||<即位>クシュ王「アマニヌミテ」(~62年)
- 50年6月-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・建武26年夏|<即位>南匈奴単于「イクン左賢王単于」北匈奴蒲奴単于の弟(~同年死去)
- 51年-05:30|インド| |||タミル地方でシャンガム文学が始まる
- 51年-04:00|アゼルバイジャン| |||<即位>アトロパテネ王「パコルス」(~78年)
- 51年-04:00|アルメニア| |||<即位>アルメニア王(アルサス朝)「ラダミストゥス」イベリア王ファラマナス1世の子(~53年)
- 51年-03:30|イラン| |||<死去>パルティア王「アルサス31世(ゴタルネス2世)」病没
- 51年-03:30|イラン| |||<死去>パルティア王「アルサス33世(ゴオノネス2世)」
- 51年-03:30|イラン| |||<即位>パルティア王「アルサス35世(ゴオカセス1世)」(~77年死去)
- 52年-05:30|スリランカ| |||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Yassalalaka Gandhamuka Siva」の弟(~60年)
- 52年-04:00|アルメニア| |||<復位>アルメニア王(アルサス朝)「テリダテス1世」(2度目~58年)
- 52年2月19日-08:00|中国| ||後漢・建武28年正月|<改封>後漢・魯国「魯王(劉興)」⇒北海国「北海靖王(劉興)」
- 53年-04:00|アルメニア| |||<復位>アルメニア王「ラダミストゥス」(2度目~54年)ローマ指名
- 53年3月9日-08:00|中国| ||後漢・建武29年2月1日|朔、日食があった
- 53年11月30日-09:00|朝鮮| ||高句麗・慕本6年11月|<死去>高句麗王「慕本王」杜魯という側近に殺害された
- 53年11月30日-09:00|朝鮮| ||高句麗・太祖1年11月|<即位>高句麗王「太祖大王」(~146.12)/7歳だったため、王母がしばらく摂政
- 54年-05:30|インド| |||<即位>サタヴァハナ朝国王「Nahapana」(~100年)
- 54年1月28日-08:00|中国| ||後漢・建武30年正月|鮮卑大人が内属し、朝で賀した
- 54年2月27日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・儒理31年2月|ほうき星が紫宮に現われた
- 54年6月3日-08:00|中国| ||後漢・建武30年4月9日|<改封>後漢・左馮翊国「左馮翊王(劉焉)」⇒中山国「中山簡王(劉焉)」
- 54年10月13日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ローマ皇帝「クラウディウス」妻のアグリッパに毒殺された(誕生BC10年)

0200迄 (1588件)

- 54年10月13日-01:00|イタリヤ| |||<即位>ローマ皇帝「ネロ」(~00680609廃位)
- 55年-03:30|イラン| |||<即位>パルティア王「アルサケス36世(ヴァルタネス2世)」(~58年廃位)
- 55年-01:00|イタリヤ| |||パウロがローマに入り、キリスト教の伝道を開始
- 55年7月13日-08:00|中国| ||後漢・建武31年5月30日|日食があった
- 55年9月11日-09:00|韓国/朝鮮| ||百済・多婁王28年8月|靺鞨が北鄙を侵す
- 56年2月5日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・建武32年|<死去>南匈奴単于「醯落尸逐テ単于(比)」
- 56年2月5日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・建武32年|<即位>南匈奴単于「丘浮尤テ単于(莫)」醯落尸逐テ単于の弟(~57年)
- 56年2月5日-08:00|中国| ||後漢・建武32年|この年、参狼羌が武都に侵攻し、郡兵を敗った/隴西太守がこれを救い、また武都の郡兵も叛した羌を討ち、みなこれを破った
- 56年2月5日-08:00|中国| ||後漢・建武32年|莎車(現カザフスタン)の賢(Xian)がホータンを攻め、莎車王はホータン王の俞林を驩歸王に更迭し、弟の位侍をホータン王とした
- 56年5月14日-08:00|中国| ||後漢・建武中元1年4月11日|建武中元に改元
- 56年7月31日-09:00|朝鮮| ||高句麗・太祖4年7月|太祖大王が東沃沮を討伐し、高句麗の領土が滄海(日本海)から薩水(平安南道の清川江)に及んだ
- 56年12月25日-08:00|中国| ||後漢・建武中元1年11月29日|日食
- 57年2月23日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・建武中元2年|<死去>南匈奴単于「丘浮尤テ単于(莫)」
- 57年2月23日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・建武中元2年|<即位>南匈奴単于「伊伐於慮テ単于(汗)」丘浮尤テ単于(莫)の弟(~59年)
- 57年2月23日-08:00|中国| ||後漢・建武中元2年|<即位>ホータン王「君得」(~59年)
- 57年2月23日-08:00|中国/日本| ||後漢・建武中元2年1月|倭の奴の国王が後漢に遣使、光武帝より金印を授かる(「後漢書」東夷伝)志賀島で発見
- 57年3月29日-08:00|中国| ||後漢・建武中元2年2月5日|<死去>後漢初代皇帝「光武帝(劉秀)」/63歳(誕生BC6年)
- 57年3月29日-08:00|中国| ||後漢・建武中元2年2月5日|<即位>後漢第2代皇帝「明帝劉莊」(~75.9.5)
- 57年11月16日-09:00|韓国| ||新羅・儒理34年10月|<死去>新羅王「儒理尼師今」
- 57年11月16日-09:00|韓国| ||新羅・脱解1年10月|<即位>新羅王「脱解尼師今」(~80年)
- 58年-04:00|ジョージア| |||<死去>イバリア王「ファラスマネス1世大王」
- 58年-04:00|アルメニア| |||<即位>アルメニア王(アルサケス朝)「ティグラーネス6世」(~62年)ローマ指名
- 58年-04:00|ジョージア| |||<即位>イバリア王「ミトリダテス1世」ファラスマネス1世の息子(~106年)
- 58年-03:30|イラン| |||<廃位>パルティア王「アルサケス36世(ヴァルタネス2世)」
- 58年-01:00|イタリヤ/アルメニア/イラン| |||ローマ軍がアルメニアに侵攻し、首都アルタクサを占領、ティグラーネスはパルティアに逃亡/ローマ軍とアルメニア軍は更にアディアナを攻撃するがアディアナ王モバサス2世はパルティアの援軍を受けて跳ね返す
- 58年7月2日-08:00|中国| ||後漢・永平1年5月22日|<死去>後漢・東海国「東海恭王(劉彊)」病死
- 58年9月7日-08:00|中国| ||後漢・永平1年8月|<改封>後漢・山陽国「山陽王(劉荆)」⇒広陵国「広陵思王(劉荆)」
- 59年2月2日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永平2年|<死去>南匈奴単于「伊伐於慮テ単于(汗)」
- 59年2月2日-08:00|中国| ||後漢・永平2年|<就任>後漢・東海国「東海靖王(劉政)」(~102年)
- 59年2月2日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永平2年|<即位>南匈奴単于「醯僮尸逐侯?単于(適)」醯落尸逐テ単于の子(~63年)
- 59年5月31日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||新羅・脱解3年5月|新羅は倭国と友好関係を結んで互いに使者を交換した
- 59年6月30日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・脱解3年6月|ほうき星が天船(天の川)に現われた
- 60年-05:30|インド| |||<死去>インド・パルティア王「アプタガセス1世」
- 60年-05:30|スリランカ| |||<即位>アヌラダプura王国国王「Subharaja」(~66年)
- 60年-01:00|イタリヤ| |||テオソクリテスが「薬物誌」を著す
- 60年2月21日-08:00|中国| ||後漢・永平3年|<就任>後漢・広平国「陳敬王(劉羨)」(~82年)
- 60年2月21日-08:00|中国| ||後漢・永平3年|<就任>後漢・千乗国「千乗哀王(劉建)」(~61年)
- 60年2月21日-08:00|中国| ||後漢・永平3年|<即位>ホータン王「休莫霸」莎車王に反乱(~61年)
- 61年 00:00|イギリス/イタリヤ| |||ブリタニアでケレ族女王ボウディッカの大規模な反ローマ蜂起、ロンディウム(ロンドン)を略奪するがローマ軍により鎮圧
- 61年2月9日-08:00|中国| ||後漢・永平4年|<即位>ホータン王「广徳」(~97年)莎車王を破り精絶西北から疏勒までの13王国を服従させた
- 61年2月9日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永平4年|北匈奴が五原郡に侵入、適これを破る
- 61年9月4日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・脱解5年8月|馬韓の將軍・孟召が覆巖城をとともに新羅に降伏した
- 62年-04:00|アルメニア| |||<復位>アルメニア王(アルサケス朝)「ティグラーネス1世」(3度目~88年)ローマ指名
- 62年-02:00|エジプト/スーダン| |||<即位>クシュ王「アマニカタン女王」(~85年)
- 63年2月17日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永平6年|<死去>南匈奴単于「醯僮尸逐侯テ単于(適)」
- 63年2月17日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永平6年|<即位>南匈奴単于「丘除車林テ単于(蘇)」丘浮尤テ単于の子(~同年死去)⇒「湖邪尸逐侯テ単于(長)」醯落尸逐テ単于の子、醯僮尸逐侯テ単于の弟(~85年)
- 63年11月10日-09:00|韓国/朝鮮| ||百済・多婁王36年10月|百済王が領土を広げて、娘子谷城にまで至った
- 64年-02:00|トルコ| |||<退位>ポントス王「ホレモン2世」
- 64年-02:00|トルコ/イタリヤ| |||ポントスはローマ帝国に併合される
- 64年7月24日-01:00|イタリヤ| |||ローマで、7月13日に発生した火災が鎮火するが、初めの放火と見られる第2の火災が起

0200迄 (1588件)

こる

- 64年8月-01:00|イタリヤ| ||8月以降|和皇帝、第一回キリスト教徒迫害
- 64年9月1日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・脱解8年;百済・多婁王37年8月|百済が出兵してきて、新羅の蛙山城を攻めてきた
- 64年9月1日-08:00|中国| ||後漢・永平7年8月|<死去>後漢・北海国「北海靖王(劉興)」
- 64年10月30日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・脱解8年;百済・多婁王37年10月|百済が狗壤城を攻めてきたので、新羅王は騎兵2千人を派遣して逃走させた
- 65年-05:30|インド/パキスタン| ||クシャーン朝が西北インドに侵入し、ガンダラを征服
- 65年1月26日-08:00|中国| ||後漢・永平8年|<就任>後漢・北海国「北海敬王(劉睦)」(~74年)
- 66年2月14日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・脱解10年;百済・多婁王39年|百済が新羅の蛙山城を攻略したが、まもなく新羅軍が取り戻した
- 66年8月-01:00|イタリヤ/イスラエル/パレスチナ| ||パレスチナ、ユダヤ人の反ローマ蜂起(~00730416)
- 67年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Vasabha」(~111年死去)
- 67年-01:00|パキスタン| ||<就任>第2代ローマ教皇「リス」(~78年死去)
- 67年3月5日-08:00|中国| ||後漢・永平10年2月|<死去>後漢・広陵国「広陵思王(劉荊)」自殺
- 68年-07:00|カンボジア| ||<建国>ノコルノン(扶南)(~550年頃)
- 68年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ホスロス王(サルトコス朝)「レスホリス1世」(~93年)
- 68年2月22日-08:00|中国| ||後漢・永平11年|この頃、白馬寺を洛陽城西に建立
- 68年3月-01:00|ドイツ/イタリヤ| ||ローマのガリア総督が反ロケデーをおこすが、敗死
- 68年6月9日-01:00|イタリヤ| ||<即位>ローマ皇帝「ガルバ」
- 68年6月9日-01:00|イタリヤ| ||<廃位>ローマ皇帝「和」失脚
- 68年6月11日-01:00|イタリヤ| ||<死去>前ローマ皇帝「和」自害/30歳(誕生00371215)
- 68年9月16日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・太祖16年8月|曷思王の孫の都頭が国を挙げて高句麗に投降
- 69年1月2日-01:00|ドイツ/イタリヤ| ||ローマで、ライン軍団が反乱を起こす/4帝乱立の反乱
- 69年1月15日-01:00|イタリヤ| ||<死去>ローマ皇帝「ガルバ」シリア総督朴と近衛隊による暗殺
- 69年1月15日-01:00|イタリヤ| ||<即位>ローマ皇帝「オト」
- 69年4月15日-01:00|イタリヤ| ||旧暦3/7|<死去>ローマ皇帝「オト」パトリウムでの戦いで敗死
- 69年4月17日-01:00|イタリヤ| ||旧暦3/7|<即位>ローマ皇帝「ウイテリウス」
- 69年7月1日-01:00|イタリヤ| ||<即位>ローマ皇帝「ウエスパシアヌス」
- 69年10月-01:00|イタリヤ| ||旧暦9月|ローマでウエスパシアヌスがウイテリウスの軍を破る(クレタの戦い)
- 69年12月22日-01:00|イタリヤ| ||旧暦11/20|<死去>ローマ皇帝「ウイテリウス」ウエスパシアヌスの部将アントニウス・プリムスがローマに入城し殺害される
- 70年-03:00|イタリヤ| ||<即位>エリマイス王国(アルサス朝)第15代国王「フラーテス」(~90年)
- 70年1月31日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・脱解14年;百済・多婁王43年|百済が新羅に侵入して来た
- 70年1月31日-08:00|中国| ||後漢・永平13年|<死去>後漢・斉国「斉煬王(劉石)」
- 70年9月25日-01:00|イタリヤ/イスラエル| ||旧暦8/2|ユダヤ戦争/ローマの圧政に抵抗していたユダヤ人のエルサレムに対してローマ軍が総攻撃を開始し陥落/ユダヤ人は西海マサダに移り抵抗を続ける
- 70年12月22日-08:00|中国| ||後漢・永平13年11月|<廃位>後漢・楚国「楚厲王(劉英)」謀反/楚国を廃する(永平1年4月自殺)
- 71年-03:30|イラン| ||アトハ・ネネ王ハ・コルス2世が、アラン人の侵入を食い止めることができず王位を失った
- 71年2月19日-08:00|中国| ||後漢・永平14年|<就任>後漢・斉国「蕪湖侯(劉晃)」(~章和元年(87年)7月蕪湖侯に降格)
- 72年-04:00|アルメニア| ||<滅亡>コンマゲネ王国
- 72年3月9日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・太祖20年2月|高句麗の太祖大王が藻那国を討伐
- 72年5月7日-08:00|中国| ||後漢・永平15年4月|<就任>後漢・下比国「下比恵王(劉衍)」(~126年死去)
- 72年5月7日-08:00|中国| ||後漢・永平15年4月|<就任>後漢・楽成国「楽成靖王(劉党)」(~永元8年8月(96年5月28日)死去)
- 72年5月7日-08:00|中国| ||後漢・永平15年4月|<就任>後漢・済陰国「済陰悼王(劉長)」(~建初9年閏正月15日(00840310)死去)
- 72年5月7日-08:00|中国| ||後漢・永平15年4月|<就任>後漢・常山国「常山王(劉晒)」(~建初4年(79年)4月淮陽王に改封)
- 72年5月7日-08:00|中国| ||後漢・永平15年4月|<就任>後漢・汝南国「梁節王(劉暢)」(~建初4年(79年)4月梁王に改封)
- 72年5月7日-08:00|中国| ||後漢・永平15年4月|<就任>後漢・鉅鹿国「彭城靖王(劉恭)」(~建初4年(79年)4月江陵王に改封)
- 73年1月28日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||新羅・脱解17年|倭人が木出島に侵入/新羅王は角羽烏干を派遣し防御したが勝てず羽烏は戦死
- 73年1月28日-08:00|中国| ||後漢・永平16年|竇固が北匈奴を攻撃し、呼衍王を破る。班超が西域に派遣される
- 73年5月2日-01:00|イタリヤ/イスラエル/パレスチナ| ||ユダヤ戦争終結/ローマの圧政に苦しむユダヤ人が、66年以来反乱を起こしていたが、死海の西岸マサダでローマ軍に攻略され、抵抗は終り/以来、ユダヤ人は亡国と流浪の運命を辿る
- 73年7月23日-09:00|韓国| ||百済・多婁王46年5月30日|戊午晦、日食
- 73年8月22日-08:00|中国| ||<改封>後漢・淮陽国「淮陽王(劉延)」⇒阜陵国「阜陵質王(劉延)」(~建初元年(76年))

0200迄 (1588件)

11月阜陵侯に降格)

- 74年2月16日-08:00|中国| ||後漢・永平17年|班超が西域に遠征し、天山南路の諸国を従え西域都護、戊己校尉を復活し、後漢が直接西域経営を行う(～76)
- 74年3月17日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・太祖22年2月|王命により、桓那部(高句麗五族に準ずる部族)出身の沛者(10等中第3の官位)薛儒が朱那国(場所は不明)を攻めて、王子の乙音を捕虜にし、乙音に古鄒加を授けた
- 74年9月10日-09:00|韓国| ||新羅・脱解18年;百濟・多婁王47年8月|百濟が国境地帯に侵入してきたので、新羅王は軍隊を送って阻止
- 75年-05:30|インド| ||インド・パルティア王国の北インド地方はクシャナ朝によって再征服された
- 75年2月5日-08:00|中国| ||後漢・永平18年|<就任>後漢・北海国「北海哀王(劉基)」(～86年)
- 75年2月5日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永平18年|北匈奴、西域都護の撤退で西域を支配下に置く
- 75年9月5日-08:00|中国| ||後漢・永平18年8月6日|<死去>後漢第2代皇帝「顯宗明帝(劉莊)」
- 75年9月5日-08:00|中国| ||後漢・永平18年8月6日|<即位>後漢第3代皇帝「章帝劉炟」(～88. 4. 9)
- 75年10月29日-09:00|韓国/朝鮮| ||百濟・多婁王48年;新羅・脱解19年10月|百濟が新羅西隅の蛙山城を攻撃して奪った
- 76年2月24日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・建初1年|北匈奴、南匈奴に敗れる
- 76年10月17日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・脱解20年・百濟・多婁王49年9月|新羅王は出兵し百濟を征伐、蛙山城を奪いかえす
- 76年12月15日-08:00|中国| ||後漢・建初1年11月|<廃位>後漢・阜陵国「阜陵質王(劉延)」阜陵侯に降格
- 77年-03:30|イラン| ||<死去>パルティア王「アルサクス35世(ウァホカセ1世)」
- 77年-03:30|イラン| ||<即位>パルティア王「アルサクス37世(ウァホカセ2世)」(～89年);「アルサクス38世(ハコルス2世)」(～115年死去)
- 77年-02:00|ギリシャ| ||このころ、ディオスコリデスが「薬物誌」を著す
- 77年2月12日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・建初2年|北匈奴単于、南匈奴・鮮卑に敗れ、遠方に逃亡
- 77年9月7日-09:00|韓国| ||新羅・脱解21年8月|新羅の阿吉門は加耶の軍と黄山津の川岸で争って、一千余人の首を獲った
- 77年10月7日-09:00|韓国| ||百濟・多婁王50年9月|<死去>第2代百濟王「多婁王」
- 77年10月7日-09:00|韓国| ||百濟・己婁王1年9月|<即位>百濟王「己婁王」(～128年)
- 78年-05:30|インド| ||<即位>インド・スキタイ王国(西クシャトラパ)「チャンタ(～130)ゲサティカの子
- 78年2月2日-08:00|中国| ||後漢・建初3年|中国の將軍班超がホータンを攻めた
- 79年-01:00|パチン| ||<就任>第3代ローマ教皇「アケルトゥス」(～00880426)
- 79年3月22日-09:00|韓国| ||新羅・脱解23年2月|彗星が東方に現われ、また北方にも現われ、20日たって消滅
- 79年5月20日-08:00|中国| ||後漢・建初4年4月|<改封>後漢・常山国「常山王(劉𠄎)」⇒淮陽国「淮陽頃王(劉𠄎)」(～章和元年7月17日(00870902)死去)
- 79年5月20日-08:00|中国| ||後漢・建初4年4月|<改封>後漢・汝南国「梁節王(劉暢)」⇒梁国「梁節王(劉暢)」(～永元10年10月19日(00981130)死去)
- 79年5月20日-08:00|中国| ||後漢・建初4年4月|<改封>後漢・鉅鹿国「彭城靖王(劉恭)」⇒江陵国「彭城靖王(劉恭)」(～元和2年(85年)5月六安王に改封)
- 79年5月20日-08:00|中国| ||後漢・建初4年4月|<就任>後漢・千乘国「千乘貞王(劉伉)」(～永元5年(93年)正月24日死去)
- 79年5月26日-08:00|中国| ||後漢・建初4年4月7日|<就任>後漢・平春国「平春悼王(劉全)」(～同年死去)
- 79年6月23日-01:00|イタリア| ||<死去>ローマ皇帝「ウァレリウス」自然死/69歳(誕生00091117)和の暴政の後始末を行ってローマを立ち直らせた
- 79年6月24日-01:00|イタリア| ||<即位>ローマ皇帝「ティトゥス」ウァレリウスの息子
- 79年8月25日-01:00|イタリア| ||朝、前日のウァレリウス火山大噴火に伴う火砕流と土石流によりローマ帝国のポンペイが埋没/人口2万あまりの市民のうち2千人の死者をだす
- 80年-05:30|インド| ||<即位>クシャナ朝君主「ウァイマクタ」(～95年)
- 80年-03:30|イラン| ||<即位>パルティア王「アルサクス39世(アルタバノス4世)」ハコルス2世に敵対(～81年)
- 80年-01:00|イタリア| ||ローマにコロッセウムが完成
- 80年9月4日-09:00|韓国| ||新羅・脱解24年8月|<死去>新羅王「脱解尼師今」
- 80年9月4日-09:00|韓国| ||新羅・婆娑1年8月|<即位>新羅王「婆娑尼師今」(～112年)
- 81年1月29日-08:00|中国| ||後漢・建初6年|<死去>後漢・趙国「趙節王(劉栩)」
- 81年1月29日-08:00|中国| ||後漢・建初6年|この頃、「漢書」完成
- 81年3月16日-08:00|中国| ||後漢・建初6年2月17日|<死去>後漢・琅邪王「琅邪孝王劉京」
- 81年3月16日-08:00|中国| ||後漢・建初6年2月17日|<就任>後漢・琅邪王「琅邪夷王劉宇」(～100年)
- 81年9月13日-01:00|イタリア| ||<死去>ローマ皇帝「ティトゥス」病死/41歳(誕生00391230)
- 81年9月14日-01:00|イタリア| ||<即位>ローマ皇帝「ドミティアヌス」
- 82年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建初7年|<就任>後漢・清河国「清河孝王(劉慶)」(～106年)
- 82年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建初7年|<就任>後漢・西平国「陳敬王(劉羨)」(～88年)
- 82年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建初7年|<就任>後漢・琅邪国「琅邪夷王(劉宇)」(～103年)
- 82年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建初7年|<就任>後漢・趙国「趙頃王(劉商)」(～104年)
- 83年3月7日-08:00|中国| ||後漢・建初8年正月29日|<死去>後漢・東平国「東平憲王(劉蒼)」
- 84年1月27日-08:00|中国| ||後漢・建初9年|<就任>後漢・東平国「東平懷王(劉忠)」(～84年)
- 84年1月27日-08:00|中国| ||後漢・建初9年|<就任>後漢・任城国「任城孝王(劉尚)」(～101年)

## 0200迄 (1588件)

- 84年3月10日-08:00|中国| ||後漢・建初9年閏1月15日|<死去>後漢・済陰国「済陰悼王(劉長)」
- 84年7月28日-08:00|中国| ||後漢・建初9年6月7日|<死去>後漢・沛国「沛献王(劉輔)」
- 84年9月19日-08:00|中国| ||後漢・元和1年8月|元和に改元
- 85年-05:30|インド| |||このころ、クシャーン朝がイマ・カフイスが即位
- 85年2月13日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・元和2年|<死去>南匈奴単于「湖邪尸逐侯単于(長)」
- 85年2月13日-08:00|中国| ||後漢・元和2年|<就任>後漢・東平国「東平孝王(劉敞)」(~132年)
- 85年2月13日-08:00|中国| ||後漢・元和2年|<就任>後漢・沛国「沛釐王(劉定)」(~95年)
- 85年2月13日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・元和2年|<即位>南匈奴単于「伊屠於閭単于(宣)」伊伐於慮単于の子(~88年)
- 85年2月13日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・元和2年|南匈奴:宣、鮮卑・丁零・西域と北匈奴を攻め温犢王を殺す
- 85年2月13日-09:00|韓国/朝鮮| ||百済・己婁王9年;新羅・婆娑6年1月|百済が辺境を侵犯してきた
- 85年3月15日-08:00|中国| ||後漢・元和2年2月|四分曆に改曆
- 85年6月11日-08:00|中国| ||後漢・元和2年5月|<改封>後漢・江陵国「彭城靖王(劉恭)」⇒六安国「彭城靖王(劉恭)」(~88年)
- 86年-05:30|インド| |||<即位>サマタマ朝国王「ガウタミプトラ・サカニ」(~110年)
- 87年2月21日-08:00|中国| ||後漢・元和4年|<再任>後漢・阜陵国「阜陵質王(劉延)」(~89年)
- 87年2月21日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・元和4年|<退位>北匈奴単于「優留単于」鮮卑に殺され、その58部20万人が来降す
- 87年8月17日-08:00|中国| ||後漢・章和1年7月|<廃位>後漢・斉国「蕪湖侯(劉晃)」蕪湖侯に降格/斉国を廃する
- 87年8月17日-08:00|中国| ||後漢・章和1年7月|元和4年を改元して章和元年とする
- 87年9月2日-08:00|中国| ||後漢・章和1年7月17日|<死去>後漢・淮陽国「淮陽頃王(劉昞)」
- 87年10月15日-09:00|韓国/朝鮮| ||百済・己婁王11年8月30日|乙未晦、日食
- 88年-04:00|アルメニア| |||<即位>アルメニア王(アルサス朝)「サトルス」(~110年)
- 88年2月11日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・章和2年|<死去>南匈奴単于「伊屠於閭単于(宣)」
- 88年2月11日-08:00|中国| ||後漢・章和2年|<就任>後漢・陳国「陳敬王(劉羨)」(~97年)
- 88年2月11日-08:00|中国| ||後漢・章和2年|<就任>後漢・彭城国「彭城靖王(劉恭)」(~117年)
- 88年2月11日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・章和2年|<即位>南匈奴単于「休蘭尸逐侯単于(屯屠何)」醯落尸逐単于の子(~93年)
- 88年2月11日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・章和2年|<即位>北匈奴単于「北単于」優留単于の異母兄、右賢王
- 88年4月9日-08:00|中国| ||後漢・章和2年2月30日|<死去>後漢第3代皇帝「肅宗章帝(劉炟)」
- 88年4月9日-08:00|中国| ||後漢・章和2年2月30日|<即位>後漢第4代皇帝「和帝劉肇」(~106. 2. 13)
- 88年4月26日-01:00|パチン| |||<就任>第4代ローマ教皇「クレメンティス1世」(~00991123)
- 88年4月26日-01:00|パチン| |||<退任>第3代ローマ教皇「アナクレトゥス」
- 89年-03:30|イラン| |||<即位>パルティア王「アルサス40世(オロイシ1世)」(~130年死去)
- 89年4月29日-09:00|韓国| ||百済・己婁王13年夏|地震、死者多数
- 90年-03:30|イラン| |||<廃位>パルティア王「アルサス39世(アルタバノス4世)」パコルス2世に敗れて権力の座から追われた
- 90年-03:00|イタリ| |||<即位>エリヤス王国(アルサス朝)第16代国王「オロテス3世」オロテス2世の息子(~100年)
- 90年2月18日-08:00|中国| ||後漢・永元2年|<就任>後漢・河間国「河間孝王(劉開)」(~131年)
- 90年2月18日-08:00|中国| ||後漢・永元2年|<就任>後漢・済北国「済北恵王(劉寿)」(~121年)
- 90年2月18日-08:00|中国| ||後漢・永元2年|<就任>後漢・城陽国「城陽懐王(劉淑)」(~94年)
- 90年2月18日-08:00|中国| ||後漢・永元2年|<就任>後漢・常山国「常山殤王(劉側)」(~102年)
- 90年2月18日-08:00|中国| ||後漢・永元2年|<就任>後漢・斉国「斉恵王(劉無忌)」(~141年)
- 90年2月18日-08:00|中国| ||後漢・永元2年|<就任>後漢・阜陵国「阜陵殤王(劉沖)」(~91年)
- 90年2月18日-08:00|中国| ||後漢・永元2年|<就任>後漢・北海国「北海王(劉威)」(~96年)
- 90年2月18日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永元2年|南匈奴:屯屠何、漢とともに北匈奴を破り閼氏を捕らえる
- 90年2月18日-08:00|中国/インド| ||後漢・永元2年|班超がタリム盆地でクシャーン王国の侵入軍を撃退
- 90年7月27日-08:00|中国| ||後漢・永元2年6月12日|<死去>後漢・中山国「中山簡王(劉焉)」
- 91年2月7日-08:00|中国| ||後漢・永元3年|<就任>後漢・中山国「中山夷王(劉憲)」(~118年)
- 91年2月7日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永元3年|<即位>北匈奴単于「於除ケ単于(於除ケ)」北単于の弟(~93年)漢に降伏
- 91年2月7日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永元3年|<退位>北匈奴単于「北単于」後漢と南匈奴の連合軍に敗れ烏孫に亡命
- 91年12月29日-08:00|中国| ||後漢・永元3年12月|漢の西域放棄後、疏勒に留まった班超が西域平定の功により西域都護に任ぜられる(~102)
- 92年1月28日-08:00|中国| ||後漢・永元4年|班固・班昭兄妹による『漢書』の成立
- 93年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ホスロウス王(サルトルス朝)「サロメテス1世」(~123年)
- 93年2月15日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永元5年|<死去>南匈奴単于「休蘭尸逐侯単于(屯屠何)」
- 93年2月15日-08:00|中国| ||後漢・永元5年|<就任>後漢・広宗国「広宗殤王(劉万歳)」(~93年)
- 93年2月15日-08:00|中国| ||後漢・永元5年|<就任>後漢・阜陵国「阜陵頃王(劉魴)」(~122年)
- 93年2月15日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永元5年|<即位>南匈奴単于「安国単于(安国)」伊伐於慮単于の子、伊屠於閭単于の弟(~94年)
- 93年3月10日-08:00|中国| ||後漢・永元5年正月24日|<死去>後漢・千乘国「千乘貞王(劉伉)」

0200迄 (1588件)

- 94年2月4日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永元6年|<死去>南匈奴単于「安国単于(安国)」漢の仲裁を拒んで討伐を受け舅に殺害される
- 94年2月4日-08:00|中国| ||後漢・永元6年|<就任>後漢・千乘国「楽安夷王(劉寵)」(~95年)
- 94年2月4日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永元6年|<即位>南匈奴単于「亭独尸逐侯テ単于(師子)」醜懂尸逐侯テ単于の子(~98年)
- 94年2月4日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永元6年|<即位>北匈奴単于「逢侯単于(逢侯)」休蘭尸逐侯テ単于の子(~118年)匈奴の部族長、反乱を起こしてたてる
- 94年2月4日-08:00|中国| ||後漢・永元6年|班超が焉耆を討ち、後に西域の五国が漢に服属する
- 94年3月5日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・婆娑15年2月|伽椰の敵(賊)が馬頭城を包囲したので、阿吉元を派遣して騎兵一千人を率いて攻撃して敗走させた
- 95年-05:30|インド| ||<即位>クシャナ朝君主「ウイマ・カト・フイェス(カト・フイェス2世)」(~127年)
- 95年2月23日-08:00|中国| ||後漢・永元7年|<就任>後漢・楽安国「楽安夷王(劉寵)」(~121年)
- 95年2月23日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永元7年|南匈奴単于「亭独尸逐侯テ単于(師子)」、漢将朱徽・任尚らの助力で逢侯を破る
- 96年2月12日-08:00|中国| ||後漢・永元8年|<就任>後漢・楽成国「楽成哀王(劉崇)」(~96年)
- 96年2月12日-08:00|中国| ||後漢・永元8年|<就任>後漢・沛国「沛節王(劉正)」(~109年)
- 96年2月12日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永元8年|匈奴の右温犢王烏居戦、漢に反乱を起こす
- 96年5月28日-08:00|中国| ||後漢・永元8年4月18日|<死去>後漢・楽成国「楽成靖王(劉党)」
- 96年9月18日-01:00|イタリヤ| ||<死去>ローマ皇帝「トミリアス」召使による暗殺/44歳(誕生00511024)
- 96年9月18日-01:00|イタリヤ| ||<即位>ローマ皇帝「ネロ」五賢帝時代が始まる
- 96年10月5日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・婆娑17年9月|加耶人が(新羅の)南側辺境を襲ったので、加城主・長世を派遣し阻むようにした。しかし、賊軍に殺された。王は怒って勇士5千人を率いて出戦して加耶軍を破った
- 97年2月1日-08:00|中国| ||後漢・永元9年|<死去>後漢・濟南国「濟南安王(劉康)」
- 97年2月1日-08:00|中国| ||後漢・永元9年|<就任>後漢・楽成国「楽成釐王(劉巡)」(~111年)
- 97年2月1日-08:00|中国| ||後漢・永元9年|<就任>後漢・陳国「陳思王(劉鈞)」(~117年)
- 97年2月1日-08:00|中国| ||後漢・永元9年|甘英が班超の命でローマに派遣され、バルティア国に至る
- 98年-01:00|イタリヤ| ||<即位>「ゲルマニア」を刊
- 98年1月27日-01:00|イタリヤ| ||<死去>ローマ皇帝「ネロ」病死/67歳(誕生00301108)
- 98年1月28日-01:00|イタリヤ| ||<即位>ローマ皇帝「トラヤヌス」ゲルマニアで戦っていた/ヒスパニア出身
- 98年2月20日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永元8年|<死去>南匈奴単于「亭独尸逐侯テ単于(師子)」
- 98年2月20日-08:00|中国| ||後漢・永元10年|<就任>後漢・濟南国「濟南簡王(劉錯)」(~103年)
- 98年2月20日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永元8年|<即位>南匈奴単于「萬氏尸逐侯テ単于(檀)」湖邪尸逐侯テ単于の子(~124年)
- 98年11月30日-08:00|中国| ||後漢・永元10年10月19日|<死去>後漢・梁国「梁節王(劉暢)」
- 99年-01:00|バチカン| ||<就任>第5代ローマ教皇「エウアリストゥス」(~01051027)
- 99年-01:00|バチカン| ||<退任>第4代ローマ教皇「クレムス1世」
- 99年2月9日-08:00|中国| ||後漢・永元11年|<就任>後漢・梁国「梁恭王(劉堅)」(~124年)
- 100年-09:00|日本| ||この頃石器が消滅し鉄器が普及、西日本では乾田経営始まる
- 100年-08:00|フィリピン| ||フィリピン諸島へカノク族などの移住が始まる
- 100年-05:30|インド| ||<建国>トリアラ国
- 100年-05:30|インド| ||<即位>インド・バルティア王「ハコレス」(~135年)
- 100年-03:00|イラク| ||<即位>エリマス王国(アルサス朝)第17代国王「カムスキロス・オロニス」オロニス2世の息子(~120年)
- 100年-02:00|イスラエル| ||<死去>ヘレチ朝ユダヤ王「アケリッパ2世」
- 100年-01:00|アフリカ| ||サハラに移動・荷役用家畜としてラクダが登場
- 100年 06:00|アメリカ| ||(~1500)南アフリカのGila, ソルト・リバー谷に、穴居と灌漑設備を特徴とするHohokam文化。フェニックス近郊のステークタウンが有名
- 100年1月29日-08:00|中国| ||後漢・永元12年|<就任>後漢・琅邪王「琅邪恭王劉壽」(~116年)
- 100年1月29日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永元12年|匈奴・檀、北匈奴の逢侯を破る
- 100年1月29日-08:00|中国| ||後漢・永元12年正月1日|許慎『説文解字』成る
- 101年3月18日-09:00|韓国| ||新羅・婆娑23年8月|王都に城を築いて月城と名づけた
- 101年3月25日-01:00|イタリヤ/ルーマニア| ||ローマ皇帝トラヤヌスが第1次ダキア遠征(~102)
- 102年2月6日-08:00|中国| ||後漢・永元14年|<就任>後漢・任城国「任城貞王劉安」(~120年)
- 102年8月31日-09:00|韓国| ||新羅・婆娑23年8月|首露王は音汁伐國を討伐、その国王は民とともに自らすすんで降服。悉直国・押督国の二国の王も来て降伏
- 103年1月26日-08:00|中国| ||後漢・永元15年|<就任>後漢・常山国「常山靖王劉章」(~127年)
- 103年1月26日-08:00|中国| ||後漢・永元15年|<就任>後漢・東海国「東海頃王劉肅」(~延光4年(125年)7月死去)
- 103年1月26日-08:00|中国| ||後漢・永元15年|<就任>後漢・琅邪国「琅邪恭王劉壽」(~120年)
- 104年2月14日-08:00|中国| ||後漢・永元16年|<就任>後漢・濟南国「濟南孝王劉香」(~125年)
- 104年2月14日-09:00|韓国| ||新羅・婆娑25年正月|雨が降るように多くの流れ星が落ちてきたが、地上には達しなかった
- 104年8月8日-09:00|韓国| ||新羅・婆娑25年7月|悉直が叛乱を起こしたので、出兵し討伐して平定
- 105年-05:30|インド| ||このころ、マ法典、バガヴァット・ギーターが成立

0200迄 (1588件)

- 105年-03:30|イラン| ||<即位>パルティア王「アルサス41世(ウァロガセ3世)」アルメニア王ウァロガセ1世(~148年死去)
- 105年2月2日-08:00|中国| ||後漢・永元17年|<就任>後漢・趙国「趙靖王劉宏」(~01161028(元初3年)死去)
- 105年2月2日-08:00|中国| ||後漢・永元17年|西域が征服され、ホーンも独立を失った
- 105年2月2日-08:00|中国| ||後漢・永元17年|蔡倫が紙を和帝に献上する
- 105年2月2日-09:00|韓国| ||百済・己婁王29年;新羅・婆娑26年1月|百済が使者を派遣し、和睦求めてきた
- 105年2月2日-08:00|中国/朝鮮| ||高句麗・太祖53年;後漢・永元17年1月|高句麗王は兵を派遣して漢の遼東に侵入、六県を奪掠したが、遼東太守が兵を出してこれを拒み、高句麗軍は大敗
- 105年5月2日-08:00|中国| ||後漢・元興1年4月|改元されて元興元年
- 105年6月-01:00|イタリア/ルーマニア| |||ローマ皇帝トラヤヌスが第2次ダキア遠征、ダキアの首都サルミゲタガ攻め落とされ、ダキア王デゲバルスは逃走の末、自殺
- 105年10月27日-01:00|パチカン| ||<就任>第6代ローマ教皇「アレクサンデル1世」(~01150503)
- 105年10月27日-01:00|パチカン| ||<退任>第5代ローマ教皇「エウリストウス」
- 106年-05:30|インド| |||この頃、仏像の誕生
- 106年-05:30|インド| |||「ミーマンサー・ストラ」完成
- 106年-04:00|ジョージア| ||<即位>イリア王「アマサス1世」ミトリダテ1世の息子(~116年)
- 106年-01:00|イタリア/ヨルダン| |||ローマ、アカバ湾付近の隊商都市ペトラスを併合
- 106年1月23日-08:00|中国/朝鮮| ||後漢・元興1年12月|玄菟郡、渾河流域(遼寧省撫順)へ移される
- 106年2月13日-08:00|中国| ||後漢・元興1年12月22日|<死去>後漢第4代皇帝「和帝劉肇」
- 106年2月13日-08:00|中国| ||後漢・元興1年12月22日|<即位>後漢第5代皇帝「殤帝劉隆」(~延平元年8月6日(106年9月21日)死去)
- 106年2月21日-08:00|中国| ||後漢・延平1年|<就任>後漢・平原国「平原懐王劉勝」(~113年)
- 106年3月22日-01:00|イタリア/シリア・アラブ| |||パテラ王国がローマに併合される
- 106年9月16日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・婆娑27年8月|馬頭城主に命じて加耶を討伐させた
- 106年9月21日-08:00|中国| ||後漢・延平1年8月6日|<死去>後漢第5代皇帝「殤帝劉隆」
- 106年9月21日-08:00|中国| ||後漢・延平1年8月6日|<即位>後漢第6代皇帝「安帝劉閎」(~延光4年3月10日(125年4月30日)死去)
- 106年12月-01:00|イタリア/ルーマニア| ||年末|ダキア抵抗運動も沈静化|ダキアは、クラテウス帝以来の新領土、属州ダキアとして、ローマ化が進んだ
- 107年2月10日-08:00|中国| ||後漢・永初1年|<就任>後漢・清河国「清河愍王劉虎威」(~109年)
- 107年2月10日-08:00|中国| ||後漢・永初1年|西域都護が再び廃止され、漢と西域諸国の交流が断絶
- 107年2月10日-08:00|中国/日本| ||後漢・永初1年|倭国王、帥升らを後漢に遣使。生口160人を献ずる(「後漢書」東夷伝)
- 107年3月12日-08:00|中国| ||後漢・永初1年2月|<就任>後漢・広川国「広川王劉常保」(~108年死去)
- 107年6月9日-08:00|中国| ||後漢・永初1年5月|<就任>後漢・北海国「北海頃王劉普」(~123年)
- 108年1月31日-08:00|中国| ||後漢・永初2年|<死去>後漢・広川国「広川王劉常保」
- 108年7月26日-09:00|韓国/朝鮮| ||百済・己婁王32年7月|靺鞨が牛谷に侵入、略奪
- 109年-03:30|イラン| |||パコルス2世が死去した後、西部領土における彼の地位は兄弟のオロエス1世に引き継がれた
- 109年2月18日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永初3年|匈奴:南单于檀、漢に反乱を起こす
- 109年6月24日-01:00|イタリア| |||ローマ、トラヤヌ水道の完成式が行われる
- 110年-05:30|インド| ||<即位>サタヴァハナ朝国王「Pulumavi」(~138年)
- 110年-04:00|アルメニア| ||<即位>アルメニア王(アルサス朝)「アクシダレス」オロエス1世の甥(~113年)
- 110年2月7日-08:00|中国| ||後漢・永初4年|<就任>後漢・清河国「清河恭王劉延平」(~144年)
- 110年2月7日-08:00|中国| ||後漢・永初4年|<就任>後漢・沛国「沛孝王劉広」(~144年)
- 110年2月7日-08:00|中国| ||後漢・永初4年|<即位>ホーン王「放前」(~131年)
- 110年2月7日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永初4年|匈奴:南单于檀、常山・中山に侵入して撃退され、漢に降伏
- 111年-05:30|スリランカ| ||<死去>アヌラダプラ王国国王「Vasabha」
- 111年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプラ王国国王「Vankanasika Tissa」Vasabhaの息子(~113年)
- 111年1月27日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||高句麗・太祖59年;後漢・永初5年|高句麗は遣使を以て漢に方物を貢献し、玄菟に属することを求む
- 111年1月27日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||後漢・永初5年|扶余が楽浪郡楽浪郡に侵攻し、官吏や民を殺傷/後に再び漢に帰服
- 111年1月27日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永初5年|匈奴:逢侯、鮮卑に敗れる
- 112年-01:00|イタリア| |||ローマ皇帝トラヤヌスがキリスト教徒を迫害
- 112年2月15日-08:00|中国| ||後漢・永初6年|<就任>後漢・楽成国「楽成隠王劉賓」(~119年)
- 112年2月15日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永初6年|匈奴:逢侯、漢に降伏
- 112年11月7日-09:00|韓国| ||新羅・祇摩1年10月|<死去>新羅王「婆娑尼師今」
- 112年11月7日-09:00|韓国| ||新羅・祇摩1年10月|<即位>新羅王「祇摩尼師今」(~134年)
- 113年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプラ王国国王「Gajabahu1世」Vankanasika Tissaの息子(~135年)
- 113年-05:30|スリランカ| ||<即位>ホーン王「Gajabahu2世」Vikramabahu1世の息子(~1153年)
- 113年-04:00|アルメニア| ||<死去>アルメニア王(アルサス朝)「アクシダレス」
- 113年-04:00|アルメニア| ||<即位>アルメニア王(アルサス朝)「パルマシリス」(~114年)
- 113年4月4日-09:00|韓国/朝鮮| ||百済・己婁王37年;新羅・祇摩2年3月|百済が使者を派遣して来訪した

0200迄 (1588件)

- 114年-04:00|アルメニア/イタリヤ/イラン| |||<死去>アルメニア王(アルサス朝)「ハルサシス」殺される/ローマ皇帝トラヤヌスがアルメニアをローマの属州とし、版図を拡大(~117年)
- 114年2月23日-08:00|中国| ||後漢・元初1年|<就任>後漢・平原国「平原哀王劉得」(~119年)
- 114年2月23日-08:00|中国| ||後漢・元初1年1月|元初と改元
- 115年-03:30|イラン| |||<死去>パルティア王「アルサス38世(ハコルス2世)」
- 115年-01:00|イタリヤ/イラン| |||大軍を進めパルティアの首都を陥落させた
- 115年-01:00|イタリヤ/イスラエル| |||第二次ユダヤ戦争(~117年)ユダヤ人の反ローマ抵抗運動
- 115年3月14日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・祇摩4年2月|加耶が南部の辺境に侵入してきた
- 115年5月3日-01:00|パチカン| |||<就任>第7代ローマ教皇「シクストゥス1世」(~01250403死去)
- 115年5月3日-01:00|パチカン| |||<退任>第6代ローマ教皇「アレクサンデル1世」
- 115年8月8日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・祇摩4年7月|王自ら加耶を征伐/加耶人の伏兵があられて幾重にも囲んだ/王は囲みを破って退却
- 115年12月3日 04:00|トルコ| |||早朝、トルコのアンタキヤ(アンティオキア)で地震(M7.4)死者26万人
- 116年-03:30|イラン| |||<即位>パルティア王「アルサス42世(ハルタマスハテス)」(~117年廃位)
- 116年-03:00|イラク| |||<廃位>アテニアハネ王「マハスハス」ローマ帝国トラヤヌス帝に敗れる
- 116年-01:00|イタリヤ/イラン| |||トラヤヌスはパルティアに進軍/オロエシ1世は敗退し首都ケシフォンがローマ軍に占領される/ハルタマスハテスがトラヤヌスの手でパルティア王とされた/全パルティアがローマ軍に占領された
- 116年2月1日-08:00|中国| ||後漢・元初3年|<就任>後漢・琅邪王「琅邪貞王劉尊」(~133年)
- 116年8月26日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・祇摩5年8月|將軍を派遣して加耶を侵略/王は精鋭1万を従えてこれにつづくが伽椰は城にとじこもってしっかり守った/新羅軍は長い雨にあって還った
- 116年10月28日-08:00|中国| ||後漢・元初3年9月5日|<死去>後漢・趙国「趙靖王劉宏」
- 117年-04:00|アルメニア| |||<即位>アルメニア王(アルサス朝)「ウァホガセス1世」パルティア王「ウァホガセス3世」(~144年)
- 117年-04:00|ジョージア| |||<即位>イリア王「ファラスマス2世」アマズ1世の息子(~132年死去)
- 117年-03:30|イラン| |||<廃位>パルティア王「アルサス42世(ハルタマスハテス)」
- 117年-01:00|リビア| |||北アフリカのキレイクでユダヤ人が反乱、鎮圧
- 117年-01:00|イタリヤ/イラク/シリア・アラブ| |||トラヤヌス帝、アッシリアを属州とする(ローマ帝国の版図、最大に達す)
- 117年-01:00|イタリヤ/イラン| |||ハルタマスハテスはローマ領に逃亡、パルティアの国境地帯にあったローマの従属王国オロエネの王位をローマによって保障/オロエシ1世は再びその地位を回復
- 117年2月19日-08:00|中国| ||後漢・元初4年|<就任>後漢・趙国「趙惠王劉乾」(~01640827(延熹7年)死去)
- 117年2月19日-08:00|中国| ||後漢・元初4年|後漢の張衡が渾天儀(天球儀)をつくる
- 117年8月9日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ローマ皇帝「トラヤヌス」病死/63歳(誕生00530918)
- 117年8月11日-01:00|イタリヤ| |||<即位>ローマ皇帝「ハドリアヌス」(~138年7月10日自然死)/ハドリアヌスはパルティアなどを放棄
- 118年2月9日-08:00|中国| ||後漢・元初5年|<就任>後漢・陳国「陳懷王劉竦」(~01191025死去)
- 118年2月9日-08:00|中国| ||後漢・元初5年|<就任>後漢・彭城国「彭城考王劉道」(~145年死去)
- 118年7月6日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||高句麗・太祖66年;後漢・元初5年6月|高句麗王は穢貊と漢の玄菟を襲撃し、華麗城を攻めた
- 119年-05:30|インド| |||<即位>インド・スキタイ王国(西ケシヤトラハ)「ナハナ」(~124年)
- 119年1月29日-08:00|中国| ||後漢・元初6年|<就任>後漢・中山国「中山孝王劉弘」(~01400514(永和5年)死去)
- 119年10月25日-08:00|中国| ||後漢・元初6年9月4日|<死去>後漢・陳国「陳懷王劉竦」
- 120年-05:30|インド| |||南インドのアンドラ王国がデカン一帯を支配
- 120年-03:00|イラク| |||<即位>エリマズ王国(アルサス朝)第18代国王「Ariobarzanes」(~125年)
- 120年2月17日-08:00|中国| ||後漢・元初7年|<就任>後漢・楽成国「臨湖侯劉萇」(~建光元年(121年)4月臨湖侯に降格)
- 120年2月17日-08:00|中国| ||後漢・元初7年|<就任>後漢・平原国「平原王劉翼」(~121年)
- 120年3月17日-09:00|韓国| ||新羅・祇摩9年2月|大きい星が月城の西の方に落ちた
- 120年5月15日-08:00|中国| ||後漢・永寧1年4月|<就任>後漢・陳国「陳頃王劉崇」(~01240402死去)
- 120年5月15日-08:00|中国| ||後漢・永寧1年4月|永寧と改元
- 121年2月5日-08:00|中国| ||後漢・永寧2年|<就任>後漢・濟北国「濟北節王劉登」(~135年)
- 121年2月5日-08:00|中国| ||後漢・永寧2年|<就任>後漢・任城国「任城節王劉崇」(~151年死去無子嗣、任城国を廃する)
- 121年2月5日-08:00|中国| ||後漢・永寧2年|<就任>後漢・琅邪国「琅邪貞王劉尊」(~138年)
- 121年2月5日-08:00|中国/朝鮮| ||高句麗・太祖69年;後漢・永寧2年春|幽州刺史馮煥、玄菟太守姚光、遼東太守蔡諷らが兵を率いて来襲。穢貊の渠帥を撃殺/王は遂成を遣使として降服を詐称/遂成は玄菟・遼東の二郡を攻め、その城郭を焼き払い、二千余人を殺獲
- 121年5月5日-09:00|朝鮮/中国| ||高句麗・太祖69年;後漢・永寧2年4月|高句麗王は鮮卑族の八千人と遼隊県に侵攻。遼東太守蔡諷は兵を率いて追撃したが、新昌に於いて戦死。功曹掾の龍端や兵馬掾の公孫らは身を以て蔡諷を護るが、ともに陳に於いて戦没
- 121年5月5日-09:00|韓国/日本| ||新羅・祇摩10年4月|倭人が東邊に侵入
- 121年5月5日-08:00|中国| ||後漢・永寧2年4月|<廃位>後漢・楽成国「臨湖侯劉萇」臨湖侯に降格
- 121年8月1日-08:00|中国| ||後漢・建光1年7月|建光元年と改元
- 121年10月19日-08:00|中国| ||後漢・建光1年9月20日|許慎による中国最古の字典『説文解字』が後漢の安帝に献上

0200迄 (1588件)

- 121年12月27日-09:00|朝鮮| ||高句麗・太祖69年12月|高句麗王は馬韓・穢貊の一万余騎を率いて玄菟城に進んで囲んだ。扶餘王は子の尉仇台を遣わし、兵二万を率いさせて漢兵と合力して防戦。高句麗軍は大敗
- 122年1月26日-09:00|朝鮮/中国| ||高句麗・次大王2年;後漢・建光2年|高句麗・次大王は玄菟に詣でて生口(奴隸)を献上して降伏/再び漢に臣従
- 122年1月26日-08:00|中国| ||後漢・建光2年|<就任>後漢・樂安国「樂安王劉鴻」(~本初元年(146年)5月渤海王に改封)
- 122年2月24日-09:00|朝鮮| ||高句麗・次大王2年2月|王は馬韓、穢貊と遼東に侵攻。扶余王は救援の兵を派遣して、これを破る
- 122年4月24日-08:00|中国| ||後漢・延光1年3月|延光元年と改元
- 123年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ホースロイ王(スルトコス朝)「コニス2世」(~132年死去)
- 123年2月14日-08:00|中国| ||後漢・延光2年|<就任>後漢・阜陵国「阜陵懷王劉恢」(~132年)
- 123年2月14日-08:00|中国| ||後漢・延光3年|西域長史班勇(班超の子)が西域諸族を従えていた北匈奴の呼衍王を破り、西域との連絡を復活/善、高昌が漢に服属(「善」は、善+おおざと)
- 123年4月14日-09:00|韓国/日本| ||新羅・祇摩12年3月|倭国と講和
- 124年2月3日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・延光3年|<死去>南匈奴単于「萬氏尸逐侯于単于(檀)」
- 124年2月3日-08:00|中国| ||後漢・延光3年|<就任>後漢・濟陰国「濟陰王劉保」(~125年(延光4年11月)漢皇帝即位)
- 124年2月3日-08:00|中国| ||後漢・延光3年|<就任>後漢・北海国「北海恭王劉翼」(~137年)
- 124年2月3日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・延光3年|<即位>南匈奴単于「烏稽侯尸逐于単于」湖邪尸逐侯于単于の子、萬氏尸逐侯于単于の弟(~128年死去)
- 124年4月2日-08:00|中国| ||後漢・延光3年3月1日|<死去>後漢・陳国「陳頃王劉崇」
- 124年10月25日-09:00|韓国| ||新羅・祇摩13年9月30日|庚申の日にあたる晦、日食があった
- 125年-05:30|インド| ||サータヴァハナ朝がシャカ族を破って西部デカンの領域を回復
- 125年-05:00|パキスタン| ||<即位>インド・スキタイ王国(パタラジヤス)国王「ヨラミ」パガウエラの子(~150年)
- 125年-03:00|イタリヤ| ||<即位>エリマリス王国(アルサス朝)第19代国王「オニス」(~130年)
- 125年2月21日-08:00|中国| ||後漢・延光4年|<就任>後漢・陳国「陳孝王劉承」
- 125年2月21日-08:00|中国| ||後漢・延光4年|<就任>後漢・梁国「梁懷王劉匡」(~135年)
- 125年2月21日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・延光4年|鮮卑、匈奴に侵入して漸将王を殺す
- 125年2月21日-09:00|韓国| ||新羅・祇摩14年正月|靺鞨が大挙して北側国境に侵入して、官吏と民を殺して掠奪をした
- 125年4月3日-01:00|パキスタン| ||<死去>第7代ローマ教皇「シクストゥス1世」
- 125年4月3日-01:00|パキスタン| ||<就任>第8代ローマ教皇「テレスフォル」(~01360105死去)
- 125年4月30日-08:00|中国| ||後漢・延光4年3月10日|<死去>後漢第6代皇帝「安帝劉詡」
- 125年5月18日-08:00|中国| ||後漢・延光4年3月28日|<即位>後漢第7代皇帝「少帝劉懿」(~延光4年10月27日(125年12月10日)死去)
- 125年8月17日-09:00|韓国| ||新羅・祇摩14年7月|靺鞨が大嶺柵を襲って、さらに泥河を越えた/百済に救援を要請し、百済は新羅を助けた/靺鞨の賊は退いた
- 125年8月17日-08:00|中国| ||後漢・延光4年7月|<死去>後漢・東海国「東海頃王劉肅」
- 125年8月17日-08:00|中国| ||後漢・延光4年7月|<就任>後漢・東海国「東海孝王劉臻」(~永壽元年(155年)2月死去)
- 125年12月10日-08:00|中国| ||後漢・延光4年10月27日|<死去>後漢第7代皇帝「少帝劉懿」病気にかかり
- 125年12月16日-08:00|中国| ||後漢・延光4年11月4日|<退任>後漢・濟陰国「濟陰王劉保」=><即位>後漢第8代皇帝「順帝劉保」(~建康元年8月6日(144年9月20日)死去)
- 126年2月10日-08:00|中国| ||後漢・延光5年|<死去>後漢・下ヒ国「下ヒ恵王(劉衍)」
- 126年2月10日-08:00|中国| ||後漢・延光5年|<就任>後漢・下ヒ国「下ヒ貞王劉成」(~127年)
- 126年3月12日-08:00|中国| ||後漢・永建1年2月|隴西の鐘羌が叛いたため、護羌校尉の馬賢が討って之を破った
- 126年7月8日-08:00|中国| ||後漢・延光5年6月|<就任>後漢・濟南国「濟南釐王劉顕」(~128年)
- 126年9月4日-01:00|イタリヤ| ||トスカのギベリン派(皇帝派)が、フィレンツェのゲル派(教皇派)を破る(モンテルティの戦い)
- 126年9月5日-08:00|中国| ||後漢・永建1年8月|鮮卑が代郡を寇し、代郡太守の李超が戦歿
- 126年11月3日-08:00|中国| ||後漢・永建1年10月|鮮卑が辺を犯した
- 127年-05:30|インド/パキスタン| ||<即位>カシャ朝君主「カシカ1世」(~151年)パキスタンを拠点に最盛期を築く
- 127年3月1日-08:00|中国| ||後漢・永建2年2月|鮮卑が遼東、玄菟を寇した/護烏桓校尉の耿种が南単于を率いて鮮卑を撃つと、之を破った
- 127年6月27日-08:00|中国| ||後漢・永建2年6月|西域長史の班勇、敦煌太守の張朗が焉耆、尉犂、危須三国を討つて、之を破った
- 127年8月25日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||後漢・永建2年7月1日|朔に日食があった
- 128年2月18日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永建3年|<死去>南匈奴単于「烏稽侯尸逐于単于」
- 128年2月18日-08:00|中国| ||後漢・永建3年|<就任>後漢・下ヒ国「下ヒ愍王劉意」(~184年)
- 128年2月18日-08:00|中国| ||後漢・永建3年|<就任>後漢・常山国「常山頃王劉儀」(~144年)
- 128年2月18日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・延光3年|<即位>南匈奴単于「去特若尸逐就単于(休利)」湖邪尸逐侯于単于の子、烏稽侯尸逐于単于の弟(~140年自殺)
- 128年9月12日-09:00|韓国| ||新羅・祇摩17年8月|長星(ほうき星)が天をよぎった

## 0200迄 (1588件)

- 128年10月12日-08:00|中国| ||後漢・永建3年9月|鮮卑が漁陽を寇した
- 128年12月10日-09:00|韓国| ||百濟・己婁王53年11月|<死去>第3代百濟王「己婁王」
- 128年12月10日-09:00|韓国| ||百濟・蓋婁王1年11月|<即位>百濟王「蓋婁王」(~166年)
- 129年2月7日-08:00|中国| ||後漢・永建4年|<就任>後漢・濟南国「濟南悼王劉広」(~153年死去)
- 129年2月7日-08:00|中国| ||後漢・永建4年|是歳、会稽を分けて呉郡を為した
- 129年2月7日-08:00|中国| ||後漢・永建4年|是歳、拘彌国が使いを遣わして貢獻
- 129年2月7日-08:00|中国| ||後漢・永建4年|ホ-ク王Fangqianが于田王Xingを殺す/Fangqianは息子を于田王にする
- 129年11月29日-08:00|中国| ||後漢・永建4年11月|鮮卑が朔方を寇した
- 130年-05:30|インド| ||<即位>インド・スキタイ王国(西クシャトラパ)「ジヤダ-マン」チャスナの子⇒「ルドラダ-マン1世」ジヤダ-マンの子(~150年頃)
- 130年-03:30|イラン| ||<死去>パルティア王「アルサス40世(オロシ1世)」ミトラダテス4世が勢力を継承
- 130年-03:30|イラン| ||<即位>パルティア王「アルサス43世(ミトラダテス4世)」(~140年死去)
- 130年-03:00|イラク| ||<即位>エリマス王国(アルサス朝)第20代国王「Unknown King1世」(~140年)
- 130年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||ハトリヌス帝、アネネ市を再興
- 131年-04:00|ジョージア| ||<即位>ジョカ王「マラス」建国
- 131年2月15日-08:00|中国| ||後漢・永建6年|ホ-ク王Fangqian、漢に朝貢
- 131年10月9日-08:00|中国| ||後漢・永建6年9月|護烏桓校尉の耿曄が兵を遣わして鮮卑を撃ち、之を破った
- 132年-05:30|インド| ||このころインドでチャラの医書が成立
- 132年-04:00|ジョージア| ||<死去>パルティア王「ファラスマネス2世」
- 132年-04:00|ジョージア| ||<即位>パルティア王「ラダミストゥス」ファラスマネス2世の息子(~135年)
- 132年-02:00|ウクライナ| ||<死去>ホルス王(ホルコス朝)「コテス2世」
- 132年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ホルス王(ホルコス朝)「ロイメタルス」(~153年死去)
- 132年1月6日-08:00|中国| ||後漢・永建6年12月|日南が外葉調国、外國が使いを遣わして貢獻してきたと徴してきた/于田王が侍子を遣わして關に詣でさせ貢獻
- 132年2月4日-08:00|中国| ||後漢・永建7年|<就任>後漢・河間国「河間惠王劉政」(~141年)
- 132年2月4日-08:00|中国| ||後漢・永建7年|<即位>ホ-ク王「建」(~151年)
- 132年2月4日-08:00|中国| ||後漢・永建7年|中国はカユガル王に命じて、2万の兵でホ-クを攻め数百の人を殺した/カユガル王は前王Xingの親族Chengguoを于田王にして帰還
- 132年3月5日-08:00|中国| ||後漢・永建7年2月|海賊の曾旌等が会稽を寇し、句章、ギン、ボウ三県の長を殺し会稽東部都尉を攻めた
- 132年4月4日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉1年3月|楊州六郡で妖賊の章河等が四十九県を寇し、長吏を殺傷
- 132年4月16日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉1年3月13日|陽嘉元年と改元
- 132年7月31日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉1年7月|後漢の張衡が候風の地動銅儀(地震計)をつくる
- 132年8月-01:00|イタリア/イスラエル| ||第三次ユダヤ戦争(~135年8月)ユダヤ人の反ロー抵抗運動挫折
- 132年9月28日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉1年9月|鮮卑が遼東を寇した
- 133年1月1日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉1年12月8日|玄菟郡に屯田六(郡) [部]を復置
- 133年2月22日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉2年|<就任>後漢・東平国「東平頃王劉端」(~光和2年(179年)4月死去)
- 133年2月22日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉2年|<就任>後漢・阜陵国「阜陵節王劉代」(~145年)
- 133年2月22日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉2年|<就任>後漢・琅邪王「琅邪字王劉据」(~179年)
- 133年4月22日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉2年3月|使匈奴中郎将の王稠が左骨都侯等を率いて鮮卑を撃ち、之を破った
- 133年5月22日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉2年4月|隴西南部都尉官を復置
- 133年9月17日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉2年8月|鮮卑が代郡に寇した
- 134年5月12日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・陽嘉3年4月2日|車師後部司馬が後部王加特奴等を率いて匈奴を掩撃して、之を大いに破る
- 134年8月24日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉3年7月17日|鍾羌が隴西、漢陽を寇した
- 134年9月6日-09:00|韓国| ||新羅・祇摩23年8月|<死去>新羅王「祇摩尼師今」
- 134年9月6日-09:00|韓国| ||新羅・逸聖1年8月|<即位>新羅王「逸聖尼師今」(~154年)
- 134年11月5日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉3年10月|護羌校尉の馬統が鍾羌を撃破
- 134年12月18日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉3年11月15日|武都の塞上に屯している羌及び外羌が屯官を攻め破ると、人畜を驅略した
- 135年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプura王国国王「Mahallaka Naga」Gajabahu1世の義父(~141年)
- 135年-04:00|ジョージア| ||<即位>パルティア王「ファラスマネス3世」ラダミストゥスの息子(~185年)
- 135年3月3日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉4年2月|謁者の馬賢が鍾羌を撃って、之を大いに破った
- 135年8月-02:00|イスラエル/イタリア| ||ローマ軍がユダヤ人蜂起を鎮圧し、エルサレムから追放
- 135年9月25日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉4年閏8月1日|朔、日食があった
- 135年11月23日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉4年10月|烏桓が雲中を寇した
- 135年12月23日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉4年11月|度遼将軍の耿曄が蘭池に於いて囲まれたため、諸郡の兵を徴発して之を救ったところ、烏桓は退走
- 136年1月5日-01:00|パチン| ||<死去>第8代ローマ教皇「テレスフォルス」
- 136年1月5日-01:00|パチン| ||<就任>第9代ローマ教皇「ヒギヌス」(~01400111)

## 0200迄 (1588件)

- 136年2月20日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉5年|<就任>後漢・濟北国「濟北哀王劉多」(~138年)
- 136年2月20日-08:00|中国| ||後漢・陽嘉5年|<就任>後漢・梁国「梁夷王劉成」(~164年)
- 136年3月5日-08:00|中国| ||後漢・永和1年正月15日|改元して永和元年とする
- 137年1月10日-08:00|中国| ||後漢・永和1年12月|象林の蛮夷が叛いた
- 137年2月8日-08:00|中国| ||後漢・永和2年正月|武陵蛮が叛き、充県を圍み、又夷道を寇した
- 137年3月10日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・逸聖4年2月|靺鞨が国境の辺方・塞内に侵入して、長嶺の五柵を焼いた
- 137年3月10日-08:00|中国| ||後漢・永和2年2月|広漢属国都尉が白馬羌を撃破/武陵太守の李進が叛いた蛮を撃ち、之を破った
- 137年6月7日-07:00|ベトナム/中国| ||後漢・永和2年5月|日南の象林のク・リエ(区憐)が漢に反乱
- 137年8月5日-08:00|中国| ||後漢・永和2年7月|九真、交阯二郡の兵が反した
- 138年-05:30|インド| ||<即位>サタガア朝国王「Vashishtiputra Satakarni」(~145年)
- 138年-04:00|ゾロアスター| ||<即位>ゾロアスター王「パコルス」(~161年)
- 138年1月29日-08:00|中国| ||後漢・永和3年|<就任>後漢・北海国「北海康王」
- 138年2月27日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・逸聖5年2月|金城に政事堂を設置
- 138年4月27日-08:00|中国| ||後漢・永和3年4月|九江の賊である蔡伯流が郡界、及び広陵を寇すと、江都の長を殺した
- 138年5月27日-08:00|中国| ||後漢・永和3年閏4月|九江の賊である蔡伯流等が徐州刺史応志に降った
- 138年6月25日-08:00|中国| ||後漢・永和3年5月|呉郡の丞である羊珍が反して、郡府を攻めた、太守の王衡が破って之を斬った
- 138年7月10日-01:00|イタリヤ| ||<死去>ローマ皇帝「ハドリアヌス」/62歳(誕生00760124)
- 138年7月10日-01:00|イタリヤ| ||<即位>ローマ皇帝「アントニヌス・ピウス」(~161年3月7日自然死)
- 138年7月25日-08:00|中国| ||後漢・永和3年6月|九真太守の祝良、交阯刺史の張喬が日南の叛うた蛮を慰誘して、之を降したため、嶺外は平げられた
- 138年11月20日-08:00|中国| ||後漢・永和3年10月|燒当羌が金城を寇したため、護羌校尉の馬賢が之を撃破したが、羌は遂に相招きあうと而して叛いた
- 139年1月18日-08:00|中国| ||後漢・永和3年12月1日|朔、日食があった
- 139年2月17日-08:00|中国| ||後漢・永和4年|<就任>後漢・濟北国「濟北釐王劉安国」(~145年死去)
- 139年2月17日-08:00|中国| ||後漢・永和4年|<就任>後漢・琅邪国「琅邪安王劉拠」(~185年)
- 139年5月23日-08:00|中国| ||後漢・永和4年4月8日|護羌校尉の馬賢が燒当羌を討って、之を大いに破った
- 139年9月11日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・逸聖6年8月|靺鞨が長嶺を襲って、その地の民を連行していった
- 139年11月9日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・逸聖6年10月|靺鞨がまた来たが、激しい雪のため退却
- 140年-03:30|イラン| ||<死去>パルティア王「アルサス43世(ミトラダテス4世)」ローマ領コマンゲネを攻撃した際に戦没/パルティアの大部分がササニ朝の支配下に入った
- 140年-03:30|イラン| ||<死去>パルティア王「アルサス44世」(~同年死去)
- 140年-03:00|イラク| ||<即位>エリマイス王国(アルサス朝)第21代国王「Orodes4世」「Ulpan」(~160年)
- 140年-02:00|ギリシャ| ||プロトマイトスが天動説を完成
- 140年1月11日-01:00|パキスタン| ||<就任>第10代ローマ教皇「ピウス1世」(~01550711死去)
- 140年1月11日-01:00|パキスタン| ||<退任>第9代ローマ教皇「ヒギヌス」
- 140年2月6日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永和5年|<死去>南匈奴単于「去特若尸逐就単于(休利)」自殺
- 140年5月5日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永和5年4月|南匈奴左部で句龍の大人吾斯、車紐等が叛く
- 140年5月14日-08:00|中国| ||後漢・永和5年4月10日|<死去>後漢・中山国「中山孝王劉弘」
- 140年6月3日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永和5年5月|且凍羌が三輔を寇し、令長(県令や県長)を殺した
- 140年6月3日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永和5年5月|度遼將軍の馬続が吾斯、車紐を討って、之を破り、使匈奴中郎將の陳龜が南単于に迫って殺した
- 140年7月2日-08:00|中国| ||後漢・永和5年5月30日|晦、日食があった
- 140年9月29日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永和5年9月|<即位>南匈奴単于「車紐単于(車紐)」(~140年11月漢に降伏)
- 140年9月29日-08:00|中国| ||後漢・永和5年9月|且凍羌が武都を寇する
- 140年9月29日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永和5年9月|句龍の吾斯等が東に烏桓を引きつれ、西に羌胡を収めて、上郡を寇し、車紐を立てて単于と為した
- 140年11月27日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永和5年11月|<退位>南匈奴単于「車紐単于(車紐)」漢に降伏
- 140年12月21日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永和5年11月25日|使匈奴中郎將の張耽を遣わして句龍の吾斯等之を撃破したところ、車紐が降った
- 141年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Bhatika Tissu」Mahallaka Nagaの息子(~165年)
- 141年1月25日-08:00|中国| ||後漢・永和6年|<就任>後漢・中山国「中山穆王劉暢」(~174年(熹平3年)死去)
- 141年2月14日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永和6年正月21日|征西將軍の馬賢と且凍羌が射姑山にて戦ったところ、馬賢は軍が敗れて没し、安定太守の郭?が獄に下されて死んだ
- 141年2月24日-08:00|中国| ||後漢・永和6年閏1月|鞏唐羌が隴西を寇し、遂に三輔に及んだ
- 141年4月24日-08:00|中国| ||後漢・永和6年3月|武威太守の趙冲が鞏唐羌を討って、之を破った
- 141年6月22日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・永和6年5月|使匈奴中郎將の張耽が烏桓、羌胡を天山に於いて大いに破った
- 141年6月22日-08:00|中国| ||後漢・永和6年5月|鞏唐羌が北地を寇した

- 141年10月18日-08:00|中国| ||後漢・永和6年9月|諸種の羌が武威を寇した
- 141年11月16日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||新羅・逸聖8年;後漢・永和6年9月30日|晦,日食があった
- 142年2月13日-08:00|中国| ||後漢・漢安1年|<就任>後漢・河間国「河間貞王劉建」(~151年)
- 142年2月13日-08:00|中国| ||後漢・漢安1年|<就任>後漢・斉国「斉頃王劉喜」(~本初元年(146年)7月死去)
- 142年2月13日-08:00|中国| ||後漢・漢安1年|是歳,広陵の賊である張嬰等が太守の張綱に詣でて降った
- 142年2月26日-08:00|中国| ||後漢・漢安1年正月14日|漢安元年と改元
- 142年9月8日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・漢安1年8月|南匈奴左部の大人である句龍吾斯が伊州台耆等と反叛
- 142年10月21日-08:00|中国| ||後漢・漢安1年9月14日|広陵の盜賊である張嬰等が郡県を寇した
- 143年2月3日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・漢安2年|<即位>南匈奴単于「呼蘭若尸逐就単于(兜楼儲)」(~147年死去)
- 143年2月3日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・漢安2年|匈奴:兜楼儲,洛陽で単于に立てられ南庭に送られる
- 143年3月16日-08:00|中国| ||後漢・漢安2年2月13日|セン善国が使いを遣わして貢獻してきた
- 143年5月9日-08:00|中国| ||後漢・漢安2年4月8日|護羌校尉の趙冲は漢陽太守の張貢と燒当何羌を撃ち破った
- 143年11月25日-08:00|中国| ||後漢・漢安2年間10月|趙冲が燒当羌を河阿陽に於いて撃ち破った
- 144年-04:00|アルメニア| ||<即位>アルメニア王(アルサス朝)「ソハムス」(~161年)
- 144年1月23日-08:00|中国| ||後漢・漢安2年12月|楊、徐の盜賊が城寺を攻め焼き,吏民を殺略
- 144年2月22日-07:00|ベトナム/中国| ||後漢・建康1年|漢と和睦,林邑(ラムアップ=チャン)国を樹立/チャン王国の始まり
- 144年4月21日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・漢安3年3月|領護羌校尉の暁が叛いた羌を追討して破った/南郡、江夏の盜賊が城邑を寇掠したため,州郡が之を討ち平らげた
- 144年5月20日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・建康1年4月|使匈奴中郎将の馬寔が南匈奴左部を撃って,之を破ると、是に於いて胡羌、烏桓は悉く馬寔に詣でて降った
- 144年6月3日-08:00|中国| ||後漢・建康1年4月15日|漢安3年を建康元年と改元
- 144年9月15日-08:00|中国| ||後漢・建康1年8月|楊、徐の盜賊である范容、周生等が城邑を寇掠したため,御史中丞の馮赦を遣わして州郡の兵を督させて之を討させた
- 144年9月20日-08:00|中国| ||後漢・建康1年8月6日|<死去>後漢第8代皇帝「順帝劉保」
- 144年9月20日-08:00|中国| ||後漢・建康1年8月6日|<即位>後漢第9代皇帝「沖帝劉炳」(~永熹元年1月6日(145年2月15日)死去)
- 144年10月15日-08:00|中国| ||後漢・建康1年9月|楊州刺史の尹耀、九江太守の鄧顯が賊の范容等を歴陽に於いて討ったが,軍は敗れ,尹耀、鄧顯は賊の為に歿する所となった
- 144年11月13日-08:00|中国| ||後漢・建康1年10月|日南の蛮夷が城邑を攻め焼いたが,交阯刺史の夏方が招き誘うと之に降った
- 144年12月13日-08:00|中国| ||後漢・建康1年11月|九江の盜賊である徐鳳、馬勉等が「無上將軍」を称すると,城邑を攻め焼いた
- 145年-05:30|インド| ||<即位>サタヴァハナ朝国王「Shiva Shri Pulumavi」「Shiva Skanda Satakarni」(~152年)
- 145年-03:30|イラン| ||<死去>アルサス王「アルサス43世(ミトラダテス4世)」
- 145年1月11日-08:00|中国| ||後漢・建康1年12月|九江の賊である黄虎等が合肥を攻めた
- 145年2月10日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年|<死去>後漢・济北国「济北釐王劉安国」
- 145年2月10日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年|<死去>後漢・彭城国「彭城考王劉道」
- 145年2月10日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年|<就任>後漢・济北国「济北孝王劉次」(~01620501(延熹5年3月)死去)
- 145年2月10日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年|<就任>後漢・常山国「常山節王劉豹」(~152年)
- 145年2月10日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年|<就任>後漢・清河国「清河王劉蒜」(~147年自殺,清河国を廢する)
- 145年2月10日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年|<就任>後漢・彭城国「彭城頃王劉定」(~01490511死去)
- 145年2月10日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年|<就任>後漢・沛国「沛幽王劉榮」(~164年)
- 145年2月10日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年正月|広陵の賊である張嬰等が復た反し,堂邑、江都の長を攻め殺した/九江の賊である徐鳳等が曲陽、東城の長を攻め殺した
- 145年2月15日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年正月6日|<死去>後漢第9代皇帝「沖帝劉炳」玉堂前殿にて/3歳
- 145年3月6日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年正月25日|<即位>後漢第10代皇帝「質帝劉卞」(~本初元年間6月1日(146年7月26日)死去)8歳の幼帝であるため,引き続き梁太后が朝に臨む
- 145年3月11日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年2月|叛いた羌が左馮翊の梁並に詣でて降った
- 145年4月10日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年3月|九江の賊である馬勉が「黄帝」を称した/九江都尉の滕撫が馬勉、范容、周生を撃つと大いに破って之を斬った
- 145年5月10日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年4月|丹陽の賊の陸宮等が城を囲むと,亭寺を焼いたため,丹陽太守の江漢が之を撃破
- 145年6月8日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年5月|是月,下ヒの人である謝安が応募して徐鳳等を撃つと,之を斬った
- 145年7月8日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年6月|鮮卑が代郡を寇した
- 145年8月6日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年7月|廬江の盜賊が尋陽を攻め,又ク台を攻めたため,滕撫は司馬の王章を遣わして之を撃破
- 145年12月2日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年11月|歴陽の賊の華孟が「黒帝」を自称し,九江太守の楊岑を攻め殺した,滕撫は諸将を率いて華孟等を撃つと,大いに破って之を斬った
- 145年12月20日-08:00|中国| ||後漢・永嘉1年11月19日|中郎将の滕撫が広陵の賊である張嬰を撃つと,之を破った

## 0200迄 (1588件)

- 146年5月28日-08:00|中国| ||後漢・本初1年5月|<改封>後漢・楽安国「楽安王劉鴻」⇒勃海国「勃海孝王劉鴻」(~建和元年(147年)7月死去)
- 146年7月26日-08:00|中国| ||後漢・本初1年閏6月1日|<死去>後漢第10代皇帝「質帝劉玑」梁冀により毒殺された/9歳
- 146年8月1日-08:00|中国| ||後漢・本初1年閏6月7日|<即位>後漢第11代皇帝「桓帝劉志」/15歳(~永康元年12月28日(168年1月25日)死去)
- 146年8月25日-08:00|中国| ||後漢・本初1年7月|<死去>後漢・齐国「齐頃王劉喜」
- 146年8月25日-08:00|中国| ||後漢・本初1年7月|<就任>後漢・齐国「齐王劉承」
- 146年9月24日-08:00|中国/朝鮮| ||高句麗・次大王26年;後漢・本初1年8月|高句麗・次大王は兵を派遣して漢の遼東郡西安平県を襲撃し、帯方郡令を殺し、楽浪太守の妻子を掠奪
- 146年11月22日-09:00|韓国| ||新羅・逸聖13年10月|押督が反乱を起こしたので、出兵をして討伐して平定した
- 147年1月20日-09:00|朝鮮| ||高句麗・太祖94年12月|<退位>高句麗王「太祖大王」
- 147年1月20日-09:00|朝鮮| ||高句麗・次大王1年12月|<即位>高句麗王「次大王」(~次大王20年(165年)10月、殺害される)
- 147年2月18日-08:00|中国| ||後漢・建和1年|<死去>後漢・清河国「清河王劉蒜」自殺、清河国を廃する
- 147年2月18日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・建和1年|<死去>南匈奴単于「呼蘭若尸逐就単于(兜楼儲)」
- 147年2月18日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・建和1年|<即位>南匈奴単于「伊陵尸逐就単于(居車兒)」(~172年死去)
- 147年2月18日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・建和1年|匈奴:兜楼儲死す/居車兒が単于となる
- 147年2月18日-08:00|中国| ||後漢・建和1年正月1日|朔、日食があった
- 147年5月18日-08:00|中国| ||後漢・建和1年4月|<就任>後漢・阜陵国「阜陵恭王劉便親」(~159年)
- 147年8月14日-08:00|中国| ||後漢・建和1年7月|<死去>後漢・勃海国「勃海孝王劉鴻」
- 147年8月14日-08:00|中国| ||後漢・建和1年7月|<就任>後漢・勃海国「勃海王劉凱」(~165年イ陶王に降封)
- 147年12月11日-08:00|中国| ||後漢・建和1年11月|清河の劉文が反し、国相の射嵩を殺害して、清河王劉蒜を立てて天子と為そうと欲した;事が発覚して誅に伏した/陳留の盜賊である李堅が皇帝を自称し、誅に伏した
- 148年-03:30|イラン| |||<死去>パルティア王「アルカス41世(ウァカガセ3世)」アルメニア王ウァカガセ1世
- 148年-03:30|イラン| |||<即位>パルティア王「アルカス45世(ウァカガセ4世)」(~191年死去)
- 148年2月8日-08:00|中国| ||後漢・建和2年|<就任>後漢・甘陵国「甘陵威王劉理」(~172年)
- 148年2月8日-08:00|中国| ||後漢・建和2年|<就任>後漢・平原国「平原王劉碩」
- 148年4月7日-08:00|中国| ||後漢・建和2年3月|白馬羌が広漢属国を寇して、長吏を殺害したため、益州刺史が板楯蛮を率いて之を討ち破った
- 148年10月30日-08:00|中国| ||後漢・建和2年10月|長平の陳景が「黄帝子」を自号し、官属を署置、また南頓の管伯が亦た「真人」を称し、並んで挙兵/悉く誅される
- 149年5月11日-08:00|中国| ||後漢・建和3年閏3月16日|<死去>後漢・彭城国「彭城頃王劉定」
- 149年5月11日-08:00|中国| ||後漢・建和3年閏3月16日|<就任>後漢・彭城国「彭城孝王劉和」(~213年死去)
- 149年6月23日-08:00|中国| ||後漢・建和3年4月30日|晦、日食があった
- 149年9月20日-09:00|韓国| ||新羅・逸聖16年8月|ほうき星が天市の星座に現われた
- 150年-05:30|インド| |||シカ(サカ)族の王ムラガーマン、インド西部および中部を統治
- 150年-05:00|パキスタン| |||<即位>インド・スカイ王国(パタラジヤス)国王「アルジュナヨミラの子」(~160年)
- 150年-02:00|ギリシャ| |||<死去>ギリシャの数学者、物理学者ヘロン/88歳(誕生62年頃)ヘロンの公式
- 150年-02:00|エジプト/ギリシャ| |||プトレマイオスの「地理書」がこのころ刊
- 150年2月15日-08:00|中国| ||後漢・和平1年正月1日|改元して和平とした
- 150年3月16日-08:00|中国| ||後漢・和平1年2月|扶風の妖賊裴優が皇帝を自称したため、誅に伏した
- 151年-05:30|インド/パキスタン| |||<死去>グジャナ朝君主「カシカ1世」
- 151年-05:30|インド| |||<即位>グジャナ朝君主「ヴァシカ」(~190年)
- 151年2月4日-08:00|中国| ||後漢・元嘉1年|<死去>後漢・任城国「任城節王劉崇」無子嗣、任城国を廃する
- 151年2月4日-08:00|中国| ||後漢・元嘉1年正月|京師に疾疫あり
- 151年2月19日-08:00|中国| ||後漢・元嘉1年正月16日|元嘉元年と改元
- 152年-05:30|インド| |||<即位>サカガアハ朝国王「ナジャナシュリー・シャーカルニ」(~181年)
- 152年2月23日-08:00|中国| ||後漢・元嘉2年|<就任>後漢・安平国「安平王劉統」(~184年)
- 152年2月23日-08:00|中国| ||後漢・元嘉2年|<就任>後漢・河間国「河間安王劉利」(~179年)
- 152年2月23日-08:00|中国| ||後漢・元嘉2年正月|<死去>ホーカ王「建」家臣数十人を従えて王敬を訪ねた時に成国の部下に切り殺された
- 152年2月23日-08:00|中国| ||後漢・元嘉2年正月|<即位>ホーカ王「安国」建の子(~175年)
- 153年-02:00|ウクライナ| |||<死去>ホースポロス王(スパルトコス朝)「ロヘイタルス」
- 153年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ホースポロス王(スパルトコス朝)「ユリス・エハトル」(~174年死去)
- 153年2月11日-08:00|中国| ||後漢・元嘉3年|<死去>後漢・濟南国「濟南悼王劉広」
- 153年2月11日-08:00|中国| ||後漢・元嘉3年|<就任>後漢・常山国「常山王劉暲」(~184年国を捨て逃亡)
- 153年2月11日-08:00|中国| ||後漢・永興1年|是歳、武陵太守応奉が叛いた蛮を招誘して、之を降した
- 153年7月1日-08:00|中国| ||後漢・永興1年5月22日|元嘉3年を永興元年と改元
- 154年3月2日-09:00|韓国| ||新羅・逸聖21年2月|<死去>新羅王「逸聖尼師今立王」
- 154年3月2日-09:00|韓国| ||新羅・阿達羅1年2月|<即位>新羅王「阿達羅尼師今」(~184年)
- 154年9月25日-08:00|中国| ||後漢・永興2年9月1日|朔、日食があった

0200迄 (1588件)

- 154年10月25日-08:00|中国| ||後漢・永興2年閏9月|蜀郡の李伯が宗室を詐称し、当に立って「太初皇帝」と為したため、誅に伏した
- 154年12月23日-08:00|中国| ||後漢・永興2年11月|泰山、琅邪の賊である公孫挙等が反叛し、長吏を殺した
- 155年2月20日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永壽1年|<即位>檀石槐鮮卑大人「檀石槐」(~181年死去)
- 155年3月5日-08:00|中国| ||後漢・永壽1年正月14日|永寿と改元
- 155年3月20日-09:00|韓国/朝鮮| ||百済・蓋婁王28年正月29日|丙申晦、日食
- 155年3月21日-08:00|中国| ||後漢・永壽1年2月|<死去>後漢・東海国「東海孝王劉臻」
- 155年7月11日-01:00|パキスタン| ||<死去>第10代ローマ教皇「ピウス1世」
- 155年7月11日-01:00|パキスタン| ||<就任>第11代ローマ教皇「アネケウス」(~01660420)
- 155年8月16日-08:00|中国| ||後漢・永壽1年7月|初めて泰山、琅邪に都尉官を置いた
- 155年8月16日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・永壽1年秋|南匈奴の左台耆・且渠伯徳らがそむき張奐がこれをしずめる
- 156年2月9日-08:00|中国| ||後漢・永壽2年|<就任>後漢・東海国「東海懿王劉祗」(~建安5年(200年)10月死去)
- 156年4月8日-08:00|中国| ||後漢・永壽2年3月|蜀郡属国夷が叛いた
- 156年5月8日-09:00|韓国| ||新羅・阿達羅3年4月|鷓立嶺の道が開通
- 156年8月4日-08:00|中国| ||後漢・永壽2年7月|鮮卑の檀石槐が雲中に侵攻、李膺を度遼將軍に任じて鎮めさせる/公孫挙・東郭竇らが青・徐の三州に侵攻していたのを、段が打ち破る
- 156年11月30日-08:00|中国| ||後漢・永壽2年11月|太官右監丞官を置いた
- 157年2月27日-09:00|韓国| ||新羅・阿達羅4年2月|始めて甘勿・馬山と二つの県を設置
- 157年4月27日-07:00|ベトナム/中国| ||後漢・永壽3年4月|九真郡の住民の朱達らが、異民族とともに反乱をおこし、九真郡の役所を攻め太守の児式が戦死/魏朗がこれを破る
- 157年7月24日-08:00|中国| ||後漢・永壽3年閏5月30日|晦、日食があった
- 157年12月19日-08:00|中国| ||後漢・永壽3年11月|長沙で蛮が叛き、益陽を寇した
- 158年-05:00|カザフスタン| ||北匈奴が旧地方の地を棄て、西方のカザフスタンへ移動。初めてヨーロッパにフン族として知られる
- 158年4月16日-09:00|韓国| ||新羅・阿達羅5年3月|竹嶺への道が開通
- 158年7月13日-08:00|中国| ||後漢・永壽4年5月29日|晦、日食があった
- 158年7月17日-08:00|中国| ||後漢・延熹1年6月4日|延熹と改元
- 158年7月25日-08:00|中国| ||後漢・延熹1年6月12日|中山を分けて博陵郡を置き、以って孝崇皇園陵を奉った
- 159年1月7日-08:00|中国| ||後漢・延熹1年12月|南匈奴の諸部がそろって反乱をおこし、烏丸・鮮卑とともに縁辺の諸郡に侵入/張奐がこれを破る
- 159年3月7日-08:00|中国| ||後漢・延熹2年2月|鮮卑が鴈門を寇した/蜀郡の夷が蠶陵を寇し、県令を殺害した
- 159年7月3日-08:00|中国| ||後漢・延熹2年6月|鮮卑が遼東を寇した
- 159年9月9日-08:00|中国| ||後漢・延熹2年8月10日|桓帝、宦官とケテターを起こし、梁冀一族を滅ぼす/以降宦官の権力が増大
- 159年12月28日-08:00|中国/インド| ||後漢・延熹2年12月|天竺国が来献してきた
- 159年12月28日-08:00|中国| ||後漢・延熹2年12月|羌族が隴西の金城塞に攻撃を加える/段がこれを打ち破る
- 160年-05:00|パキスタン| ||<即位>インド・スキタイ王国(パタラジヤス)国王「アウアマラ」ヨミラの子(~175年)
- 160年-03:00|イラク| ||<即位>エリマイス王国(アルサス朝)第22代国王「Abarbasi」(~170年)
- 160年1月26日-08:00|中国| ||後漢・延熹3年|<就任>後漢・阜陵国「阜陵孝王劉統」(~167年)
- 160年2月25日-08:00|中国| ||後漢・延熹3年閏1月|西羌が焼何の有力者とともに張掖に侵攻、段がこれを破る
- 160年8月20日-08:00|中国| ||後漢・延熹3年7月|長沙蛮が郡界を寇した
- 160年10月18日-08:00|中国| ||後漢・延熹3年9月|泰山、琅邪の賊の勞丙等が復た叛き、百姓を寇掠したため、御史中丞趙某を遣わして持節させ州郡を督させて之を討った
- 160年12月16日-08:00|中国| ||後漢・延熹3年11月|日南の蛮賊郡に詣で降ってきた/勒姐羌が允街を圍んだため、段ケイが之を撃破/泰山の賊の叔孫無忌が都尉の侯章を攻殺
- 161年-04:00|アルメニア| ||<即位>アルメニア王(アルサス朝)「バクル」(~164年)
- 161年-04:00|アルメニア/イタリヤ/イラン| ||<廃位>アルメニア王(アルサス朝)「ソハエム」(ウオロガセス4世はアルメニアとシリアを攻撃し、初戦でローマ軍を破ってシリアを占領、ソハエムを追放)
- 161年1月15日-08:00|中国| ||後漢・延熹3年12月|中郎將宗資を遣わして叔孫無忌を討ち破った/武陵蛮が江陵を寇したため、車騎將軍の馮翊が討ち皆降り散じた/荊州刺史の度尚が長沙蛮を討ち、之を平らげた
- 161年3月7日-01:00|イタリヤ| ||<死去>第15代ローマ帝国皇帝「アントニヌス・ピウス」ロムで病死/74歳(誕生00860919)
- 161年3月8日-01:00|イタリヤ| ||<即位>第16代ローマ帝国皇帝「マルクス・アウレリウス・アントニヌス」(~01800317自然死)、「ルキウス・ウェルス」(~169.3頃死去)
- 161年5月13日-08:00|中国| ||後漢・延熹4年4月|<就任>後漢・任城国「任城王劉博」(~174年死去無子嗣、任城国を廃する)
- 161年7月11日-08:00|中国| ||後漢・延熹4年6月|ケヲ為属国の夷が百姓を寇抄したため、益州刺史の山昱が之を撃破した/零吾羌が先零や諸種と並んで叛き、三輔を寇した
- 161年11月6日-08:00|中国| ||後漢・延熹4年10月|先零と沈テ羌が諸種の羌と与して并涼二州を寇した
- 161年11月6日-08:00|中国/インド| ||後漢・延熹4年10月|天竺国から使者あり
- 161年12月5日-08:00|中国| ||後漢・延熹4年11月|中郎將皇甫規が先零と沈テ羌を撃破
- 162年-01:00|イタリヤ/イラン| ||カウスは、パルティアの首都ケテフォンを攻め落としてパルティア王宮を破壊

0200迄 (1588件)

- 162年-01:00|イタリヤ/アルメニア| ||ルキウス・ウェルス帝は東方に幕僚と共に赴き、アルメニアに侵攻し首都アルタクサを占拠
- 162年1月4日-08:00|中国/朝鮮| ||後漢・延熹4年12月|夫余王から使者あり
- 162年2月2日-08:00|中国| ||後漢・延熹5年正月|太官右監丞を省いた
- 162年4月2日-08:00|中国| ||後漢・延熹5年3月|<死去>後漢・濟北国「濟北孝王劉次」
- 162年4月2日-08:00|中国| ||後漢・延熹5年3月|<就任>後漢・濟北国「劉鸞」
- 162年4月2日-08:00|中国| ||後漢・延熹5年3月|沈滂が張掖、酒泉を寇した
- 162年5月2日-08:00|中国| ||後漢・延熹5年4月|長沙で賊が起ち、桂陽、蒼梧を寇した
- 162年6月1日-08:00|中国| ||後漢・延熹5年5月|長沙、零陵に賊が起ち、桂陽、蒼梧、南海、交阯を攻めたため、御史中丞盛脩を遣わして州郡を督し之を討たせたが、克たなかった
- 162年7月30日-08:00|中国| ||後漢・延熹5年7月|烏吾羌が漢陽、隴西、金城を寇したが、諸郡兵が之を討ち破った
- 162年8月28日-08:00|中国| ||後漢・延熹5年8月|艾県の不服従民が長沙に侵攻/零陵・武陵の異民族が反乱
- 162年10月25日-08:00|中国| ||後漢・延熹5年9月29日|琅邪都尉官を罷めた
- 162年10月26日-08:00|中国| ||後漢・延熹5年10月|武陵蛮が叛き、江陵を寇した
- 162年12月24日-08:00|中国| ||後漢・延熹5年11月|車騎將軍馮滂は叛いた蛮を武陵に於いて大破した/馮那羌が武威、張掖、酒泉を寇した
- 163年6月19日-08:00|中国| ||後漢・延熹6年5月|鮮卑が遼東属国を寇した
- 163年8月17日-08:00|中国| ||後漢・延熹6年7月|桂陽の盜賊である李研等が郡界を寇した
- 163年8月17日-08:00|中国| ||後漢・延熹6年7月|武陵蛮が復た叛いた、太守の陳奉がこれと戦い、大いに破って之を降した/隴西太守の孫羌が馮那羌を討ち、之を破った
- 163年12月14日-08:00|中国| ||後漢・延熹6年11月|南海賊が郡界を寇した
- 164年-04:00|アルメニア/イタリヤ| ||<廃位>アルメニア王(アルサス朝)「パクル」ローマ軍がアルメニアを占領
- 164年-04:00|アルメニア| ||<復位>アルメニア王(アルサス朝)「ソハエムス」(2期目~186年)
- 164年2月11日-08:00|中国| ||後漢・延熹7年|<死去>後漢・趙国「趙惠王劉乾」
- 164年4月1日-08:00|中国| ||後漢・延熹7年2月22日|コに隕石があった
- 164年8月6日-08:00|中国| ||後漢・延熹7年7月|荊州刺史度尚が零陵、桂陽の盜賊及び蛮夷を討ち、大いに破り之を平らげた
- 164年11月2日-08:00|中国| ||後漢・延熹7年10月|護羌校尉段熲が当煎羌を撃ち、之を破った
- 165年-05:30|スリヤンカ| ||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Kanittha Tissa」Bhatika Tissaの弟(~193年)
- 165年-01:00|イタリヤ/イラン| ||ローマ軍は更にパルティア方面への侵攻を行い首都テシフォンがローマ軍によって占領された/ローマ軍の内部で天然痘が発生し撤退
- 165年1月30日-08:00|中国| ||後漢・延熹8年|<降格>後漢・勃海国「勃海王劉凱」⇒「陶王」
- 165年1月30日-08:00|中国| ||後漢・延熹8年|<就任>後漢・梁国「梁敬王劉元」(~180年)
- 165年1月30日-08:00|中国| ||後漢・延熹8年|<就任>後漢・沛国「沛考王劉琮」⇒「沛恭王劉曜」⇒「沛王劉契」(~220年崇徳侯に降格)
- 165年1月30日-08:00|中国| ||後漢・延熹8年|<就任>後漢・趙国「趙懷王劉豫」(~184年黄巾の乱で殺される)
- 165年1月30日-08:00|中国| ||後漢・延熹8年正月|勃海王の劉凱が謀反し、降って陶王と為った
- 165年2月28日-08:00|中国| ||後漢・延熹8年正月30日|晦、日食があった
- 165年3月1日-08:00|中国| ||後漢・延熹8年2月|護羌校尉段熲が罕姐羌を撃ち、之を破った
- 165年3月30日-09:00|朝鮮| ||高句麗・次大王20年3月|<死去>先代高句麗王「太祖大王」119歳で殺害される
- 165年6月27日-08:00|中国| ||後漢・延熹8年6月|荊州の兵朱蓋らが反乱をおこし、桂陽の胡蘭らとともに桂陽・零陵の役所を攻撃/陳球・度尚らがこれを破る
- 165年6月27日-08:00|中国| ||後漢・延熹8年6月|段熲が当煎羌を遼中に於いて撃ち、之を大いに破った
- 165年9月28日-08:00|中国| ||後漢・延熹8年8月6日|初めて郡国に令して田を有する者に畝斂税錢(畝ごとに税を課して錢を収斂した)
- 165年11月21日-09:00|朝鮮| ||高句麗・次大王45年10月|<死去>高句麗王「次大王」椽那部の皂衣である明臨苔夫に殺害される
- 165年11月21日-09:00|朝鮮| ||高句麗・新大王1年10月|<即位>高句麗王「新大王」(~179. 12死去)
- 165年11月21日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・阿達羅12年10月|阿の吉宣が反逆を謀ったが、発覚して誅殺を恐れて、百済に逃げた/王は怒って兵を出したが、百済は城の守備を固め新羅軍は食糧が尽きて帰国
- 165年11月21日-08:00|中国| ||後漢・延熹8年10月|勃海の妖賊である蓋登等が「太上皇帝」を称し、玉印、珪、璧、鉄券を有して、相署置したが、皆誅に伏した
- 166年-05:30|インド| ||このころカテリヤ「実利論」成る
- 166年-01:00|イタリヤ/イラン| ||メシア近辺まで再びローマ軍が侵攻し、ゲオルギウス4世はメソポタミア西部を割譲して講和
- 166年2月18日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・阿達羅13年1月1日|辛亥の日、日食があった
- 166年2月18日-08:00|中国| ||後漢・延熹9年正月1日|朔、日食があった
- 166年3月19日-09:00|韓国| ||百済・蓋婁王39年2月|<死去>第4代百済王「蓋婁王」
- 166年3月19日-09:00|韓国| ||百済・肖古王1年2月|<即位>百済王「肖古王」(~214年)
- 166年4月20日-01:00|パチン| ||<就任>第12代ローマ教皇「ソテル」(~01740422死去)
- 166年4月20日-01:00|パチン| ||<退任>第11代ローマ教皇「アネクトゥス」
- 166年7月16日-08:00|中国| ||後漢・延熹9年6月|南匈奴及び烏桓、鮮卑が縁辺にある九郡を寇した
- 166年8月14日-08:00|中国| ||後漢・延熹9年7月|沈滂が武威、張掖を寇した/使匈奴中郎將張奐を遣わして南匈奴、烏桓、鮮卑を撃たせた

0200迄 (1588件)

- 166年10月12日-01:00|イタリヤ| ||旧暦9/1|ローマ皇帝ルキウス・ウェルスがハルティア戦争に勝利して凱旋  
166年10月12日-01:00|イタリヤ/中国| ||後漢・延熹9年9月|大秦(ローマ)王安敦の使者が来朝する  
167年1月9日-08:00|中国| ||後漢・延熹9年12月|第1次党錮の禁が起こる/宦官と対立していた李膺(りよう)が投獄される  
167年1月9日-08:00|中国| ||後漢・延熹9年12月|南匈奴、烏桓が張奐を詣で降ってきた  
167年2月7日-08:00|中国| ||後漢・延熹10年|是歳、博陵、河間二郡を復し、豊、沛と比した  
167年2月7日-08:00|中国| ||後漢・延熹10年正月|先零羌が三輔を寇したが、中郎将張奐が之を破って平げた/当煎羌が武威を寇したが、護羌校尉の段熲が驚鳥にて追撃して、之を大いに破った/西羌は悉く平らげられた  
167年2月7日-08:00|中国/朝鮮| ||後漢・延熹10年正月|夫余王が玄菟を侵犯し、太守公孫域が戦ってこれを破る  
167年5月7日-08:00|中国| ||後漢・延熹10年4月|先零羌が三輔を寇した  
167年6月5日-08:00|中国| ||後漢・延熹10年5月|廬江に賊が起ち、郡界を寇した  
167年7月4日-08:00|中国| ||後漢・延熹10年5月30日|晦、日食があった  
167年7月12日-08:00|中国| ||後漢・永康1年6月8日|永康に改元/党人らを釈放してそれぞれの故郷で終身禁固(党錮の禁)とする  
167年8月4日-09:00|韓国| ||百済・肖古王2年;新羅・阿達羅14年7月|百済の肖古王が密かに兵を出して新羅の西境の2つの城を攻め落として男女1000名を捕獲  
167年9月2日-09:00|韓国| ||新羅・阿達羅14年;百済・肖古王2年8月|新羅王が一吉の興宣に命じて、百済を討伐/百済は捕えて連行していった男女たちを返して、和睦を請うた  
167年10月31日-08:00|中国| ||後漢・永康1年10月|先零羌が三輔を寇した、使匈奴中郎将張奐が之を撃破  
167年12月29日-08:00|中国| ||後漢・永康1年12月|<再任>後漢・勃海国「勃海王劉劭」(~172年(熹平元年10月)罪を問われ自殺)  
168年-01:00|イタリヤ| ||ローマ軍が北イタリヤでマルコマン族撃退戦  
168年-01:00|イタリヤ| ||ローマ皇帝マルクス・アウレリウスが「自省録」著す  
168年1月25日-08:00|中国| ||後漢・永康1年12月28日|<死去>後漢第11代皇帝「桓帝劉志」/36歳(誕生135年)  
168年1月28日-08:00|中国| ||後漢・建寧1年|<就任>後漢・阜陵国「阜陵王劉赦」(~206年)  
168年1月28日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||後漢・建寧1年;高句麗・新大王4年|漢の玄菟郡太守耿臨が来襲し、高句麗軍の数百人を殺す/高句麗王は降伏  
168年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建寧1年正月21日|<即位>後漢第12代皇帝「靈帝劉宏」(~中平6年4月11日(01890513)死去)建寧と改元/12歳の幼帝であるため竇太后がなお朝政を執る  
168年2月26日-08:00|中国| ||後漢・建寧1年2月|護羌校尉段熲は逢義山に先零羌を大破した  
168年6月23日-08:00|中国| ||後漢・建寧1年5月1日|朔、日食があった  
168年8月21日-08:00|中国| ||後漢・建寧1年7月|破羌將軍段熲が再び先零羌を涇陽で破った  
168年10月19日-08:00|中国| ||後漢・建寧1年9月|竇武と陳蕃らが兵を率いて宦官一掃を謀るが失敗。宦官と曹節らがクーデターを起こし、竇武・陳蕃・尹勲・劉瑜・馮述らが殺害され、劉淑・魏朗らが自殺  
168年12月17日-08:00|中国| ||後漢・建寧1年10月30日|晦日、日食があった  
169年1月16日-08:00|中国| ||後漢・建寧1年12月|鮮卑及びハルマが幽並二州を寇した  
169年1月30日-01:00|イタリヤ| ||<死去>ローマ帝国皇帝「ルキウス・ウェルス」脳卒中のためアルティムで/38歳(誕生01301215)  
169年2月15日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・新大王5年|高句麗王伯固は大加の優居や主簿の然人などを送り玄菟太守の公孫度を助けて富山城を討った  
169年8月11日-08:00|中国| ||後漢・建寧2年7月|破羌將軍段熲が射虎塞外谷で先零羌を大破した、東羌は悉く平らげられた  
169年10月9日-08:00|中国| ||後漢・建寧2年9月|江夏蛮が叛き、州郡がこれを討って平らげた/丹陽の山越賊が太守陳儻を困んだが、陳儻はこれを撃破した  
169年11月25日-08:00|中国| ||後漢・建寧2年10月19日|李庸、虞放、杜密、朱寓、荀翌らに逮捕命令が出され党人への大弾圧が再度行われる/李庸ら100余人が死刑、そのほかの党人に禁錮、妻子を辺境へ流刑とする(第2次党錮の禁)  
169年12月6日-08:00|中国| ||後漢・建寧2年10月30日|晦、日食があった  
169年12月7日-08:00|中国| ||後漢・建寧2年11月|鮮卑が并州を寇した  
170年-05:30|インド| ||<即位>インド・スキタイ王国(西クシャトラパ)「タマジヤグスリ1世」(~175年)  
170年-03:00|イラク| ||<即位>エリマス王国(アルカス朝)第23代国王「Orodes5世」Belidusaの息子(~180年)  
170年5月3日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||後漢・建寧3年3月30日;百済・肖古王5年3月30日|晦、日食があった  
170年10月28日-09:00|韓国| ||百済・肖古王5年;新羅・阿達羅17年10月|百済が新羅国境付近を荒らした  
170年10月28日-08:00|中国| ||後漢・建寧3年冬|交州鬱林郡の太守・谷永が、烏滸人10万人あまりを降伏させ、内属させ、みな、冠と帯をうけ、七つの県を開設  
171年11月8日-08:00|中国| ||後漢・建寧4年冬|鮮卑が并州を寇した  
172年2月12日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・建寧5年|<死去>南匈奴単于「伊陵尸逐就単于(居車児)」  
172年2月12日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・建寧5年|<即位>南匈奴単于「屠特若尸逐就単于」(~熹平6年(177年)死去)  
172年6月24日-08:00|中国| ||後漢・熹平1年5月16日|熹平に改元  
172年11月4日-08:00|中国| ||後漢・熹平1年10月|<死去>後漢・勃海国「勃海王劉劭」罪を問われ自殺  
172年12月4日-08:00|中国| ||後漢・熹平1年11月|会稽の宗教指導者許生が反乱を起こし、陽明皇帝を名乗る。臧旻、陳寅らが討伐に向かう

- 172年12月4日-08:00|中国/朝鮮| ||高句麗・新大王8年;後漢・熹平1年11月|後漢が高句麗へ大軍を送った/高句麗軍は、籠城し後漢軍は城を攻めたてたが破ることはできず後漢兵は引き上げた/明臨答夫は追走し坐原(地名)で戦い後漢軍は大敗
- 173年1月2日-08:00|中国| ||後漢・熹平1年12月|鮮卑が并州を寇した
- 173年2月1日-08:00|中国| ||後漢・熹平2年|<就任>後漢・甘陵国「甘陵貞王劉定」(~176年)
- 173年2月1日-08:00|中国| ||後漢・熹平2年|会稽太守の尹端率いる軍勢が許昭の軍勢に破れる
- 174年-02:00|ウクライナ| ||<死去>ホースロース王(スアルトコス朝)「ユリウス・イパトル」
- 174年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ホースロース王(スアルトコス朝)「サロマテス2世」(~210年死去)
- 174年1月21日-08:00|中国| ||後漢・熹平2年12月|鮮卑が幽並二州を寇した
- 174年2月18日-08:00|中国| ||後漢・熹平2年12月29日|晦,日食があった
- 174年2月20日-08:00|中国| ||後漢・熹平3年|<死去>後漢・中山国「中山穆王劉暢」
- 174年2月20日-08:00|中国| ||後漢・熹平3年|<死去>後漢・任城国「任城王劉博」無子嗣,任城国を廃する
- 174年2月20日-08:00|中国| ||後漢・熹平3年|<就任>後漢・中山国「中山節王劉稚」(~半月で死去)
- 174年2月20日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||後漢・熹平3年正月|扶余国の使者が来る
- 174年4月22日-01:00|パキスタン| ||<死去>第12代ローマ教皇「ソテル」
- 174年4月22日-01:00|パキスタン| ||<就任>第13代ローマ教皇「エレテリス」(~01890526死去)
- 174年7月17日-08:00|中国| ||後漢・熹平3年6月|<就任>後漢・濟南国「濟南王劉康」⇒「濟南王劉贊」(~207年)
- 174年12月12日-08:00|中国| ||後漢・熹平3年11月|臧旻、陳寅、孫堅らが会稽郡で許生を攻め滅ぼす
- 175年-05:30|インド| ||<即位>インド・スキタイ王国(西クシャトラパ)「ジグヴァダマン」⇒「ムラシムハ1世」(~188年)
- 175年-05:00|パキスタン| ||<即位>インド・スキタイ王国(パラタラジャス)国王「ミラウアラウ」ウアラミの子(~185年)
- 175年-01:00|イタリヤ/シリア・アラブ| ||シリア総督アイトゥス・カツゥスの反乱
- 175年1月10日-08:00|中国| ||後漢・熹平3年12月|鮮卑が北地を寇したため,北地太守夏育が追撃してこれを破った/鮮卑はまた并州を寇した
- 175年2月9日-08:00|中国| ||後漢・熹平4年|この年,王安国が拘弥の王を攻めてこれを殺す
- 175年2月9日-08:00|中国| ||後漢・熹平4年|ホーノ王Anguoが突然,于田を攻め于田を始めとする多数を殺害
- 175年4月9日-08:00|中国| ||後漢・熹平4年3月|<就任>後漢・任城国「新昌侯劉佗」(~220年(黄初元年)崇徳侯に降格)
- 175年6月7日-08:00|中国| ||後漢・熹平4年5月|鮮卑が幽州に侵攻
- 176年1月29日-08:00|中国| ||後漢・熹平5年|是歳,鮮卑が幽州を寇した
- 176年4月27日-08:00|中国| ||後漢・熹平5年4月|益州郡夷が叛いた,太守李ギョウがこれを討ち平らげた
- 177年-01:00|フランス| ||この頃,ルゴトウス(現リヨン)でキリスト教徒迫害起こる
- 177年2月16日-08:00|中国| ||後漢・熹平6年|<就任>後漢・甘陵国「甘陵献王劉忠」(~189年)
- 177年5月16日-08:00|中国| ||後漢・熹平6年4月|鮮卑が三辺を寇した
- 177年9月11日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・熹平6年8月|<死去>南匈奴単于「屠特若尸逐就単于」戦死
- 177年9月11日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・熹平6年8月|破鮮卑中郎將の田晏、使匈奴中郎將の臧旻、護烏桓校尉の夏育が南匈奴の屠特若尸逐就単于と共に鮮卑討伐/鮮卑の檀石槐軍は田晏、臧旻、夏育の軍を大破
- 177年11月9日-08:00|中国| ||後漢・熹平6年10月1日|朔,日食があった
- 178年-01:00|イタリヤ| ||第2次マルコムニ戦争開始(~180)
- 178年1月7日-08:00|中国| ||後漢・熹平6年12月|鮮卑が遼西を寇した
- 178年2月6日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・熹平7年|<即位>南匈奴単于「呼徴単于(呼徴)」屠特若尸逐就単于の子(~179年殺される)
- 178年2月6日-08:00|中国| ||後漢・熹平7年|是歳,鮮卑が酒泉を寇した
- 178年2月6日-07:00|ベトナム/中国| ||後漢・熹平7年正月|合浦・交趾の烏滸蛮が反乱をおこし,九真・日南まで混乱が広がる
- 178年3月7日-08:00|中国| ||後漢・熹平7年2月1日|朔,日食があった
- 178年4月26日-08:00|中国| ||後漢・光和1年3月21日|熹平7年を光和と改元
- 178年11月27日-08:00|中国| ||後漢・光和1年10月30日|晦,日食があった
- 179年1月26日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・光和2年|<死去>南匈奴単于「呼徴単于(呼徴)」漢の張脩に殺害される
- 179年1月26日-08:00|中国| ||後漢・光和2年|<就任>後漢・琅邪王「琅邪順王劉容」(~186年)
- 179年1月26日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・光和2年|<即位>南匈奴単于「羌渠単于(羌渠)」(~188年3月殺される)
- 179年5月24日-08:00|中国| ||後漢・光和2年4月|<死去>後漢・東平国「東平頃王劉端」
- 179年5月24日-08:00|中国| ||後漢・光和2年4月|<就任>後漢・東平国「崇徳侯劉凱」(~220年(延康元年))
- 179年5月24日-08:00|中国| ||後漢・光和2年4月1日|朔,日食があった
- 179年11月17日-08:00|中国| ||後漢・光和2年10月|巴郡板楯蛮が叛いた,御史中丞蕭ヱを遣わして益州刺史を督してこれを討たせたが,克たなかった
- 180年-03:00|イラク| ||<即位>エリマス王国(アルサス朝)第24代国王「Vologases」(~190年)
- 180年1月15日-09:00|朝鮮| ||高句麗・新大王15年12月|<死去>高句麗王「新大王」/91歳
- 180年1月15日-09:00|朝鮮| ||高句麗・故國川1年12月|<即位>高句麗王「故國川王」(~197.5死去)
- 180年1月15日-08:00|中国| ||後漢・光和2年12月|鮮卑が幽並二州を寇した
- 180年1月15日-08:00|中国| ||後漢・光和2年12月|巴郡の板楯蛮が反乱をおこす
- 180年2月14日-08:00|中国| ||後漢・光和3年|<就任>後漢・河間国「崇徳侯劉かい」(~220年(黄初元年)崇徳侯に降格)

0200迄 (1588件)

- 180年2月14日-08:00|中国| || |檀石槐没後、鮮卑分裂する
- 180年3月17日-01:00|イタリヤ| || |<死去>第16代ローマ帝国皇帝「マルクス・アウレリウス・アントニヌス」シルミウム近郊で/58歳(誕生01210426)
- 180年3月18日-01:00|イタリヤ| || |<即位>ローマ皇帝「コント・ウス」(~192年12月31日近衛隊による暗殺)
- 180年5月12日-08:00|中国| || |後漢・光和3年4月|江夏の異民族が反乱をおこす
- 181年2月2日-08:00|中国| || |後漢・光和4年|<就任>後漢・梁国「梁王劉弥」(~220年崇徳侯に降格)
- 181年2月2日-08:00|中国| || |後漢・光和4年|<即位>檀石槐鮮卑大人「和連」檀石槐の子(~189年)
- 181年5月2日-08:00|中国| || |後漢・光和4年4月|朱儁が交趾刺史となり、交趾・合浦の異民族の反乱を鎮める
- 181年9月26日-08:00|中国| || |後漢・光和4年9月1日|朔、日食があった
- 181年11月24日-08:00|中国| || |後漢・光和4年10月|鮮卑が幽州・并州に侵攻
- 182年8月17日-08:00|中国| || |後漢・光和5年7月|巴郡板楯蛮が詣でて太守曹謙に降った
- 183年3月12日-08:00|中国| || |後漢・光和6年2月|長陵県復し、豊、沛に比した
- 184年1月31日-08:00|中国| || |後漢・光和7年|<死去>後漢・下ヒ国「下ヒ愍王劉意」
- 184年1月31日-08:00|中国| || |後漢・光和7年|<死去>後漢・趙国「趙懐王劉豫」黄巾の乱で殺される
- 184年1月31日-08:00|中国| || |後漢・光和7年|<就任>後漢・下ヒ国「下ヒ哀王劉宜」(~数月で死去、無子嗣)
- 184年1月31日-08:00|中国| || |後漢・光和7年|<退任>後漢・常山国「常山王劉嵩」国を捨て逃亡
- 184年1月31日-08:00|中国/朝鮮| || |高句麗・故國川6年;後漢・光和7年|後漢の遼東太守が高句麗を攻撃/高句麗王は王子の須を派遣し抵抗させたが勝てず、王は自ら兵を率いて漢軍と坐原に於いて戦い破った
- 184年3月30日-09:00|韓国| || |新羅・阿達羅31年3月|<死去>新羅王「阿達羅尼師今」
- 184年3月30日-09:00|韓国| || |新羅・伐休1年3月|<即位>新羅王「伐休尼師今」(~196年)
- 184年4月1日-08:00|中国| || |後漢・光和7年3月3日|八閩都尉の官を置いた
- 184年4月3日-08:00|中国| || |後漢・光和7年3月5日|漢の各地で太平道信徒が蜂起/信徒が頭に黄色の布を巻いているところから、黄巾賊の反乱と呼ばれる/安平国・甘陵国で住民が黄巾賊に呼応、王を捕える
- 184年4月28日-08:00|中国| || |後漢・光和7年4月|朱儁の軍が潁川郡で波才が率いる黄巾の軍に敗れる/汝南太守趙謙、邵陵で黄巾賊に破れる/広陽黄巾が幽州刺史郭勳及び太守劉衛を殺害した
- 184年5月23日-08:00|中国| || |後漢・光和7年4月26日|荊州南陽郡において黄巾の張曼成は「神上使」と自称し南陽太守・ちよ貢を殺す
- 184年5月28日-08:00|中国| || |後漢・光和7年5月|皇甫嵩、長社で黄巾賊に包囲されるが、朱儁、曹操と共にこれを撃破/さらに皇甫嵩は、朱儁とともに汝南・陳国一帯の黄巾を破って、その地は平穏になる
- 184年6月26日-08:00|中国| || |後漢・光和7年6月|えん州東郡東阿県で県丞の王度が黄巾に呼応/程いく(字、仲徳)の機転で県の城を取り戻し王度の軍を敗走させる
- 184年6月26日-08:00|中国| || |後漢・光和7年6月|荊州南陽郡の宛に駐屯していた張曼成は百日あまりたった後、南陽太守に着任した秦頡により殺され黄巾側は趙弘がたつ
- 184年6月26日-08:00|中国| || |後漢・光和7年6月|交趾郡に駐屯する兵が刺史および合浦太守をとらえ、「柱天將軍」と自称するが交趾刺史として派遣された賈琮(字、孟堅)に平定される
- 184年6月26日-08:00|中国| || |後漢・光和7年6月|皇甫嵩と朱儁の軍は彭脱の軍を大いに敗る/豫州の潁川郡、汝南郡、陳国の三郡は平定される
- 184年6月26日-08:00|中国| || |後漢・光和7年6月|太平道教祖張角、病死/張角の弟、張梁代わる
- 184年6月26日-08:00|中国| || |後漢・光和7年6月|盧植が黄巾を破って、広宗に張角を囲んだ/中郎将董卓が遣わされて張角を攻めたが、克たなかった
- 184年7月26日-08:00|中国| || |後漢・光和7年7月|宛に籠る黄巾賊張曼成戦死/黄巾賊趙弘、代わる
- 184年7月26日-08:00|中国| || |後漢・光和7年7月|朱儁麾下孫堅、趙弘籠る宛攻略で大功、黄巾賊趙弘、戦死/黄巾賊韓忠、代わる
- 184年7月26日-08:00|中国| || |後漢・光和7年7月|朱儁、策を用い韓忠の部隊を誘いだし、破る/黄巾賊韓忠、斬られ暫く後、宛陥落
- 184年7月26日-08:00|中国| || |後漢・光和7年7月|巴郡で五斗米道の張脩が挙兵
- 184年9月23日-08:00|中国| || |後漢・光和7年8月|えん州東郡の倉亭で車騎將軍の皇甫嵩の軍はト巳の軍をやぶる/冀州鉅鹿郡下曲陽県で東中郎将の董卓が敗れ、帰還
- 184年9月23日-08:00|中国| || |後漢・光和7年8月|鎮賊中郎将の朱儁の軍は宛城の趙弘軍を攻め趙弘を斬る/朱儁の軍は孫堅ら精鋭の兵士五千人で東北から攻め落とす/朱儁の軍は韓忠の軍を誘き出し大いに敗る
- 184年10月23日-08:00|中国| || |後漢・光和7年9月|安平王の劉續が誅され安平国が安平郡となる
- 184年11月21日-08:00|中国| || |後漢・光和7年冬|韓約たち数10人を人質にとった王國は金城太守の陳懿を殺す
- 184年11月21日-08:00|中国| || |後漢・光和7年冬|先零という降羌は、黄巾の乱に乗じ枹罕と河關の群盗とつるんで乱を起こす/涼州義従の宋建や王國、涼州の宋揚も乱に加わる/護羌校尉のれい徴を殺す
- 184年11月21日-08:00|中国| || |後漢・光和7年10月|皇甫嵩は黄巾賊と広宗で戦いを興し、張角の弟張梁を斬る
- 184年12月21日-08:00|中国| || |後漢・光和7年11月|皇甫嵩、張角の弟張宝の軍を撃破/黄巾の乱を一旦鎮圧
- 184年12月21日-08:00|中国| || |後漢・光和7年11月|湟中義従胡の北宮伯玉が先零羌と共に叛いた、金城の人辺章、韓遂をもって軍帥とし、護羌校尉佗征、金城太守陳懿を攻殺した
- 185年-05:00|パキスタン| || |<即位>インド・スキタイ王国(パラタジヤス)国王「ミラタマ」フアラミラの子(~200年)
- 185年-04:00|ジョージア| || |<即位>イペリア王「アマサ」2世「ファスマネ」3世の息子(~189年)
- 185年1月11日-08:00|中国| || |後漢・光和7年11月22日|朱儁が宛城を抜き、黄巾の別帥孫夏を斬った
- 185年2月16日-08:00|中国| || |後漢・中平1年12月29日|光和7年を中平元年と改元

0200迄 (1588件)

- 185年2月18日-08:00|中国| ||後漢・中平2年|<就任>後漢・趙国「趙献王劉赦」(~211年(建安16年)死去)
- 185年3月19日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・伐休2年2月|波珍の仇道と、一吉仇須兮を左右の軍主に任命して、召文国を討伐
- 185年3月19日-08:00|中国| ||後漢・中平2年2月|黒山賊張牛角等十余輩が並び起った
- 185年3月19日-08:00|中国| ||後漢・中平2年2月|靈帝、宮殿造営の為、田地1畝毎に十錢を課税
- 185年4月18日-08:00|中国| ||後漢・中平2年3月|北宮伯玉等が三輔を寇した、左車騎將軍皇甫嵩を遣わしてこれを討たせたが、克たなかった
- 185年10月12日-08:00|中国| ||後漢・中平2年9月|隴西郡にて辺章と韓遂が叛乱
- 185年12月10日-08:00|中国| ||後漢・中平2年11月|鮮卑が幽、並二州を寇した
- 185年12月10日-08:00|中国| ||後漢・中平2年11月|張温は北宮伯玉を美陽に破った/蕩寇將軍周慎を遣わしてこれを追撃させ、また中郎將董卓を遣わして先零羌を討たせたが周慎、董卓どちらも克たなかった
- 185年12月10日-08:00|中国| ||後漢・中平2年11月|張温率いる討伐軍が辺章・韓遂を撃破
- 186年-04:00|アルメニア| ||<即位>アルメニア王(アルサス朝)「ウ・ヨカセ2世」ハルティア王ウ・ヨカセ5世(~198年)
- 186年-04:00|アルメニア| ||<廃位>アルメニア王(アルサス朝)「ソハエムス」ウ・ヨカセ4世がアルメニアを占領して追放
- 186年2月7日-08:00|中国| ||後漢・中平3年|<就任>後漢・琅邪国「琅邪順王劉容」(~193年)
- 186年3月9日-08:00|中国| ||後漢・中平3年2月|江夏の兵士の趙滋が反乱をおこし、南陽太守の秦頡を殺す
- 186年3月9日-08:00|中国| ||後漢・中平3年2月|四出文錢を鑄造させた
- 186年7月4日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||後漢・中平3年;新羅・伐休3年5月30日|晦、日食があった
- 186年7月5日-08:00|中国| ||後漢・中平3年6月|荊州刺史王敏が趙慈を討ち、これを斬った
- 186年10月31日-08:00|中国| ||後漢・中平3年10月|武陵蛮が叛いた、郡界を寇し、郡兵がこれを討ち破った
- 186年12月29日-08:00|中国| ||後漢・中平3年12月|鮮卑が幽州・并州に侵攻
- 187年1月27日-07:00|ペトナム/中国| ||後漢・中平4年|交州太守「士燮」が後漢から自立
- 187年1月27日-08:00|中国| ||後漢・中平4年正月|韓遂が辺章を殺害して再び朝廷に叛乱
- 187年2月26日-08:00|中国| ||後漢・中平4年2月|イ陽の賊が中牟令を殺害した
- 187年3月28日-08:00|中国| ||後漢・中平4年3月|河南尹何苗がイ陽の賊を討って、これを破った
- 187年4月26日-08:00|中国| ||後漢・中平4年4月|涼州刺史耿鄙が金城の賊韓遂を討ったが耿鄙の兵は大敗し、遂に漢陽が寇され漢陽太守傅燮が戦没/扶風の人馬騰、漢陽の人王国が並んで叛き、三輔を寇した
- 187年7月24日-08:00|中国| ||後漢・中平4年6月|張挙、張純、丘力居らが幽州一帯で叛乱を起こし、右北平太守の劉政、遼東太守の陽終、護烏丸校尉の公綱らを殺し、張挙は天子を称する
- 187年11月19日-08:00|中国| ||後漢・中平4年10月|長沙で区星が、零陵・桂陽で周朝と郭石が、協力して叛乱/朝廷は孫堅を長沙太守に任じ、討伐を命じる
- 188年-05:30|インド| ||<即位>インド・スキタイ王国(西ケヤトラハ)「イヌヴァラガッタ」(~191年)
- 188年1月17日-08:00|中国| ||後漢・中平4年12月|孫堅が零陵郡・桂陽郡での反乱も鎮圧/3郡(長沙・零陵・桂陽)を掌握
- 188年2月15日-08:00|中国| ||後漢・中平5年正月|休屠各胡が西河を寇し、郡守を殺した
- 188年3月16日-09:00|韓国| ||新羅・伐休5年;百濟・肖古王23年2月|百濟が母山城を攻撃して来たので、波珍刈の仇道に命じて出兵し撃退
- 188年3月16日-08:00|中国| ||後漢・中平5年2月|郭大が黄巾賊の殘党を率いて白波谷で拳兵(白波賊)、太原・河東を攻める
- 188年4月14日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・中平5年3月|<死去>南匈奴単于「羌渠単于(羌渠)」右部の反乱により殺害される
- 188年4月14日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・中平5年3月|<即位>南匈奴単于「持至尸逐侯単于(於夫羅)」羌渠の子、劉豹の父(~195年死去)
- 188年4月14日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・中平5年3月|<即位>南匈奴単于「須卜骨都侯単于」反乱部族、須卜氏の骨都侯(~189年死去)
- 188年4月14日-08:00|中国| ||後漢・中平5年3月|刺史を改めて、新たに牧を置いた
- 188年5月14日-08:00|中国| ||後漢・中平5年4月|汝南葛陂の黄巾が郡県を攻没した
- 188年5月26日-01:00|パチカン| ||<死去>第13代ローマ教皇「エレテル」
- 188年5月26日-01:00|パチカン| ||<就任>第14代ローマ教皇「ウクトル1世」(~01990728死去)
- 188年7月12日-08:00|中国| ||後漢・中平5年6月|馬相・趙祗らが、緜竹で蜂起し、刺史の儉を殺して天子を称する/賈龍がこれを攻め破り、劉焉を益州に迎える
- 188年9月9日-08:00|中国| ||後漢・中平5年8月|西園八校尉を置き、蹇碩・袁紹・ほうこう鮑鴻・曹操・趙融・馮芳・夏牟・淳于瓊が校尉に任せられる
- 188年10月9日-08:00|中国/モンゴル| ||後漢・中平5年9月|南単于が叛き白波賊とともに河東を寇した
- 188年11月7日-08:00|中国| ||後漢・中平5年10月|青、徐で黄巾がまた起こり、郡県を寇した
- 188年11月7日-08:00|中国| ||後漢・中平5年10月|劉虞が丘力居を懐柔/張挙・張純は殺害され、幽州の反乱鎮圧
- 188年12月7日-08:00|中国| ||後漢・中平5年11月|公孫珣が張純と石門で戦いを興して、これを大破した
- 188年12月7日-08:00|中国| ||後漢・中平5年11月|巴郡板楯蛮が叛いた、上軍別部司馬趙瑾を遣わしてこれを討ち平らげた
- 188年12月7日-08:00|中国| ||後漢・中平5年11月|涼州賊王国が陳倉を困んだ、右將軍皇甫嵩がこれを救った
- 189年-09:00|日本| ||卑弥呼が邪馬台国の女王にたてられ内乱が治まる(「後漢書」東夷伝)
- 189年-04:00|ジョージア| ||<即位>イペリア王「リビシオン1世」アマサ2世の姉妹の息子(~216年)

0200迄 (1588件)

- 189年2月4日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・中平6年|<死去>南匈奴単于「須卜骨都侯単于」
- 189年2月4日-08:00|中国| ||後漢・中平6年|<就任>後漢・弘農国「弘農懷王劉弁」(~01890515漢皇帝に即位)
- 189年2月4日-08:00|中国| ||後漢・中平6年|<即位>檀石槐鮮卑大人「魁頭」和連の甥、「騫曼」和連の子⇒「步度根」魁頭の弟(~233年殺される);「扶羅韓」魁頭の弟、步度根の次兄(~218年殺される)
- 189年3月5日-08:00|中国| ||後漢・中平6年2月|皇甫嵩が陳倉で王国を破る
- 189年4月16日-08:00|中国| ||後漢・中平6年3月13日|幽州牧劉虞が漁陽賊張純を購い斬った
- 189年5月3日-08:00|中国| ||後漢・中平6年4月|<就任>後漢・勃海国「渤海王劉協」(~7月陳留王に改封)
- 189年5月3日-09:00|韓国/朝鮮| ||後漢・中平6年;百濟・肖古王24年4月1日|朔、日食があった
- 189年5月13日-08:00|中国| ||後漢・中平6年4月11日|<死去>後漢第12代皇帝「靈帝劉宏」病没/数え34歳(誕生156年)
- 189年5月15日-08:00|中国| ||後漢・光熹1年4月13日|<退位>後漢・弘農国「弘農懷王劉弁」⇒<即位>後漢第13代皇帝「少帝弁劉辯」(~9月28日廃位)光熹と改元/皇太后となった母親が政務をとり、何進が実権を握る
- 189年7月30日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・伐休6年;百濟・肖古王24年7月|仇道は百濟軍と狗壤で戦って勝ち、500余人を殺したり捕虜にした
- 189年7月30日-08:00|中国| ||後漢・光熹1年7月|<改封>後漢・勃海国「渤海王劉協」⇒陳留国「陳留王劉協」(~9月漢皇帝に即位)
- 189年9月24日-08:00|中国| ||後漢・光熹1年8月27日|張讓、段珪等は少帝及び陳留王を略取して北宮徳陽殿に御幸させた/何進の部曲将呉匡は車騎將軍何苗と朱雀闕下で戦いを興し、何苗は敗れ斬られた
- 189年9月25日-08:00|中国| ||後漢・昭寧1年8月28日|袁紹が宮中に兵を入れて宦官らを次々と殺害/少帝劉弁と弟の陳留王劉協は洛陽を脱出、城外にいた董卓と接触し、洛陽に戻る/昭寧と改元
- 189年9月28日-08:00|中国| ||後漢・永漢1年9月2日|<退任>後漢・陳留国「陳留王劉協」⇒<即位>後漢第14代皇帝「獻帝劉協」(~02201125廃位)年号を永漢とする
- 189年9月28日-08:00|中国| ||後漢・永漢1年9月2日|<廃位>後漢第13代皇帝「少帝弁劉弁」洛陽を占領した董卓により
- 189年10月27日-08:00|中国| ||後漢・永漢1年10月|白波賊が河東を寇したため、董卓はその将牛輔を派遣して之を撃った
- 189年11月26日-08:00|中国| ||後漢・永漢1年11月|扶風都尉を省き、漢安都護を置いた
- 190年-05:30|インド| |||<即位>クシャナ朝君主「ウァースターウァ1世」(~230年)
- 190年-03:30|イラン| |||<即位>パルティア王「アルカス47世(オスロイス2世)」メディア地方で王位を主張(~195年)
- 190年-03:00|イラク| |||<即位>エリミス王国(アルサス朝)第25代国王「Unknown King2世」(~210年)
- 190年1月24日-08:00|中国| ||後漢・中平6年12月|曹操、董卓追討のため、衛茲の援助で兵5000を集め、己吾で拳兵/済北の相鮑信、曹操の拳兵先で同時に拳兵
- 190年1月24日-08:00|中国| ||後漢・中平6年12月|年号を中平6年に戻す
- 190年2月23日-08:00|中国| ||後漢・初平1年|中国で仏教がひろまる
- 190年2月23日-08:00|中国| ||後漢・初平1年正月|王匡、河陽津に軍を置いて董卓を襲撃しようとしたが、董卓軍は背後に回って攻撃したため、王匡は大敗
- 190年2月23日-08:00|中国| ||後漢・初平1年正月|初平と改元
- 190年2月23日-08:00|中国| ||後漢・初平1年正月|袁紹を盟主として王匡、韓馥、孔稀、劉岱、張バク襲、張超、橋瑁、袁遺、鮑信、曹操、袁術らが各地で董卓追討のため拳兵
- 190年3月6日-08:00|中国| ||後漢・初平1年正月12日|<死去>後漢前(第13代)皇帝「少帝弁劉辯」董卓が李儒に殺害させる
- 190年3月24日-08:00|中国| ||後漢・初平1年2月|曹操が単独で出兵し、徐栄の軍に敗北
- 190年4月9日-08:00|中国| ||後漢・初平1年2月17日|董卓が、皇帝の身柄を洛陽から長安に移し、そこを都とした
- 190年7月20日-08:00|中国| ||後漢・初平1年6月|董卓、五銖銭を廃止し、新たに銭を鑄造
- 190年9月17日-09:00|韓国| ||百濟・肖古王25年;新羅・伐休7年8月|百濟が西の国境にある円山郷を襲い進軍して缶谷城を包圍/仇道は彼らを攻撃、蛙山で百濟軍に敗れた
- 190年10月17日-09:00|朝鮮| ||高句麗・故國川12年9月|左可慮らが四椽那と謀叛を起した
- 191年-05:30|インド| |||<復位>インド・スキタイ王国(西クシャトラバ)「ルトラム1世」(~197年死去)
- 191年-03:30|イラン| |||<死去>パルティア王「アルカス45世(ウァオカセ4世)」
- 191年-03:30|イラン| |||<即位>パルティア王「アルカス46世(ウァオカセ5世)」オスロイス2世を破って単独の王となった(~208年死去)
- 191年-03:00|イラク| |||<即位>アテバネ王「ナルセ」(~200年、ウァオカセ5世に反逆して殺される)
- 191年3月14日-08:00|中国| ||後漢・初平2年2月|袁術は將の孫堅を派遣し、董卓の將胡軫と陽人に於いて戦いが興った、胡軫軍が大敗
- 191年5月12日-08:00|中国| ||後漢・初平2年4月|左可慮たちは兵を集めて王都を攻めた/高句麗王は畿内の兵馬を集め、反乱軍を平定
- 191年6月10日-08:00|中国| ||後漢・初平2年5月|袁紹、周昂を陽城に派遣して袁術の陣地を奪取/袁術、孫堅・公孫越を派遣、周昂を追い払おうとして失敗、公孫越戦死
- 191年7月10日-08:00|中国| ||後漢・初平2年6月|安平の戦:韓馥、安平で公孫讚に破れる
- 191年8月8日-08:00|中国| ||後漢・初平2年秋|袁術、孫堅を派遣し劉表を攻める/孫堅、劉表の將・黄祖を攻撃中に不慮の死
- 191年8月8日-08:00|中国| ||後漢・初平2年7月|この頃、黒山賊の干毒、白繞、らが魏郡、東郡へ攻め寄せ、曹操は

兵を率いて東郡に至り、濮陽城で白繞を破る

- 191年8月8日-08:00|中国| ||後漢・初平2年7月|この頃袁紹、青州黄巾賊を撃破して北方に戻り、冀州に入る
- 191年8月8日-08:00|中国| ||後漢・初平2年7月|袁紹、韓馥を脅迫して冀州を奪い、勢力下に組み込む
- 191年9月7日-08:00|中国| ||後漢・初平2年8月|董卓、朱儁を司令官として洛陽奪還に派遣するが、朱儁は袁術に降伏
- 191年10月6日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・伐休8年9月|蚩尤旗(ほうき星)が(二十八宿の)角と亢と(のそばに)現われた
- 191年11月5日-08:00|中国| ||後漢・初平2年10月|黒山賊が魏郡に侵攻した後で、そのまま東郡に侵攻/曹操が黒山賊を撃退
- 191年12月4日-08:00|中国| ||後漢・初平2年11月|青州黄巾が太山を寇した、太山太守の応劭が之を撃破/黄巾は転じて勃海を寇し、公孫珣が東光に於いて戦い、復た之を大破
- 192年-07:00|ベトナム| ||<即位>チャンパ王「区連」インドシ半島の東南部に建国(~220年)
- 192年2月1日-08:00|中国| ||後漢・初平3年正月|黒山賊が東武陽を攻撃/曹操、黒山の本拠を攻撃し、于毒らが引き返すのを待ち伏せ撃破/さらに内黄で漢領内の匈奴於夫羅を攻め、勝利
- 192年2月1日-08:00|中国| ||後漢・初平3年正月|董卓の軍が中牟で朱儁を破り、陳留・潁川で略奪をはたらく
- 192年3月31日-08:00|中国| ||後漢・初平3年3月|袁紹が界橋の戦いで公孫珣(王篇に贊)を破る
- 192年4月30日-08:00|中国| ||後漢・初平3年4月|青州黄巾賊、兗州に侵攻/兗州刺史劉岱、済北相鮑信の諫めを振り払って青州黄巾賊と戦い、敗死/済北相鮑信、曹操に協力して青州黄巾賊と戦い戦死/東郡太守曹操が黄巾を寿張で大破し、之を降した
- 192年5月22日-08:00|中国| ||後漢・初平3年4月23日|司徒の王允、飛將軍の呂布、尚書僕射の士孫瑞、騎都尉の李肅らがクーデターを起こし董卓を殺害
- 192年5月29日-08:00|中国| ||後漢・初平3年5月|李傪と郭汜は兵を集め、董卓の復讐戦のために樊稠・李蒙・王方と連合、長安城内に進入
- 192年6月28日-08:00|中国| ||後漢・初平3年6月1日|長安城は陥落
- 192年7月4日-08:00|中国| ||後漢・初平3年6月7日|李傪と郭汜は呂布の軍勢を打ち破り、王允を殺害/呂布は逃亡
- 192年12月31日-01:00|イタリア| ||<死去>ローマ皇帝「コンモドゥス」親衛隊長と側近に暗殺される/31歳(誕生01610831)
- 193年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプura王国国王「Cula Naga」Kanitta Tissaの息子(~195年)
- 193年1月1日-01:00|イタリア| ||<即位>ローマ皇帝「ヘルティウス」(~193年3月28日近衛隊による暗殺)
- 193年1月21日-08:00|中国| ||後漢・初平3年12月|曹操、済北で青州黄巾賊が降伏してきたため、兵30余万、人民100余万を配下に治め青州兵を編成
- 193年2月19日-08:00|中国| ||後漢・初平4年春|曹操が匡亭の劉詳を撃破し、救援に来た袁術の軍も破る/袁術は襄邑に退却、曹操は襄邑を攻め落とし、さらに袁術が逃亡した太寿を包囲して、水攻め/袁術は寧陵へ逃亡、曹操が寧陵を攻めると九江へ逃走
- 193年2月19日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||後漢・初平4年;新羅・伐休10年正月1日|朔、日食があった
- 193年3月21日-08:00|中国| ||後漢・初平4年2月|袁紹が呂布を使って、黒山賊の張燕を撃破
- 193年3月28日-01:00|イタリア| ||<死去>ローマ皇帝「ヘルティウス」ローマのパラティヌス丘で親衛隊に殺害される/66歳(誕生01260801)
- 193年3月28日-01:00|イタリア| ||<即位>ローマ皇帝「デイティウス・ユリアヌス」親衛隊を買収(~6月1日近衛隊による暗殺)
- 193年4月9日-01:00|イタリア| ||<即位>ローマ皇帝「セプティミウス・セウルス」軍団の支持を得て(~2110204自然死)
- 193年4月19日-08:00|中国| ||後漢・初平4年3月|陶謙、兗州泰山郡の華・費県を攻略、任城国に侵攻
- 193年4月19日-08:00|中国| ||後漢・初平4年3月|袁術が揚州刺史の陳温を殺害し、淮南一帯に勢力を確保
- 193年6月1日-01:00|イタリア| ||<死去>ローマ皇帝「デイティウス・ユリアヌス」パラティヌス丘の宮殿で近衛隊により暗殺される/60歳(誕生01330130)
- 193年7月17日-08:00|中国| ||後漢・初平4年6月|下邳賊闕宣が天子を自称した
- 193年10月14日-08:00|中国| ||後漢・初平4年9月|曹操、徐州に攻め込み、第一次陶謙征討/徐州南部で虐殺/澎城国に駆けつけた陶謙が曹操に大敗(澎城の戦い)
- 193年11月12日-08:00|中国| ||後漢・初平4年10月|公孫讚が大司馬の劉虞を撃破処刑する
- 194年-05:30|インド| ||南インドのアンドラ王国が分裂
- 194年-01:00|イタリア/イラン| ||ローマ軍、ケンタウロン攻略
- 194年2月9日-08:00|中国| ||後漢・初平5年|この歳、揚州刺史の劉劭が袁術の將の孫策と曲阿で戦い、劉劭軍が敗績した、孫策は遂に江東に拠った
- 194年2月21日-08:00|中国| ||後漢・興平1年正月13日|興平と改元
- 194年4月9日-08:00|中国| ||後漢・興平1年3月|韓遂、馬騰が郭汜、樊稠と長平観で戦いを興し、韓遂、馬騰は敗績した、左中郎将劉范、前益州刺史種劭が戦死
- 194年4月9日-08:00|中国| ||後漢・興平1年3月|曹操、陶謙と和解して徐州より撤退
- 194年4月9日-08:00|中国| ||後漢・興平1年3月|袁術が周昕を倒して、丹陽郡を占領
- 194年5月8日-08:00|中国| ||後漢・興平1年夏|第二次陶謙征討/曹操、徐州で虐殺を行う/曹操、泰山方面から徐州北方へ侵攻、華県を含む5城を陥落させ、東海まで赴く
- 194年7月6日-08:00|中国| ||後漢・興平1年6月|兗州で張超・張貌・陳宮、呂布を引入れて謀叛/夏侯惇は呂布と交戦。呂布は濮陽城へ行き、曹操は連絡を受けて軍を引き返し、濮陽城を攻撃(濮陽城の戦い)青州兵が撃破される
- 194年7月6日-08:00|中国| ||後漢・興平1年6月1日|涼州の河西四郡を分けて靡州とした

## 0200迄 (1588件)

- 194年8月4日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||後漢・興平1年;新羅・伐休11年6月30日|晦,日食があった
- 194年9月3日-08:00|中国| ||後漢・興平1年8月|陶謙が病死
- 194年9月3日-08:00|中国| ||後漢・興平1年8月|馮翊の羌が叛いて,属県を寇した,郭汜,樊稠がこれを撃破した
- 194年10月3日-08:00|中国| ||後漢・興平1年9月|「廬江郡」の陸康が袁術に謀反/「丹陽郡」の劉玘も袁術から離反/吳景・孫賁は丹陽郡から退却
- 194年12月30日-08:00|中国| ||後漢・興平1年12月|安定を分け,扶風を新平郡とした
- 194年12月30日-08:00|中国| ||後漢・興平1年12月|漁陽郡で劉虞の旧臣たちが挙兵
- 194年12月30日-08:00|中国| ||後漢・興平1年12月|曹操と呂布,濮陽の戦いの決着がつかず,兵を引く
- 195年-05:30|スリヤカ| ||<即位>アヌラダプラ王国国王Cula Nagaの兄弟「Kuda Naga」(~196年)
- 195年1月29日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・興平2年|<死去>南匈奴単于「持至尸逐侯単于(於夫羅)」
- 195年1月29日-08:00|モンゴル/中国| ||後漢・興平2年|<即位>南匈奴単于「呼廚泉単于(呼廚泉)」持至尸逐侯単于の弟(~216年7月魏に入朝)
- 195年1月29日-08:00|中国| ||後漢・興平2年1月|曹操,定陶を攻めるが,濟陰太守吳資が籠もって落とせず/攻城中に呂布が来襲したため,これを撃破
- 195年3月2日-08:00|中国| ||後漢・興平2年2月3日|李傕は樊稠を殺害し,而して郭汜と相い攻めあった
- 195年3月29日-08:00|中国| ||後漢・興平2年3月|孫策が陸康を倒して,「廬江郡」を平定
- 195年5月23日-08:00|中国| ||後漢・興平2年4月26日|郭汜は李傕を攻め,矢が御前に及んだ/この日,李傕は帝を北塙にうつした
- 195年5月27日-08:00|中国| ||後漢・興平2年5月|孫策が長江を渡河して劉玘攻撃を開始/牛渚を攻略
- 195年5月27日-08:00|中国| ||後漢・興平2年5月|袁紹は将の曲義を遣わし公孫珪と鮑丘で戦いを興し勝利
- 195年8月24日-08:00|中国| ||後漢・興平2年7月|曹操が鉅野を攻撃/救援に来た呂布を撃破/勢いに乗った曹操が定陶を攻略(定陶の戦い)
- 195年8月24日-08:00|中国| ||後漢・興平2年7月1日|張済は(自ら)陝よりやって来て李傕,郭汜を和睦させた
- 195年11月20日-08:00|中国| ||後漢・興平2年10月|朱治,孫策の命を受け呉郡太守許貢を追い払い,呉郡を乗っ取る
- 195年11月20日-08:00|中国| ||後漢・興平2年10月1日|楊定,楊奉が郭汜と戦いを興し,之を破った
- 195年11月24日-08:00|中国| ||後漢・興平2年10月5日|張済が復た反って,李傕,郭汜を連合させた
- 195年12月20日-08:00|中国| ||後漢・興平2年11月|孫策が曲阿を陥落させて,劉玘が逃亡/「丹陽郡」平定
- 195年12月22日-08:00|中国| ||後漢・興平2年11月3日|李確・郭汜・張済軍が献帝一行を襲撃して撃破(曹陽の戦い)
- 195年12月24日-08:00|中国| ||後漢・興平2年11月5日|楊奉,董承は白波賊の軍団を引き込み胡才,李樂,韓暹及び匈奴の左賢王去卑は軍を率いて奉迎し,李傕等と戦いを興し,之を破った
- 196年-05:30|スリヤカ| ||<即位>アヌラダプラ王国国王「Siri Naga1世」Kuda Nagaの義理の兄弟(~215年)
- 196年-01:00|イタリヤ/イラン| ||ガリアでの反乱鎮圧のためにセルスが西へ向かうと,ゲオルギウス5世は反撃に転じたが,従属王国の一つアバネ王国の王カルセスの反乱が発生したためこれを攻撃してカルセスを殺した
- 196年1月18日-08:00|中国| ||後漢・興平2年12月|この頃臧洪は袁紹に謀反/袁紹はこれを攻め捕らえ処刑
- 196年1月18日-08:00|中国| ||後漢・興平2年12月|曹操,雍丘を攻め落とし,張超は自殺/曹操,陳を攻略
- 196年2月10日-08:00|中国| ||後漢・興平2年12月24日|李傕等らが再び来寇して戦いとなり,王師は大敗,少府の田芬,大司農の張義等が皆戦歿した
- 196年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建安1年1月|曹操,武平を攻め,袁術が任命した陳国相袁嗣は降伏
- 196年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建安1年1月|呂布,袁術の要請を受けて張飛のいた沛を攻略,徐州牧を称する
- 196年2月17日-08:00|中国| ||後漢・建安1年1月|袁術が胎・淮陰を攻略するが,劉備は淮水を盾に迎撃(淮陰の戦い)
- 196年2月23日-08:00|中国| ||後漢・建安1年正月7日|建安と改元
- 196年3月17日-08:00|中国| ||後漢・建安1年2月|曹操が潁川郡・汝南郡へ侵攻し占領
- 196年3月17日-08:00|中国| ||後漢・建安1年2月|曹操,黄巾残党の何儀,何曼,劉辟,黄劭を攻め,劉辟・何儀は降伏
- 196年3月17日-08:00|中国| ||後漢・建安1年2月|呂布が下邳城を乗っ取る/劉備は呂布に降伏し小沛へ移る
- 196年3月17日-08:00|中国| ||後漢・建安1年2月|臧洪が袁紹に対して謀反するが鎮圧される
- 196年4月16日-08:00|中国| ||後漢・建安1年3月|孫策が会稽郡・呉郡を攻略
- 196年5月15日-09:00|韓国| ||新羅・奈解1年4月|<即位>新羅王「奈解尼師今」(~230年)
- 196年5月15日-09:00|韓国| ||新羅・伐休13年4月|<退位>新羅王「伐休尼師今」
- 196年5月15日-08:00|中国| ||後漢・建安1年4月|曹操が屯田制を開始
- 196年6月14日-08:00|中国| ||後漢・建安1年5月|卞融が朱皓(豫章郡太守)を暗殺して豫章郡を乗っ取る/卞融は劉玘に滅ぼされる
- 196年7月14日-08:00|中国| ||後漢・建安1年6月|呂布の部将の萌が叛乱を起こす/高順と曹性が萌を殺して鎮圧
- 196年8月12日-08:00|中国| ||後漢・建安1年7月|楊奉らが離反し梁へ移る/曹操,荀彧の説得を受け,献帝を迎えに軍勢を率いて洛陽に入り,韓暹は逃亡
- 196年10月7日-08:00|中国| ||後漢・建安1年8月27日|曹操が献帝を奉戴して許昌へ遷都
- 196年10月10日-08:00|中国| ||後漢・建安1年9月|華軻(豫章郡太守)が虞翻の説得を受けて孫策に降伏
- 196年11月9日-08:00|中国| ||後漢・建安1年10月|曹操,楊奉を攻め,楊奉は袁術の元へ逃亡/楊奉の拠点だった

## 梁は陥落

- 196年11月9日-08:00|中国| ||後漢・建安1年10月|呂布が小沛の劉備を攻撃/敗北した劉備は曹操の下へ逃亡
- 196年12月8日-08:00|中国| ||後漢・建安1年11月|張済が南陽郡へ侵攻して戦死する/甥の張紇が軍勢を引き継ぐ落
- 197年-07:00|ベトナム| |||ヴェトナムに仏教が伝わる
- 197年-05:30|インド| |||<死去>インド・スキタイ王国(西クシャトラパ)「ルトラム1世」
- 197年-05:30|インド| |||<即位>インド・スキタイ王国(西クシャトラパ)「ジヴァダマン」(~199年)
- 197年-01:00|イタリヤ/イラン| |||セウリスが再び前線に戻り、パルティア領内に侵入/ウホカセ5世はケシフォンまで撤退
- 197年-01:00|イタリヤ| |||テルリアヌスの「護教論」になる
- 197年2月5日-08:00|中国| ||後漢・建安2年|<死去>後漢・陳国「陳愍王劉寵」殺害される
- 197年2月5日-08:00|中国| ||後漢・建安2年正月|<即位>仲皇帝「袁術」/寿春を都とする
- 197年2月5日-08:00|中国| ||後漢・建安2年1月|曹操、宛に進出/宛城の張繡は一旦降伏
- 197年2月19日-01:00|フランス| |||フランス、セウリスが副帝アルビヌスを撃破
- 197年5月-09:00|朝鮮| ||高句麗・故国川1年12月|<死去>高句麗王「故国川王」
- 197年5月-09:00|朝鮮| ||高句麗・故国川1年12月|<即位>高句麗王「山上王」(~227.5死去)
- 197年6月3日-08:00|中国| ||後漢・建安2年5月|張紇が挙兵し曹操軍を襲撃、曹操大敗(宛城の戦い)/曹操は舞陰に退却、は勢いに乗じて進出したが曹操はこれを撃破、張繡は穰に逃亡
- 197年9月30日-08:00|中国| ||後漢・建安2年9月|袁術、陳に攻め込むが、曹操はこれを迎撃/袁術は逃走し曹操、許に戻る/曹操が帰還すると、南陽と章陵の諸県が背いて曹操、曹洪を派遣するが勝てず
- 197年11月28日-08:00|中国| ||後漢・建安2年11月|曹操、宛に進出/劉表の將鄧済を湖陽に攻める。湖陽と舞陰を陥落させ、鄧済を捕らえる
- 198年-07:00|カンボジア| |||<即位>扶南王「ハンパン」(~201年)
- 198年-04:00|アルメニア| |||<即位>アルメニア王(アルサス朝)「コスロ1世」(~217年死去)
- 198年-03:30|イラン| |||ウホカセ5世が劣勢となり更に退却したためケシフォンはローマに占領された/しかし補給部隊を叩いてローマ軍を撤退に追い込むことに成功し、戦争は終結
- 198年5月24日-08:00|中国| ||後漢・建安3年4月|謁者裴茂を遣わし、中郎将段熲を率いさせて李枏を討ち、その三族を処刑した
- 198年6月22日-08:00|中国| ||後漢・建安3年5月|劉表、穰に援軍を送り、曹操軍の背後を絶とうとしたため、曹操は退却/追撃してきた軍に対し、配置していた伏兵で撃破
- 198年8月20日-08:00|中国| ||後漢・建安3年7月|呂布と袁術が再び同盟し、呂布は高順を派遣して劉備を攻め、劉備は敗北
- 198年10月18日-08:00|中国| ||後漢・建安3年9月|呂布が劉備のこもる沛城を陥落させる/劉備は逃走し、劉備の妻子が捕虜となる
- 198年11月17日-08:00|中国| ||後漢・建安3年10月|曹操、彭城を攻め落とし、侯諧を捕らえる/呂布は迎撃に出撃するが敗北/呂布は再度出撃敗北し、籠城戦
- 199年1月15日-08:00|中国| ||後漢・建安3年12月|曹操、瑯邪・北海・東海を割いて城陽・利城・昌慮の3郡を設置
- 199年2月7日-08:00|中国| ||後漢・建安3年12月24日|城水攻め約1ヶ月で、呂布、高順ら生け捕られる/曹操、呂布・高順・陳宮を処刑/劉備は妻子を取り戻す
- 199年3月13日-09:00|韓国| ||後漢・建安4年正月28日|<即位>伽耶王「居登王(道王)」(~2530917死去)
- 199年4月14日-08:00|中国| ||後漢・建安4年3月|袁紹軍、易京を攻め落とす(易京の攻防戦)公孫讃は自殺
- 199年5月13日-08:00|中国| ||後漢・建安4年4月|曹操、軍を黄河南岸に進め、曹仁と史渙を渡河させ攻撃/薛洪、犬城で曹仁、史渙らと遭遇して敗死/薛洪、繆尚は降伏
- 199年7月11日-08:00|中国| ||後漢・建安4年6月|<死去>仲皇帝「袁術」病死
- 199年7月11日-08:00|中国| ||後漢・建安4年6月|この頃、袁術の配下だった楊弘・張勳らが廬江太守の劉勳と衝突/孫策は劉勳と同盟して上繚の宗民(宗教勢力)を攻めさせ、その間に廬江を攻め落とす
- 199年7月11日-08:00|中国| ||後漢・建安4年6月|劉備、曹操から独立/昌霸が叛乱を起こし、各郡県がこれにあわせて劉備に味方
- 199年7月28日-01:00|パチカン| |||<死去>第14代ローマ教皇「ウイクトル1世」
- 199年7月28日-01:00|パチカン| |||<就任>第15代ローマ教皇「ゼファリヌス」(~02171220死去)
- 199年8月10日-09:00|韓国| ||百済・肖古王34年;新羅・奈解4年7月|百済が国境侵入した
- 199年9月8日-08:00|中国| ||後漢・建安4年8月|曹操、軍を黎陽に進める/また、臧覇らを青州に侵攻させ、斉・北海・東安の諸郡を撃破
- 200年-05:30|インド| |||<即位>インド・スキタイ王国(西クシャトラパ)「ルトラセナ1世」(~222年)
- 200年-05:30|インド| |||このころ「ヤージュニヤヴァルキヤ法典」、「サツタイ」成立
- 200年-03:00|イラク| |||<死去>アテバネ王「ナルセス」ウホカセ5世に反逆して殺される
- 200年-03:00|サジアラビア| |||阿克苏王国の軍隊がアラビア半島に進出
- 200年 06:00|グアテマラ/メキシコ| |||ティオティワカン王国が、カナルフをふくむグアテマラ南部を制圧。グアテマラ高地にティオティワカンの影響を受けたマ古典期文明が栄える
- 200年1月4日-08:00|中国| ||後漢・建安4年12月|この頃、孫策、周瑜を中護軍・江夏太守に任じ、共に皖を攻め落とす
- 200年1月4日-08:00|中国| ||後漢・建安4年12月|この頃、劉備、袁紹に孫乾を派遣して盟を結ぶ/曹操、劉岱と王忠を劉備討伐に向かわせるが、敗北

0200迄 (1588件)

- 200年1月14日-08:00|中国| ||後漢・建安4年12月11日|孫策、黄祖の軍陣を撃破し黄祖は逃亡/孫策はその妻子7人を捕らえ、劉虎・韓晞を殺して江南をほぼ平定
- 200年2月3日-08:00|中国| ||後漢・建安5年|<就任>後漢・南陽国「南陽王劉馮」(~200年)
- 200年2月3日-08:00|中国| ||後漢・建安5年1月|劉備が曹操に敗北し、袁紹を頼る/関羽が曹操の捕虜となる
- 200年2月11日-08:00|中国| ||後漢・建安5年正月9日|董承らの曹操暗殺計画発覚、関係者全員処刑
- 200年5月2日-08:00|中国| ||後漢・建安5年4月|この頃、孫策、丹徒にて刺客の手にかかり、死亡/後事を弟の孫権に託す
- 200年5月2日-08:00|中国| ||後漢・建安5年4月|曹操、張遼と関羽をして白馬で顔良を撃破/曹操、南阪で文醜・劉備の軍勢を破り文醜を殺す(白馬・南阪の戦い)
- 200年8月28日-08:00|中国| ||後漢・建安5年8月|この頃、袁紹、劉備を曹操の背後に派遣/曹操は曹仁に騎兵を率いさせて劉備を破り、劉備に付いた諸県を平定後、袁紹が西方の道路を遮断するために派遣した韓荀を撃破/曹仁は史渙と合流して袁紹の輜重車を焼き払う
- 200年8月28日-08:00|中国| ||後漢・建安5年8月|袁紹、丘陵沿いに東西数十里の陣営をしく/曹操も約1万の兵で対陣するが敗北して退却
- 200年9月26日-08:00|中国| ||後漢・建安5年9月|曹操は袁紹と官度で戦いを興し、袁紹が敗
- 200年9月26日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・奈解5年9月1日|朔、日食があった
- 200年10月26日-08:00|中国| ||後漢・建安5年10月|<死去>後漢・東海国「東海懿王劉祗」
- 200年10月26日-08:00|中国| ||後漢・建安5年10月|<就任>後漢・東海国「崇徳侯劉羨」(~220年(延康元年))
- 200年11月17日-08:00|中国| ||後漢・建安5年10月23日|曹操、自ら烏巢の食糧基地を攻めてこれを攻め落とす/高覧が曹操に降伏し、袁紹軍は総崩れ(官渡攻防戦)